秋田県文化財調査報告書第482集

北楢岡中野遺跡

－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－

２０１２・１０

秋 田 県 教 育 委 員 会

シンボルマークは、北秋田市白坂（しろざか）遺跡出土の
「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7㎝、凝灰岩。

北楢岡中野遺跡

きたならおかなかのいせき

－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－

２０１２・１０

秋 田 県 教 育 委 員 会

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これら埋蔵文化財の保存・継承と積極的活用は、地域社会の歴史や文化に親しみ、理解を深め、ふるさとを愛する人づくりにつながります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備は、地域が活発に交流・連携する秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会では、これら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に先だって、平成22年度と平成23年度に実施した北楢岡中野遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査の結果、中世の竪穴建物跡、掘立柱建物跡、かまど状遺構、井戸跡等の遺構や、縄文時代の石器、平安時代の土師器・須恵器、中世と近世の陶磁器等の遺物が発見されました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり御協力をいただきました国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所、大仙市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成24年10月

秋田県教育委員会

教　育　長　米　田　　進

例　　言

1　本書は、一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に伴い、平成22（2010）年度と平成23（2011）年度に発掘調査した北楢岡中野遺跡の発掘調査報告書である。また、同事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書の４冊目である。

2　調査の内容については、すでにその一部が埋蔵文化財センター年報などによって公表されているが、本書を正式なものとする。

3　北楢岡中野遺跡（きたならおかなかのいせき）の所在地は、秋田県大仙市北楢岡字中野184外・下中野33外である。遺跡略番号は７ＫＮＯＮＮである。

4　発掘調査の原因は、国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所が所轄する一般国道13号神宮寺バイパス建設事業である。

5　発掘調査は、秋田県教育委員会が国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所から調査の依頼を受けて、秋田県埋蔵文化財センターが平成22（2010）年度と平成23（2011）年度に実施した。調査期間・面積・主体者・担当班・担当者は以下のとおりである。

（１）平成22（2010）年度

調 査 期 間　　平成22年７月26日～ 11月19日
調 査 面 積　　8,900㎡
調査主体者　　秋田県教育委員会
調査担当班　　秋田県埋蔵文化財センター調査班
調査担当者　　栗澤光男（副主幹）、高橋和成（文化財主事）、深沢恵理子（調査・研究員）、菅原博志（調査・研究員）

（２）平成23（2011）年度

調 査 期 間　　平成23年６月20日～８月８日
調 査 面 積　　2,000㎡
調査主体者　　秋田県教育委員会
調査担当班　　秋田県埋蔵文化財センター調査班
調査担当者　　栗澤光男（副主幹）、佐々木尚人（学芸主事）

6　本書に使用した地形図は、国土地理院発行の50,000分の１『大曲』・『刈羽野』、国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所提供の1,000分の１工事路線計画図である。

7　遺跡基本層位と遺構土層中の土色の色調表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖』によった。

8　本書に使用した空中写真は、昭和62（1987）年国土地理院撮影によるものを（財）日本地図センターより購入したものである。

9　第４章の「理化学的分析」は、株式会社パレオラボに分析を委託した成果報告である。

10　本書の執筆は、平成22年度分を栗澤光男、高橋和成、平成23年度分を栗澤光男、佐々木尚人が行った。

11　本書の編集は、栗澤光男が行った。

12　発掘調査では、国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所、大仙市教育委員会の協力を得た。

凡　　例

1　遺構番号は、その種類ごとに下記の略記号を付し、検出順に通し番号を付したが、後に検討の結果、遺構ではないと判断したものは欠番とした。

ＳＢ・・・掘立柱建物跡　　ＳＫＩ・・・竪穴建物跡　　ＳＯ・・・かまど状遺構
ＳＮ・・・焼土遺構　　ＳＥ・・・・井戸跡　　ＳＫ・・・土坑
ＳＤ・・・溝跡　　ＳＫＰ・・・柱穴様ピット

2　調査区の基本層位にはローマ数字を、遺構の堆積土には算用数字を使用した。

3　挿図中の遺物番号は、遺構内外の出土を問わず通し番号を付した。

4　土器の拓影配置は、表裏を採拓した場合は、断面の左側に裏面、右側に表面を配置した。表面だけ採拓した場合は、断面の左側に配置した。

5　挿図に使用したスクリーントーンは、下記のとおりである。

焼土

炭化物

釉

砥石の擦

目　　次

序
例言・凡例
目次
第１章　調査の経過 …… 1
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　発掘調査の経過 …… 3
　第３節　整理作業の経過 …… 6
第２章　遺跡の位置と環境 …… 7
　第１節　地理的環境 …… 7
　第２節　歴史的環境 …… 8
第３章　調査の方法と成果 …… 12
　第１節　調査の方法 …… 12
　第２節　基本層序 …… 12
　第３節　検出遺構と出土遺物 …… 18
　　１　Ａ区の検出遺構と出土遺物 …… 18
　　２　Ａ区の遺構外出土遺物 …… 22
　　３　Ｂ区の検出遺構と出土遺物 …… 23
　　４　Ｂ区の遺構外出土遺物 …… 74
　　５　Ｃ区の検出遺構と出土遺物 …… 75
　　６　Ｃ区の遺構外出土遺物 …… 106
　　７　Ｄ区の検出遺構と出土遺物 …… 112
　　８　Ｄ区の遺構外出土遺物 …… 118
第４章　理化学的分析 …… 119
　第１節　放射性炭素年代測定 …… 119
　第２節　北楢岡中野遺跡出土炭化材の樹種同定 …… 122
第５章　総括 …… 125
図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　路線と遺跡 …… 2
第２図　遺跡位置図 …… 7
第３図　北楢岡中野遺跡(24)と周辺遺跡位置図 …… 9
第４図　調査区と周辺地形図 …… 13
第５図　グリッド設定図 …… 14
第６図　調査区の基本層位図（１） …… 16
第７図　調査区の基本層位図（２）と基本層位抽出地点図 …… 17
第８図　Ａ区遺構配置図 …… 19
第９図　ＳＤ01・02・04 …… 20
第10図　ＳＤ03 …… 21
第11図　遺構外出土遺物 …… 22
第12図　ＳＢ625 …… 24
第13図　Ｂ区遺構配置図（１） …… 25・26
第14図　Ｂ区遺構配置図（２） …… 27・28
第15図　ＳＫＩ633 …… 30
第16図　ＳＫＩ638 …… 31
第17図　ＳＯ537・538 …… 33
第18図　ＳＯ540・541・542 …… 35
第19図　ＳＯ547・548・549 …… 37
第20図　ＳＯ562・563・564・565 …… 39
第21図　ＳＯ587・594・595・601 …… 41
第22図　ＳＯ603・604・606 …… 43
第23図　ＳＯ607・608・610・611・612 …… 45
第24図　ＳＯ613・614・618 …… 47
第25図　ＳＯ620・621・622 …… 49
第26図　ＳＯ626・637・644、ＳＫ642 …… 51
第27図　ＳＮ539・609 …… 53
第28図　ＳＥ546・577・586・600、ＳＫ588 …… 55
第29図　ＳＥ599・617・624、遺構内出土遺物 …… 57
第30図　ＳＥ631・634・635・636 …… 59
第31図　ＳＥ639・645・660・701、ＳＫ627 …… 61
第32図　ＳＫ551・553・561・589 遺構内出土遺物 …… 63

第33図　ＳＫ597・598・605・615・616 ……65
第34図　ＳＫ619・628・629・630・632 ……67
第35図　ＳＫ643・648 ……69
第36図　ＳＤ526・592・593 ……71
第37図　遺構外出土遺物 ……74
第38図　Ｃ区遺構配置図（１） …… 77•78
第39図　Ｃ区遺構配置図（２） ……79
第40図　Ｃ区遺構配置図（３） ……80
第41図　Ｃ区遺構配置図（４） ……81
第42図　ＳＥ104・153・154・155・261 ……82
第43図　遺構内出土遺物 ……83
第44図　ＳＫ147・180・488 ……85
第45図　ＳＤ101・105・106・221・352・363 ……87
第46図　ＳＤ267・351 ……89
第47図　ＳＫＰ138・173・178・201 ……91
第48図　ＳＫＰ212・213・240・266・368・375 ……92
第49図　遺構内出土遺物（１） …… 102
第50図　遺構内出土遺物（２） …… 103
第51図　遺構内出土遺物（３） …… 104
第52図　遺構内出土遺物（４） …… 105
第53図　遺構外出土遺物（１） …… 107
第54図　遺構外出土遺物（２） …… 108
第55図　遺構外出土遺物（３） …… 110
第56図　遺構外出土遺物（４） …… 111
第57図　Ｄ区遺構配置図 …… 113
第58図　ＳＫＩ02、ＳＫ06 …… 114
第59図　ＳＫ01、ＳＤ03 …… 116
第60図　ＳＤ04・05 …… 117
第61図　遺構外出土遺物 …… 118
第62図　暦年較正結果 …… 121
第63図　北楢岡中野遺跡出土炭化材の
　　走査型電子微鏡写真 …… 124
　1a-1c. スギ(No.3)　2a-2c. ヤナギ属(No.2)
　3a-3c. ケヤキ(No.1)　4a. タケ亜科(No.5)
　5a. イネ科(No.4)
　ａ：横断面・ｂ：接線断面・ｃ：放射断面

表　目　次

第１表　北楢岡中野遺跡周辺遺跡一覧表 ……10
第２表　ＳＢ625柱穴一覧表 ……23
第３表　ＳＫＩ633柱穴一覧表 ……29
第４表　ＳＫＩ638柱穴一覧表 ……29
第５表　Ｂ区柱穴様ピット観察表（１） ……72
第６表　Ｂ区柱穴様ピット観察表（２） ……73
第７表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（１） ……93
第８表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（２） ……94
第９表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（３） ……95
第10表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（４） ……96
第11表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（５） ……97
第12表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（６） ……98
第13表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（７） ……99
第14表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（８） …… 100
第15表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（９） …… 101
第16表　測定資料および処理 …… 119
第17表　放射性炭素年代測定
　　および暦年較正の結果 …… 120
第18表　北楢岡中野遺跡
　　出土炭化材の樹種同定 …… 122
第19表　北楢岡中野遺跡
　　出土炭化材の樹種同定 …… 124

図版目次

図版１　遺跡遠景上空から（真上）：1987年国土地理院撮影
図版２　１ 遺跡遠景神宮寺岳から（南東→）　２ 遺跡遠景上空から（北東→）
図版３　１ Ａ区 調査前の様子（北西→）　２ Ａ区 調査前の様子（南西→）
　　３ Ａ区 調査後の様子（北西→）　４ Ａ区 調査後の様子（南西→）
　　５ Ａ区 ＳＤ01（北東→）　６ Ａ区 ＳＤ02（北→）
　　７ Ａ区 ＳＤ04（南西→）
図版４　１ Ｂ区 調査前の様子（南東→）　２ Ｂ区 調査前の様子（北西→）
　　３ Ｂ区 中央部調査前の様子（北西→）　４ Ｂ区 北部調査後の様子（南東→）
　　５ Ｂ区 中央部調査後の様子（北西→）　６ Ｂ区 ＳＢ625（北西→）
　　７ Ｂ区 ＳＫＩ633（北東→）　８ Ｂ区 ＳＫＩ638（南東→）
図版５　１ Ｂ区 ＳＯ537（北東→）　２ Ｂ区 ＳＯ538（北東→）　３ Ｂ区 ＳＯ541（北西→）
　　４ Ｂ区 ＳＯ542（北西→）　５ Ｂ区 ＳＯ547（南西→）　６ Ｂ区 ＳＯ548（北西→）
　　７ Ｂ区 ＳＯ549（南東→）　８ Ｂ区 ＳＯ562（北→）　９ Ｂ区 ＳＯ565（北東→）
　　10 Ｂ区 ＳＯ587（南→）　11 Ｂ区 ＳＯ594（東→）　12 Ｂ区 ＳＯ595（南→）
　　13 Ｂ区 ＳＯ601（南東→）　14 Ｂ区 ＳＯ603（南西→）　15 Ｂ区 ＳＯ604（北東→）

図版６　１ Ｂ区 ＳＯ606(南→)　２ Ｂ区 ＳＯ607(南→)　３ Ｂ区 ＳＯ608(南東→)
４ Ｂ区 ＳＯ610(東→)　５ Ｂ区 ＳＯ611(北西→)　６ Ｂ区 ＳＯ612(東→)
７ Ｂ区 ＳＯ613(南→)　８ Ｂ区 ＳＯ614(西→)　９ Ｂ区 ＳＯ618(南東→)
10 Ｂ区 ＳＯ620(南東→)　11 Ｂ区 ＳＯ621(南東→)　12 Ｂ区 ＳＯ622(南東→)
13 Ｂ区 ＳＯ626(南東→)　14 Ｂ区 ＳＯ637(南西→)　15 Ｂ区 ＳＯ644(東→)
図版７　１ Ｂ区 ＳＮ609(南西→)　２ Ｂ区 ＳＥ546(北西→)　３ Ｂ区 ＳＥ577(南→)
４ Ｂ区 ＳＥ586(南西→)　５ Ｂ区 ＳＥ599(南東→)
６ Ｂ区 ＳＥ600、ＳＫ588(南東→)　７ Ｂ区 ＳＥ617(南→)
８ Ｂ区 ＳＥ624(南西→)　９ Ｂ区 ＳＥ631(南→)　10 Ｂ区 ＳＥ634(南西→)
11 Ｂ区 ＳＥ636(南→)　12 Ｂ区 ＳＥ639(北西→)
13 Ｂ区 ＳＥ645、ＳＫ627(南西→)　14 Ｂ区 ＳＥ660(南東→)
15 Ｂ区 ＳＥ701(西→)
図版８　１ Ｂ区 ＳＫ551(北西→)　２ Ｂ区 ＳＫ553(南→)　３ Ｂ区 ＳＫ561(南東→)
４ Ｂ区 ＳＫ589(南→)　５ Ｂ区 ＳＫ597(南西→)　６ Ｂ区 ＳＫ598(南→)
７ Ｂ区 ＳＫ605(南東→)　８ Ｂ区 ＳＫ615(南西→)　９ Ｂ区 ＳＫ616(南西→)
10 Ｂ区 ＳＫ619(南→)　11 Ｂ区 ＳＫ628(北西→)　12 Ｂ区 ＳＫ629(北西→)
13 Ｂ区 ＳＫ630(北西→)　14 Ｂ区 ＳＫ632(北東→)　15 Ｂ区 ＳＫ642(東→)
図版９　１ Ｃ区 調査前の様子(南東→)　２ Ｃ区 調査前の様子(北西→)
３ Ｃ区 調査後の様子(南東→)　４ Ｃ区 調査後の様子(北西→)
５ Ｃ区 ＳＥ104(南→)　６ Ｃ区 ＳＥ153(南→)
７ Ｃ区 ＳＥ154(東→)　８ Ｃ区 ＳＥ261(南→)
図版10　１ Ｃ区 ＳＫ147(南→)　２ Ｃ区 ＳＫ488(南→)
３ Ｃ区 ＳＤ101(南西→)　４ Ｃ区 ＳＤ105(西→)
５ Ｃ区 ＳＤ106(南→)　６ Ｃ区 ＳＤ267(北西→)
７ Ｃ区 ＳＤ351(東→)　８ Ｃ区 ＳＤ352・363(南西→)
図版11　１ Ｄ区全景 調査後の様子(南→)
２ Ｄ区 ＳＫＩ02(南西→)　３ Ｄ区 ＳＫ01(南東→)　４ Ｄ区 ＳＫ06(南西→)
５ Ｄ区 ＳＤ03(北西→)　６ Ｄ区 ＳＤ04(北東→)　７ Ｄ区 ＳＤ05(北西→)
図版12　出土遺物
図版13　出土遺物
図版14　出土遺物
図版15　木製品
図版16　木製品

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

一般国道13号は、福島県福島市を起点として山形県山形市・新庄市、秋田県湯沢市・横手市・大仙市等の主要都市を経て秋田市に至る総延長314.6kmの主要幹線道路である。

大仙市大曲・神岡地域を通過する一般国道13号は、沿道地域の開発、地域間交流の増大等によって交通量が増加し、市街地での走行速度の低下、渋滞の発生、冬期の積雪による幅員狭小等、広域幹線道路としての機能が低下している。一般国道13号神宮寺バイパスは、これらの問題を解消するとともに、平成13年度に完成した刈和野バイパス及び大曲バイパスと一体的に機能し、大仙都市圏の産業・経済・文化の一層の発展と人口の定着による生活改善を図るために計画された路線で、大仙市花館を起点として大仙市北楢岡を終点とする延長9.6km、幅員28.0mの自動車専用道路である。

計画路線内（第１図）には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、道路工事に先立って国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所より文化財保護法に基づいて、埋蔵文化財包蔵地の確認と今後の対応について、秋田県教育委員会に調査の依頼があった。これを受けて秋田県教育委員会では、平成14（2002）年度から平成23（2011）年度まで計画路線内の分布調査を実施した。この結果、路線内に新発見の遺跡が計６遺跡あることを確認した。このため埋蔵文化財包蔵地および包蔵地と推測される地区については、今後確認調査が必要であることと、確認調査の結果で記録保存が必要な埋蔵文化財包蔵地については、発掘調査を実施すべきことを回答した。以上の経緯に基づいて、平成21・22・23（2009・2010・2011）年度に北楢岡中野遺跡の確認調査を行い、平成22・23（2010・2011）年度の２か年にわたって発掘調査を実施した。

参考文献

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第365集　2003（平成15）年

秋田県教育委員会　『薬師遺跡　－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　秋田県文化財調査報告書第388集　2005（平成17）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第413集　2006（平成18）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第420集　2007（平成19）年

秋田県教育委員会　『布田谷地遺跡　－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』　秋田県文化財調査報告書第433集　2007（平成19）年

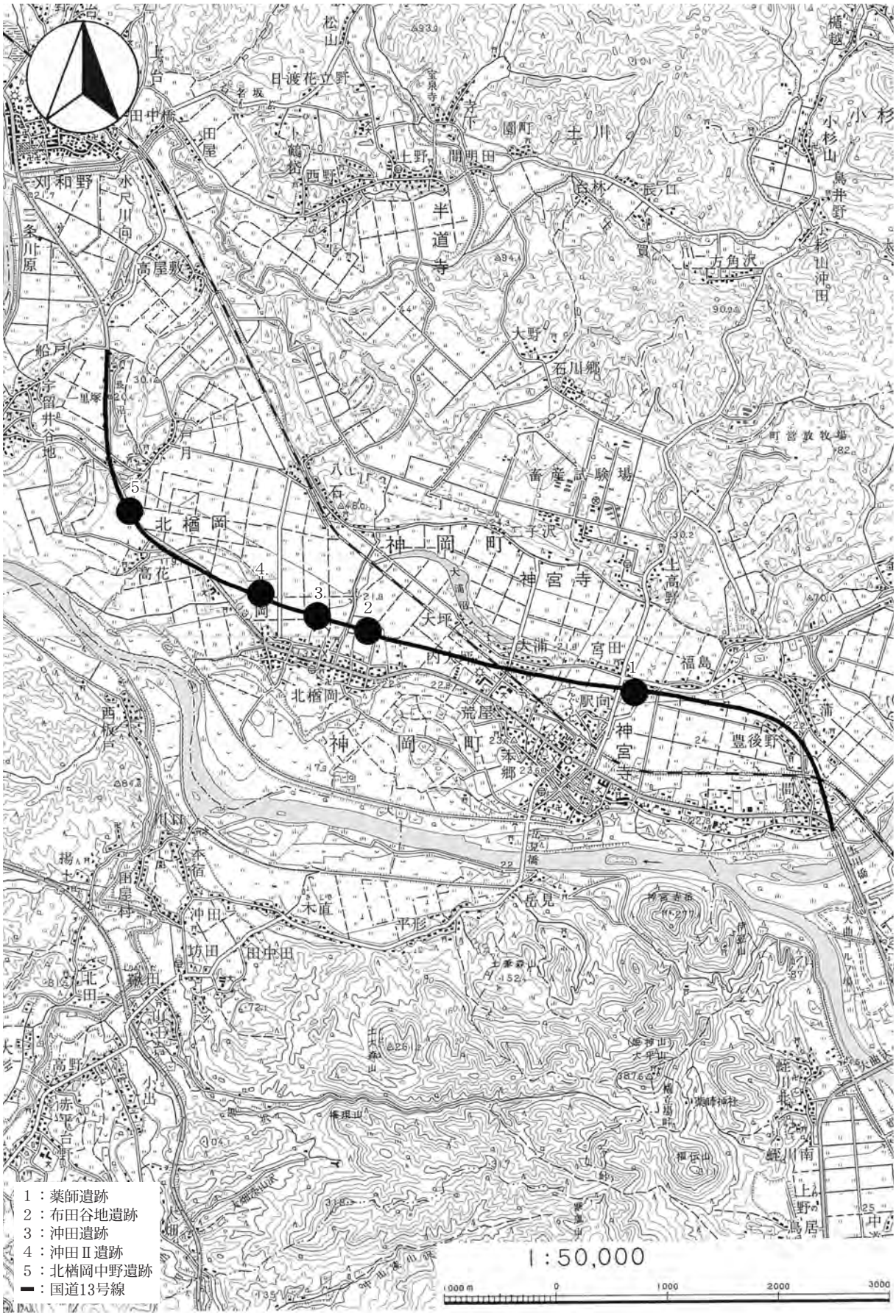
秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第439集　2008（平成20）年

秋田県教育委員会　『沖田遺跡・沖田Ⅱ遺跡　－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』　秋田県文化財調査報告書第443集　2009（平成21）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第456集　2010（平成22）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第465集　2011（平成23）年

秋田県教育委員会　『遺跡詳細分布調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第475集　2012（平成24）年


1：薬師遺跡
2：布田谷地遺跡
3：沖田遺跡
4：沖田Ⅱ遺跡
5：北楢岡中野遺跡
：国道13号線
1:50,000
1000 m
0
1000
2000
3000
北楢岡
神岡町
神宮寺
宮田
福島
荒屋
本郷
豊後野
駅向
大坪
内矢
大浦
高野
畜産試験場
町営放牧場
石川郷
大野
半道寺
土川
高屋敷
刈和野
田中橋
日渡花立野
松山
上野
西野
鶴巻
寺下
園町
長林
辰口
川一方角沢
小杉
小杉山
鳥井野
杉山沖田
船戸
宇留井谷地
戸月
高花
西板戸
本宿
沖田
坊田
田中田
木直
平形
岳見
糠田
北田
高野
赤平
小出
台野
蛭川南
上野の鳥居
中

第１図　路線と遺跡

第２節　発掘調査の経過

発掘調査は、平成22年度は７月26日から11月19日まで、平成23年度は６月20日から８月８日まで実施した。以下、調査日誌をもとに調査の経過を記す。

平成22年度

【第１週】７月26日～７月30日

26日、現場事務所の引き渡しを掘削業務委託業者である宮原組より受け、環境整備・発掘機材準備等を行う。また、前週から行っている重機による表土除去を引き続き行う。27日以降調査区の草刈りを行い、Ａ区・Ｃ区から粗掘りを開始した。

【第２週】８月２日～８月６日

前週の集中豪雨で調査区が冠水していたため、排水作業後に掘り下げを続ける。Ａ区は人力による表土除去・遺構確認作業を行い溝跡４条を確認した。Ｃ区は検出面までの粗掘り・遺構確認作業を行い溝跡１条、柱穴様ピットを検出した。

【第３週】８月９日～８月10日

Ａ区では遺構精査・写真撮影を行う。Ｃ区では遺構確認・精査作業を行う。新たに井戸跡１基、溝跡１条、柱穴様ピットを検出した。

【第４週】８月18日～８月20日

排水作業後、Ａ区・Ｃ区の作業を続ける。Ａ区は遺構精査が終わり、写真撮影・遺構実測に移る。Ｃ区は遺構確認・精査作業を行う。新たに土坑、柱穴様ピットを検出した。

【第５週】８月23日～８月27日

Ａ区は遺構実測が完了し調査を終了した。Ｃ区は北西に向かって粗掘りを進め、遺構集中地区では遺構の確認・精査作業を行う。新たに井戸跡・柱穴様ピットを検出した。

【第６週】８月30日～９月３日

Ｃ区の粗掘り及び遺構確認・精査作業を行う。粗掘りはＣ区の中央に差し掛かったが、遺構は南東側に集中しており、北西に進むにつれ徐々に遺構の検出は少なくなってきた。31日、埋蔵文化財センターで博物館実習を行っている佐藤靖典さん・青谷遙さんが来跡し実習を行う。２日、横手清陵学院総合技術科２年中市美咲さんがインターンシップのため来跡し、遺構精査などを行う。

【第７週】９月６日～９月10日

Ｃ区の粗掘り及び遺構確認・精査作業を行う。新たに井戸跡、溝跡、柱穴様ピットを検出した。

【第８週】９月13日～９月17日

Ｃ区の粗掘り及び遺構集中区の精査・実測作業を行う。Ｃ区の粗掘りは終了したためＢ区へ移行する。なおＢ区の粗掘りは北西端から南東に向かって進む。

【第９週】９月21日～９月24日

Ｂ区では粗掘り及び遺構確認作業を行う。柱穴様ピットを検出した。Ｃ区では遺構集中区の精査・実測を継続して行う。

【第10週】９月27日～ 10月１日

調査区が冠水しており排水作業を行ってから掘削作業に入る。Ｂ区では粗掘り及び遺構確認・精査作業を行う。新たに溝跡１条、柱穴様ピットを検出し、精査を進める。Ｃ区では遺構集中区の精査・実測を継続して行った。

【第11週】10月４日～ 10月８日

調査区が冠水しており排水作業を行ってから掘削作業に入る。Ｂ区では粗掘り及び遺構確認・精査作業を行う。新たにかまど状遺構を２基検出した。

【第12週】10月12日～ 10月15日

Ｂ区では粗掘り及び遺構確認・精査作業を行う。新たにかまど状遺構を４基、土坑３基を検出し、遺構が徐々に増えてきた。特に124ライン以南から集中して遺構が検出され始めた。13日～ 15日、中国甘粛省文物考古研究所の呉莊交流員が研修のため来跡。発掘調査に参加し、日本の発掘調査方法を学ぶとともに調査員・作業員との交流を深めた。Ｃ区は遺構の実測作業が完了し、これをもって調査を終了した。

【第13週】10月18日～ 10月22日

Ｂ区の粗掘り及び遺構確認・精査作業を行う。南東側の旧水田地区の粗掘り・遺構確認作業を同時に行ったが、微高地上ほどの遺構は検出されなかった。微高地上では新たにかまど状遺構14基、土坑、井戸跡、柱穴様ピットなどを検出し、随時精査を行う。20日、国土交通省湯沢河川国道事務所池田雄一専門員、教育庁生涯学習課文化財保護室加藤朋夏文化財主任が来跡。Ｃ区の引き渡しを行った。

【第14週】10月25日～ 10月29日

Ｂ区の粗掘り及び遺構確認・精査作業を行う。新たにかまど状遺構22基の他、竪穴建物跡、掘立柱建物跡、井戸跡、土坑などを検出した。遺構はＢ区微高地上の124 ～ 108ライン間に集中しており、以南の旧水田地区からは遺構・遺物はほとんど検出されなかった。

【第15週】11月１日～ 11月５日

Ｂ区の粗掘り及び遺構確認・精査作業を行う。遺構集中地区以外の作業は完了し、集中区の遺構精査・実測作業に傾注する。

【第16週】11月８日～ 11月12日

Ｂ区の遺構集中区の遺構精査・実測作業を行う。

【第17週】11月15日～ 11月19日

Ｂ区遺構集中区の遺構精査・実測作業を完了させ調査を終了した。最終週であるため、引き渡し・撤収に向けた整理・準備も並行して行った。19日、国土交通省湯沢河川国道事務所池田雄一専門員、教育庁生涯学習課文化財保護室加藤朋夏文化財主任が来跡。埋蔵文化財センター利部修調査班長立ち会いのもとＡ・Ｂ区の引き渡しを行った。同日、発掘業務を委託した宮原組へコンテナハウス等の引き渡しを行い、撤収した。

平成23年度

【第１週】６月20日～６月24日

作業員に作業内容の説明や諸注意を行い、発掘機材の搬入、環境整備を行った。22日に調査前の風

景と表土除去の時に確認していた現代の溝の写真撮影を行った。調査区東側と北側より掘り下げを開始した。ＳＫ01を検出、調査を行った。23日午後から24日には集中した豪雨に見舞われ、断続的に排水作業を行った。

【第２週】６月27日～７月１日

先日から続いた降雨のため、調査区内が冠水しており排水作業から開始した。東側調査区より遺構検出作業を開始し、ＳＫ02とＳＤ03を検出、調査を行った。ＮＪ162で磨石１点を検出。北側は先週に引き続き、遺構検出作業を行った。調査区北側は撹乱が多く、特に北東側は缶や瓶などが検出された。29日、文化財保護室加藤朋夏文化財主任が来跡。

【第３週】７月４日～７月８日

先日からの降雨のため、調査区内が冠水しており排水作業から開始した。調査区北側から開始していた遺構検出作業は調査区中央まで進んだ。調査区東側から開始していた遺構検出作業も調査区中央付近まで進み、ＳＤ04を検出、調査を行った。

６日、秋田県埋蔵文化財センター副所長が来跡。７日、文化財保護室磯村亨学芸主事が来跡。

【第４週】７月11日～７月15日

調査区東側より始めていた遺構検出作業が調査区西側まで終了した。この週より作業員をＳＫ01、ＳＫＩ02、ＳＤ03・04の精査、遺構検出作業を分担して調査を行った。特にＳＤ04は調査区を東から西へと縦断しており、多くの作業員で調査を行った。調査区北側は一度全面精査を行い調査区北側の全景写真を撮った。基本土層をとるため、調査区東側の壁の精査を開始した。

【第５週】７月19日～７月22日

調査区北側に新たな遺構がないか確認するため、北側より再度遺構検出作業を開始した。同時にＮＯ171、ＮＰ171にかかる溝状のプランの調査を開始した。乾燥が酷く東側壁に散水を行いながら精査を進めた。20日にＮＱ173・174、ＮＰ173にかかるＳＤ05を検出、調査を開始した。ＳＫＩ02、ＳＤ04の調査も同時に進行した。

【第６週】７月25日～７月29日

ＳＫＩ02、ＳＤ04・05の調査を進めた。ＳＫＩ02は断面土層をとるためのベルトの除去を開始、ＳＤ04は遺構精査を行った。ＳＤ05は何カ所か確認トレンチを入れて遺構の範囲を調査した。ＳＤ05の北側部分はミツウロコ側に延びており調査区外へ続いている。南側はＮＬ169まで延びており、こちらも調査区外まで続いている。26日には調査内精査を行っていたＳＫＩ02内よりＳＫ06を検出、調査を開始した。調査した結果、ＳＫＩ02とＳＫ06の関連性は確認されなかった。基本土層図の作成を開始した。27日、国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所の建設監督官の半田清美氏が来跡。

【第７週】８月１日～８月５日

ＳＤ04の全景写真を撮るための精査を行った。同時に基本土層図と遺跡地形図の作成も行った。２日に雄物川方向より遺跡の遠景写真の撮影を行った。ＳＤ04の全景写真撮影後、ＳＤ05の全景写真を撮るための精査を行い、写真を撮影した。４日午後より遺構の埋め戻しを開始した。

１日、見学者１名が来跡。３日、県立博物館元館長富樫泰時氏が来跡。５日、秋田県埋蔵文化財センター所長が来跡。

【第８週】８月８日

遺構の埋め戻し作業後、発掘機材の撤収作業を行った。文化財保護室の立ち会いのもと、国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所に調査区を引き渡した。

第３節　整理作業の経過

平成22～24年度の発掘調査の整理作業は、秋田県埋蔵文化財センターで以下のとおり行った。

出土した遺物については、洗浄・注記・接合・器種の分類作業を行い、実測が必要な遺物を選択し、この後、実測・拓本を行った。検出遺構については、調査で記録作図した実測図をもとに製図用の第２原図を作成した。次に遺構の第２原図と遺物の実測図などをトレースして挿図を作成した。また、遺物の写真撮影を行って遺物の図版を作成した。この後、割付と編集を行って報告書を刊行した。

なお、放射性炭素年代測定および樹種同定するため、遺構内などからサンプリングした炭化物は、株式会社パレオ・ラボに委託した。その分析結果は、第４章の「理化学的分析」に掲載した。

第２章　遺跡の位置と環境

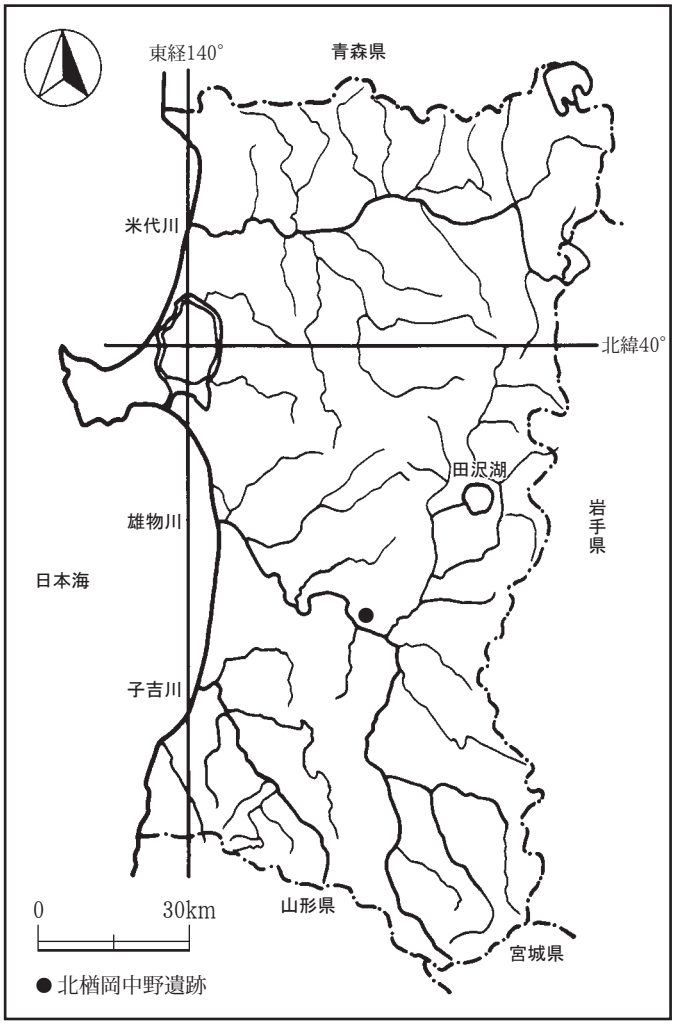
第１節　地理的環境

北楢岡中野遺跡の所在する大仙市は、秋田県の南東部に位置する。平成17（2005）年３月、大曲市、神岡町、西仙北町、中仙町、協和町、南外村、仙北町、太田町の一市六町一村が合併し、現在の大仙市が誕生した。東は仙北市・岩手県和賀郡西和賀町と、西は秋田市・由利本荘市と、南は横手市・美郷町と、北は仙北市と接している。古くから県南の交通の要衝であり、現在でも秋田新幹線や秋田自動車道などの陸路・鉄路の結節点として拠点機能の強化が進んでいる。

北楢岡中野遺跡は大仙市神岡地域北部の北楢岡地区に所在し、ＪＲ奥羽本線神宮寺駅から北西へ約4.3㎞の北緯39度30分08秒、東経140度24分11秒に位置している（第２図）。

遺跡の西方約２㎞を、横手盆地南端の山地を源流にする雄物川が北流しており、出羽山地を先行的に横断し、秋田平野に出て日本海に注いでいる。遺跡周辺の地形は、山地、丘陵地、台地（段丘地）、低地によって構成される。遺跡の東側一帯は、高野台地が広がっている。高野台地の段丘面は、かつては草地として重視された歴史もあるが、近年は田地や畑地の耕地化が進み、また段丘崖とともに杉の人工林が目立っている。

一方、雄物川を挟んだ南側には出羽山地に属する姫神山山地があり、姫神山（387.6ｍ）や神宮寺岳（277ｍ）がそびえ、その側辺は段丘や低地になっている。遺跡の東西および南側の低地（中央低台地）は雄物川によって形成された先行谷の中にあり、独特の幅狭い狭窄部低地といった峡谷の景観ではなく、広々とした氾濫平野の感じを強く印象づける眺望である。現在は水田地帯として整備されているが、先行谷最下位の低地には、河原、氾濫平野、砂堆地、旧河道などが散在する。先行谷の広がりは、雄物川下流の刈和野地区や強首地区まで続き、特に強首地区の左岸一帯は、曲流部の緩やかな滑走斜面で、そこには広大な七段の砂礫段丘が、反対の攻撃的斜面には河触崖がみられる。



第２図　遺跡位置図

遺跡は、雄物川右岸に形成された標高約19～20ｍの河岸段丘上に立地している。

地質は、第四紀洪積世に形成された礫・砂および泥層である。

第２節　歴史的環境

北楢岡中野遺跡（24）は中世を主体とする遺跡で、縄文時代・平安時代・近世の遺物も出土している。同遺跡の周囲に所在する縄文時代から近世までの主要な遺跡について概観する。なお、遺跡名の次の（　）内の数字は、第３図と第１表の表示番号に対応している。

縄文時代の遺跡は、中期から晩期までの計14遺跡が確認されており、晩期の遺跡が多い。中期の高野Ⅰ遺跡（10）・笹倉遺跡（13）、中期～後期の愛宕下遺跡（16）、後期～晩期の薬師遺跡（19）・布田谷地遺跡（21）、後期の沖田Ⅰ遺跡（22）、晩期の萩の台遺跡（６）・上高野遺跡（８）・小沢遺跡（17）・落貝遺跡（18）・茨野遺跡（20）、時期不詳の八石遺跡（７）・北田遺跡（30）・山王台遺跡（32）がある。高野Ⅰ遺跡と笹倉遺跡は、昭和28・29（1953・1954）年に武藤鉄城氏によって発掘調査が行われ、高野Ⅰ遺跡では中期の大木式土器が出土し、笹倉遺跡では７基の組石遺構を検出した。薬師遺跡は平成15（2003）年に発掘調査が行われ、後期と晩期の土器、石鏃・石匙・磨製石斧などの石器類が出土した。小沢遺跡は昭和60（1985）年に確認調査、平成元（1989）年に発掘調査が行われ、晩期の大洞Ｂ～Ａ式の土器が出土し、時期不明のかまど跡が検出されている。落貝遺跡は、昭和40（1965）年に豊島昴氏によって発掘調査され、２基の組石棺を検出し、晩期の粗製土器も出土した。茨野遺跡は、平成14・15（2002・2003）年に旧神岡町教育委員会によって発掘調査が行われ、縄文時代後期と中世の集落跡が発見された。愛宕下遺跡からは、青龍刀形石器、石鏃、石棒が出土している。

弥生時代の遺跡は、同遺跡周辺では確認されていない。

古代の遺跡では、高野Ⅱ遺跡（11）・坊ヶ沢遺跡（12）・布田谷地遺跡（21）・沖田Ⅰ遺跡（22）の計４遺跡が確認されている。坊ヶ沢遺跡では須恵器の大甕が出土した。布田谷地遺跡は平成18(2006)年に発掘調査が行われ、平安時代の集落跡から、「大」「万」を縦に重ね合わせた吉祥文字を記した墨書土器が出土した。

中世の遺跡では、集落跡である薬師遺跡（19）と、昭和50年代に行われた分布調査などにより、丘陵上または平地に立地する多数の中世城館が確認されており、松山城（１）・龍蔵寺館（４）・富樫館（14）・神宮寺掃部館（15）・朝夷奈古柵（25）・平形館（26）・木直沢館（27）・猿倉沢館（28）・楢岡城（29）・壇ノ平館（31）が知られている。出羽山地の北東に突出した丘陵端に位置する松山城は、北東方向に並列する２つの嶺上にあり、２つの郭からなる城跡で、前九年の役の頃、阿部貞任・宗任が居城していたと言われている。馬場跡や湧水の存在も指摘されており、須恵器が出土している。龍蔵寺館は、比高およそ５ｍの単郭の館で、郭はほぼ台形である。北東隅に大山祇神社が祭られ、その近くに井戸跡がある。郭の北縁に、土塁が築かれ、その下方には空掘が存在する。郭の西麓には長沼があって内濠の役目を果たしたと推定されている。この館には、長禄の頃（1457～60）、雄勝松岡城主柴田平九郎の老臣龍蔵寺伯耆守が移り住み、永禄８（1565）年落城したという。昭和50（1975）年に、この館付近で直径30～40㎝、長さ３ｍの、下部が削られ上部が朽ちた杉丸太がほぼ５ｍ間隔で出土した。富樫館は、かつて四方を川や沼沢で囲まれた天然の要塞であったと伝えられる。館を築いたのは富樫佐衛門佐誠白で、文和３（1254）年には氏神白山権現を勧請し、永徳２（1382）年に宝蔵寺

第３図　北楢岡中野遺跡（24）と周辺遺跡位置図

第１表　北楢岡中野遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺　跡　名	遺跡地図 登録番号	種　別	主な遺構・遺物
1	松山城	212－８－30	経塚	須恵器
2	三本杉経塚	212－45－１	経塚	経石
3	三本杉一里塚	212－45－２	一里塚	一里塚２基
4	龍蔵寺館	212－45－３	館跡	土塁、空堀、井戸跡（陥没）
5	龍蔵台経塚	212－45－４	経塚	
6	萩の台	212－45－５	遺物包含地	縄文土器（晩期）・石鏃・石棒
7	八石	212－45－６	遺物包含地	縄文土器（晩期）・石鏃・石匙・石斧
8	上高野	212－45－７	遺物包含地	縄文土器（晩期）・石斧
9	小豆沢一里塚	212－45－８	一里塚	
10	高野Ⅰ	212－45－９	遺物包含地	縄文土器（後期・晩期）・土版・石匙・石錐・石斧
11	高野Ⅱ	212－45－10	遺物包含地	須恵器
12	坊ヶ沢	212－45－11	遺物包含地	須恵器完形甕
13	笹倉	212－45－12	遺物包含地	縄文土器（後期・晩期）・凹石
14	富樫館	212－45－13	館跡	
15	神宮寺掃部館	212－45－14	館跡	
16	愛宕下	212－45－15	遺物包含地	青竜刀型石器・石鏃・石棒
17	小沢	212－45－16	遺物包含地	縄文土器（晩期）・石匙・石棒
18	落貝	212－45－18	遺物包含地	石棺、縄文土器・石鏃
19	薬師	212－45－19	集落跡	掘立柱建物跡、かまど状遺構、土坑、溝跡、縄文土器 須恵器系中世陶器、瓷器系中世陶器
20	茨野	212－45－20	集落跡	竪穴建物跡、掘立柱建物跡、縄文土器・石器、青磁、青白磁 須恵器系中世陶器、フイゴ羽口、銭貨
21	布田谷地	212－45－21	狩猟場、集落跡	陥し穴、掘立柱建物跡、竪穴建物跡、縄文土器、土師器 須恵器
22	沖田Ⅰ	212－45－22	集落跡	掘立柱建物跡、土坑、河道跡、井戸跡、溝跡、配石遺構 縄文土器、土師器、須恵器、墨書土器、陶磁器
23	沖田Ⅱ	2007年 新発見の遺跡	集落跡	掘立柱建物跡、かまど状遺構、井戸跡、溝跡、土師器 須恵器、墨書土器、陶磁器
24	北楢岡中野	2009年 新発見の遺跡	集落跡	掘立柱建物跡、竪穴建物跡、かまど状遺構、井戸跡、溝跡 縄文土器・石鏃、土師器、須恵器、陶磁器
25	朝夷奈古柵	212－46－35	館跡	
26	平形館	212－55－１	館跡	主郭、竪堀
27	木直沢館	212－55－２	館跡	空堀
28	猿倉沢館	212－55－３	館跡	
29	楢岡城	212－55－４	城跡	主郭、腰郭、馬場跡、井戸跡、青磁
30	北田	212－55－５	遺物包含地	縄文土器、有柄石鏃、石匙、石錘、磨製石斧
31	檀ノ平館	212－55－６	館跡	主郭
32	山王台	212－55－７	遺物包含地	竪穴建物跡、縄文土器、石匙、石なた、石棒

を建立している。館跡の東側には蓮沼、北から西へ栗谷田に字名があり、栗谷田は厨田の当て字とも言われる。栗谷田との境には濠跡といわれる用水路があり、また、駅前を東西に横切る水濠があったといわれ、台地の両側にはその跡と思われる幅約30mのくびれが見られる。神宮寺掃部館は長方形の単郭で、周囲の水田より３mほど高くなっている。北西の隅に土塁らしき土盛り、東側に犬走り状の低地がある。四周水濠によって囲まれていたと伝えられるが、現在は水田となっており痕跡不明である。館は正慶（1332～34年）の頃に築かれたという。また、平成15（2003）年に発掘調査が行われた薬師遺跡では、12世紀後半から13世紀半ばにわたる掘立柱建物跡、道路跡、かまど状遺構などからなる集落跡が検出され、須恵器系中世陶器や瓷器系中世陶器が出土した。

近世の遺跡では、三本杉経塚（２）・三本杉一里塚（３）・龍蔵台経塚（５）・小豆沢一里塚（９）や、平成20（2008）年に発掘調査が行われ、集落跡であることが判明した沖田Ⅱ遺跡（23）がある。

三本杉一里塚は、秋田県内における江戸期の交通遺跡の代表的なものとして、昭和34年に県の史跡に指定された。

引用・参考文献

神宮寺公民館　『笹倉・東高野遺跡発掘調査報告書』　1955（昭和30）年

秋田県　『土地分類基本調査　大曲』　1977（昭和52）年

秋田県　『土地分類基本調査　刈和野』　1979（昭和54）年

秋田県文化財保護協会　『秋田県の中世城館』　1981（昭和56）年

秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図（県南版）』　1987（昭和62）年

秋田県教育委員会　『秋田県の文化財』　1989（平成元）年

秋田県神岡町教育委員会　『小沢遺跡発掘調査報告書』　神岡町文化財調査報告書　1990（平成２）年

秋田県教育委員会　『薬師遺跡　－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　秋田県文化財調査報告書第388集　2005（平成17）年

秋田県教育委員会　『布田谷地遺跡　－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ－』　秋田県文化財調査報告書第433集　2007（平成19）年

秋田県教育委員会　『沖田遺跡・沖田Ⅱ遺跡　－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ－』　秋田県文化財調査報告書第443集　2009（平成21）年

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法

調査区内を南北に走る国道13号線により調査区が二分されており、今回の調査は地形や調査工程などの関係から便宜上Ａ区・Ｂ区・Ｃ区・Ｄ区の４区に分けた。

計画的な調査と遺構・遺物の検出地点を把握するため、グリッド法を採用した。調査区のほぼ中心をグリッド原点ＭＡ100（Ｘ＝-54054.039、Ｙ＝-38977.448）として、この杭から世界測地系国家座標第Ｘ系座標北を求め、このラインを南北基線、これに直交するラインを東西基線とした。

この東西南北に沿って４×４ｍのグリッドを設定し、グリッド原点ＭＡ100を起点に、東西方向には東から西へ４ｍごとに「ＪＯ・ＪＰ・・・・ＬＫ・ＬＬ・・・・ＬＴ・ＭＡ・ＭＢ・・・・ＮＡ・ＮＢ・・・ＮＫ・ＮＬ」という２文字のアルファベットを、南北方向には南から北へ４ｍごとに「64・65・・・・99・100・101・・・・157・158」という2～3桁の数字を与え、このアルファベットと数字の組み合わせからなる記号を各グリッドの名称とした。なお、グリッド杭は４ｍ間隔の東西基線と南北基線の交点すべてに打設し、前記のグリッド名称を南東隅の杭に記入した。

調査は確認調査の結果に基づき、Ａ区とＢ区の一部を除き、バックホーにより表土除去を行った。包含層の掘り下げ及び遺構精査は全て手作業で行った。検出した遺構には、発見順に略記号および通し番号を付し精査を行った。また、出土した遺物には、遺跡名・出土位置または遺構名・出土層位・出土年月日を記録し、取り上げた。

調査の記録は、平面図・断面図の作製および写真撮影によった。平面図・断面図の縮尺は1/20を原則としたが、遺構細部の図面を必要とする際には1/10で作図した。写真撮影には35㎜モノクロ・カラー・リバーサルフィルムおよびデジタルカメラを使用した。

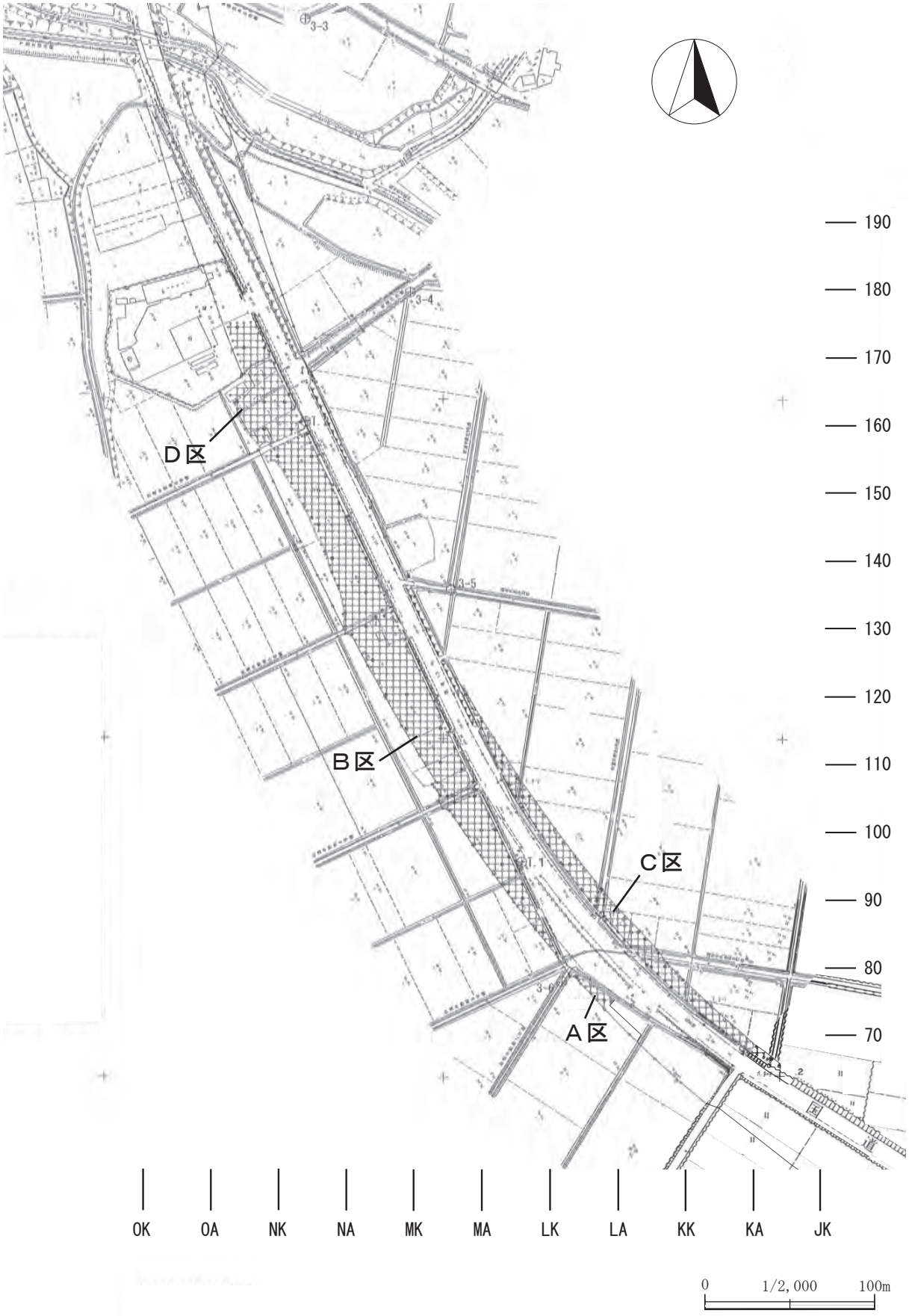
第２節　基本層序

遺跡の基本層序は、Ａ区についてはＫＴ74グリッドの北西からＬＢ72グリッドの北東にかけて設けたラインで確認した。Ｂ区についてはＭＨ117グリッド杭とＭＭ117グリッド杭を結ぶラインで確認した。Ｃ区についてはＫＡ69グリッドの南西からＫＢ68グリッドの南東にかけて設けたラインで確認した。Ｄ区についてはＮＨ160グリッドの北西からＮＩ164グリッドの西にかけて設けたラインで確認した。各区での層序は以下の通りである（第６図～７図）。

遺跡の基本土層は各区に設けた土層観察用ベルトにより、Ａ区・Ｂ区・Ｃ区・Ｄ区は３層に分層できた（第６～７図参照）。

【Ａ区】　Ⅰ　褐灰色土（10YR4/1）　しまり強、粘性中
　　混入物:酸化土粒状中5%
　　Ⅱ　灰黄褐色土（10YR4/2）　しまり強、粘性中
　　混入物:酸化土粒状中5%

第４図　調査区と周辺地形図


D区
B区
C区
A区
190
180
170
160
150
140
130
120
110
100
90
80
70
OK
OA
NK
NA
MK
MA
LK
LA
KK
KA
JK
0
1/2,000
100m

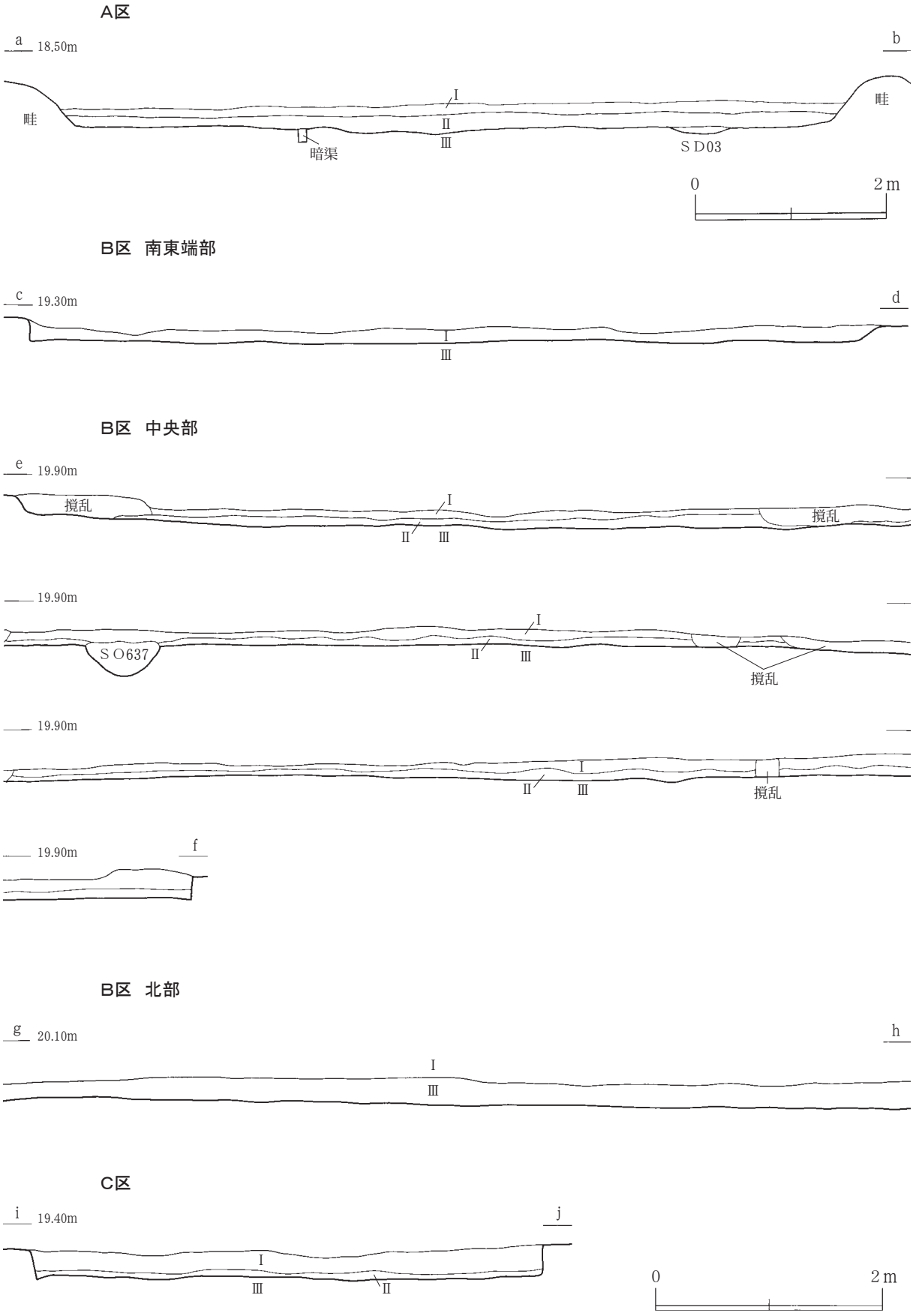
第５図　グリッド設定図

Ⅲ　褐灰色土（7.5YR5/1）　しまり強、粘性中　「地山」
混入物:酸化土粒状中3%

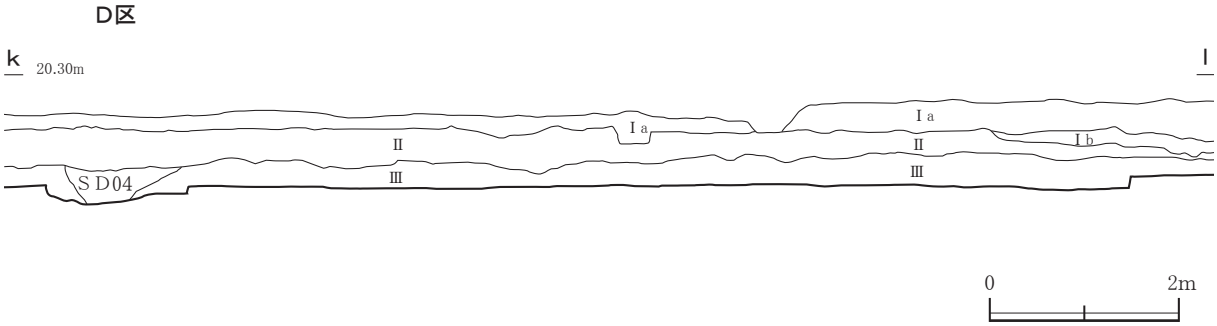
【Ｂ区】　Ⅰ　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　しまり強、粘性弱
Ⅱ　にぶい黄褐色土（10YR5/3）　しまり強、粘性弱
混入物:Ⅰ層土塊状中２％
Ⅲ　にぶい黄褐色土（10YR5/4）　しまり強、粘性弱　「地山」
混入物:Ⅰ層土塊状小１％

【Ｃ区】　Ⅰ　灰黄褐色土（10YR4/2）　しまり強、粘性弱
混入物:地山土塊状小～中１％、炭化物粒状小１％、酸化土粒状小２％、礫φ２cm １％
Ⅱ　にぶい黄褐色土（10YR4/3）　しまり強、粘性弱
混入物:炭化物粒状小１％、酸化土粒状小10%
Ⅲ　灰黄褐色土（10YR5/2）～にぶい黄褐色土（10YR5/3）　しまり強、粘性中　「地山」

【Ｄ区】　Ⅰａ砕石を多量に含む造成土
Ⅰｂ褐灰色土（10YR4/1）　粘土を多量に含む造成土
Ⅱ　暗褐色土（10YR3/4）　しまり強、粘性強、シルト質
Ⅲ　褐色土（10YR4/6）　しまり強、粘性強、シルト質　「地山」



第６図　調査区の基本層位図（１）



第７図　調査区の基本層位図（２）と基本層位抽出地点図

第３節　検出遺構と出土遺物

本調査で検出された遺構は、掘立柱建物跡１棟、竪穴建物跡３棟、かまど状遺構33基、焼土遺構２基、井戸跡20基、土坑24基、溝跡18条、柱穴様ピット365基の合計466遺構である。また、出土した遺物は、縄文土器・石器、平安時代の土師器・須恵器、中世と近世の陶磁器などである。

各調査区で検出した遺構の内訳は以下のとおりである。

【Ａ区】	溝跡……４条		（Ａ区　４遺構）
【Ｂ区】	掘立柱建物跡……１棟	竪穴建物跡……２棟	
	かまど状遺構……33基	焼土遺構……２基	
	井戸跡……15基	土坑……19基	
	溝跡……３条	柱穴様ピット……92基	（Ｂ区 167遺構）
【Ｃ区】	井戸跡……５基	土坑……３基	
	溝跡……８条	柱穴様ピット…… 273基	（Ｃ区 289遺構）
【Ｄ区】	竪穴建物跡……１棟	土坑……２基	
	溝跡……３条		（Ｄ区　６遺構）

１　Ａ区の検出遺構と出土遺物

（１）溝跡

ＳＤ01（第９図、図版３－５）

《位置・確認状況》ＬＤ75・76グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含む灰黄褐色土の筋として確認した。

《重複》ＳＤ02・ＳＤ03と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《規模》確認した範囲で長さ6.88m、幅0.30～0.60m、確認面からの深さ0.07～0.14mである。北東－南西方向に延びており、北東側では二股に分かれて調査区外へ延伸している。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物》磁器の細片が１点出土した。

ＳＤ02（第９図、図版３－６）

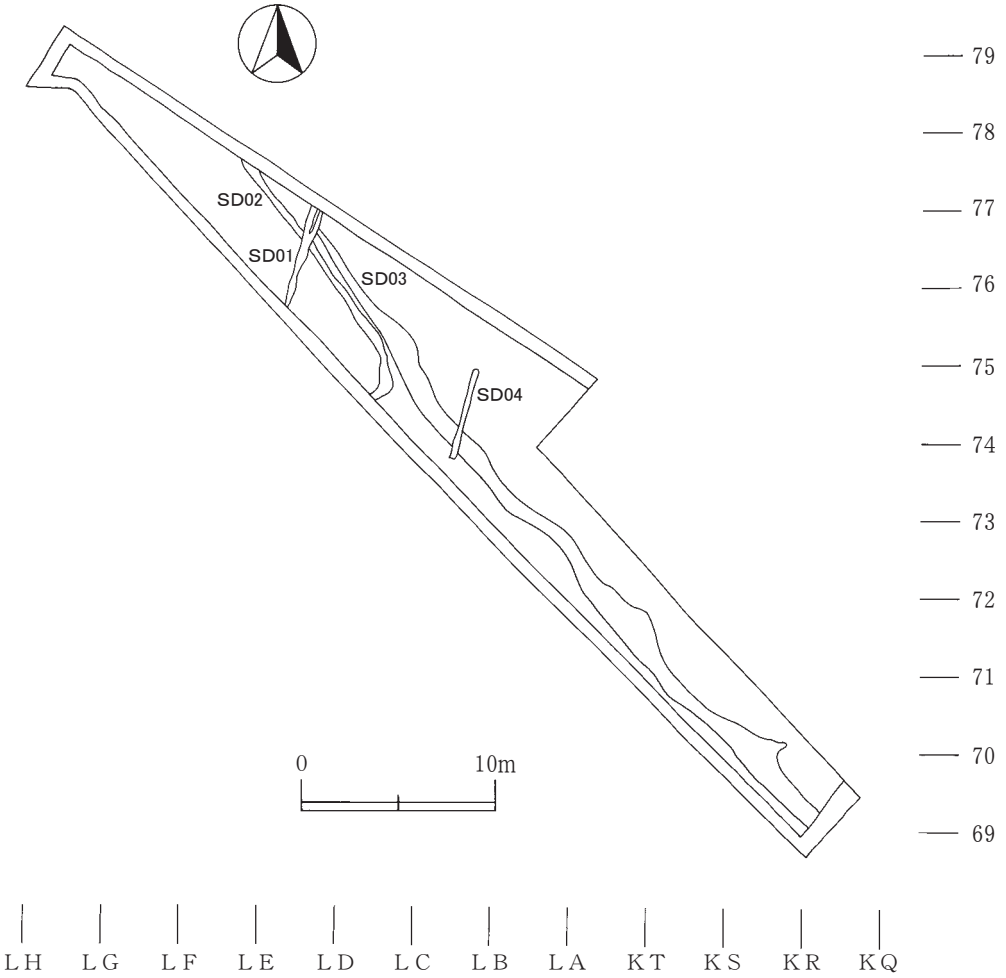
《位置・確認状況》ＬＣ74・75、ＬＤ76・77、ＬＥ77グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含む灰黄褐色土の筋として確認した。

《重複》ＳＤ01と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

《規模》確認した範囲で長さ15.24m、幅0.30 ～ 0.88m、確認面からの深さ0.08 ～ 0.15mである。調査区内では北西－南東方向に延びているが、北西端では北東に向きを変え、南東端では南西に向きを変えてそれぞれ調査区外へ延伸している。

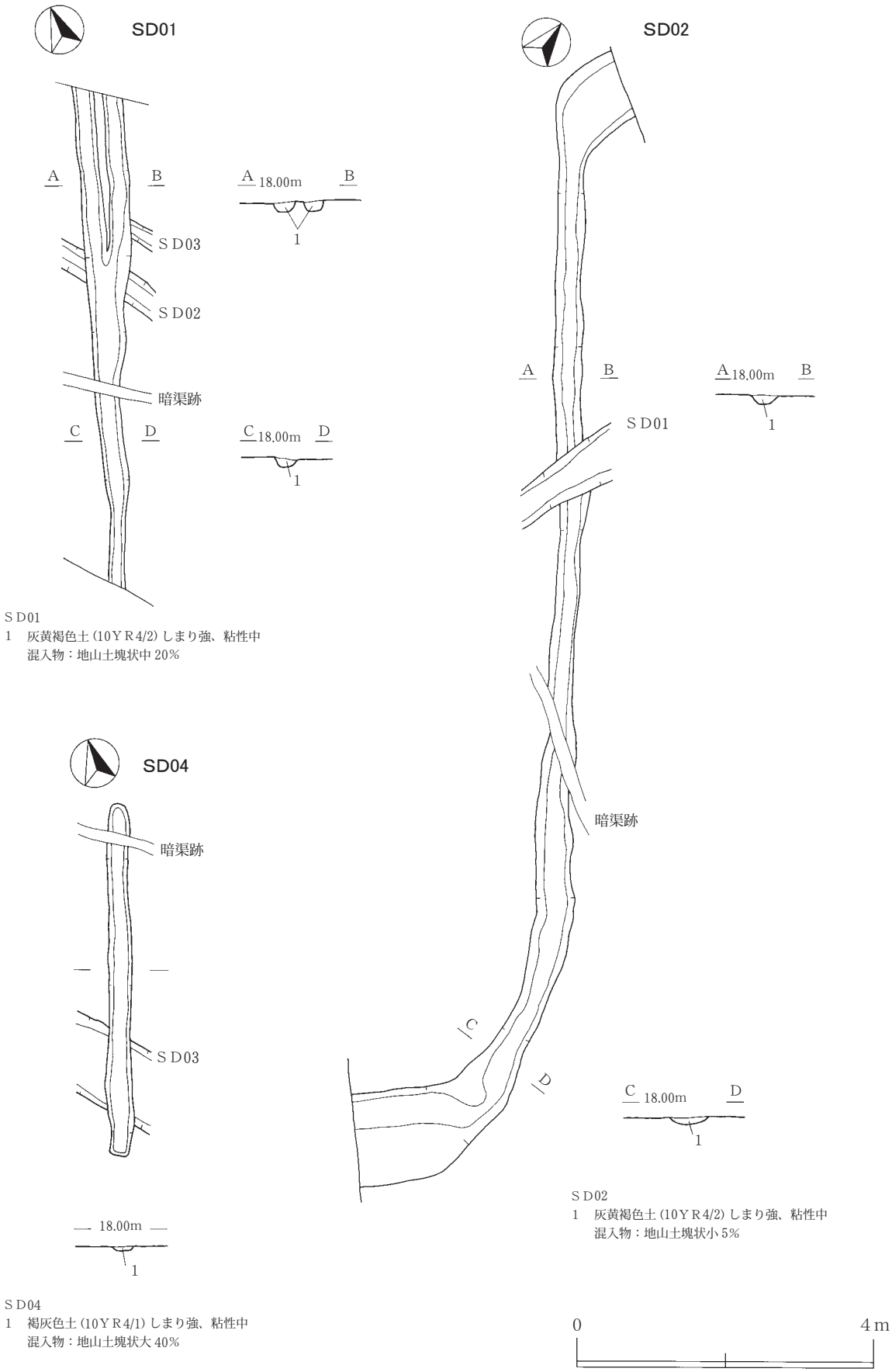
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

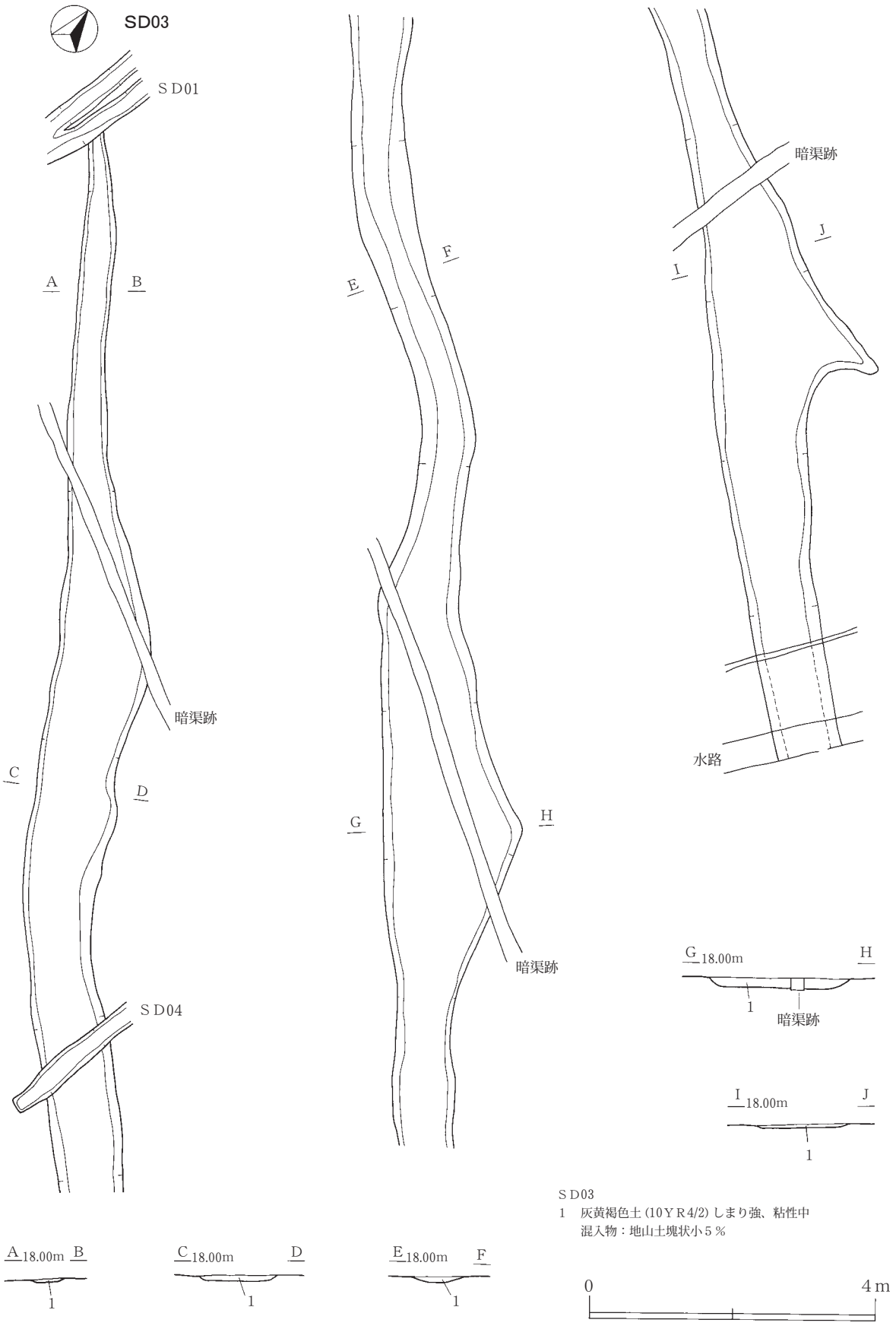

SD02
SD01
SD03
SD04
0
10m
79
78
77
76
75
74
73
72
71
70
69
LH
LG
LF
LE
LD
LC
LB
LA
KT
KS
KR
KQ

D区
B区
C区
A区
1/2,500
100m

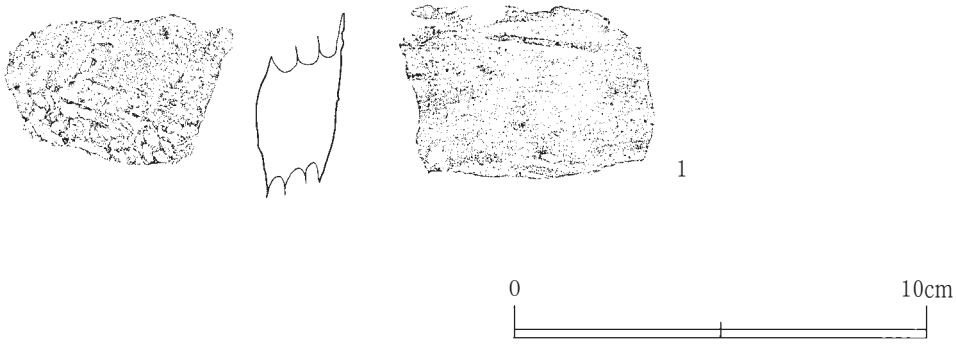
第８図　Ａ区遺構配置図



第９図　ＳＤ 01・02・04


SD03
ＳＤ01
A
B
暗渠跡
C
D
ＳＤ04
E
F
G
H
暗渠跡
暗渠跡
I
J
水路
G 18.00m H
1
暗渠跡
I 18.00m J
1
A 18.00m B
1
C 18.00m D
1
E 18.00m F
1
ＳＤ03
1　灰黄褐色土 (10ＹＲ4/2) しまり強、粘性中
混入物：地山土塊状小５％
0
4ｍ

第 10 図　ＳＤ 03



第 11 図　遺構外出土遺物

《出土遺物》染付碗の破片が１点出土した。

ＳＤ03（第10図）

《位置・確認状況》ＫＱ69、ＫＲ69・70、ＫＳ70・71、ＫＴ71・72、ＬA72・73、ＬＢ73・74、ＬＣ74・75・76、ＬＤ76グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含む灰黄褐色土の筋として確認した。

《重複》ＳＤ01・ＳＤ04と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

《規模》確認した範囲で長さ38.18m、幅0.44 ～ 1.96m、確認面からの深さ0.06 ～ 0.15mである。北西－南東方向にかけて幾分蛇行しながら延びており、南東端は調査区外へ延伸している。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物》染付碗の破片が１点出土した。

ＳＤ04（第９図、図版３－７）

《位置・確認状況》ＬＢ73・74グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含む褐灰色土の筋として確認した。

《重複》ＳＤ03と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《規模》確認した範囲で長さ4.76m、幅0.26 ～ 0.38m、確認面からの深さ0.03 ～ 0.06mである。北東－南西方向にほぼ直線的に延びている。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

２　Ａ区の遺構外出土遺物（第11図、図版12－１）

Ａ区の遺構外からは縄文土器片７点、中世陶器片１点、近世陶磁器片が８点出土した。縄文土器片及び近世陶磁器片はいずれも小片であり、ここでは中世陶器１点のみを掲載した（第11図１）。

１はＫＴ72グリッドの第Ⅲ層から出土した珠洲系陶器甕の胴部片である。成形はロクロで行われ、外面には成形後の平行叩きの調整痕、内面には当て具痕が認められる。胎土は砂粒を多く含み緻密で、焼成は良好である。色調は外面・内面ともに黄灰色である。

３　Ｂ区の検出遺構と出土遺物

（１）掘立柱建物跡

ＳＢ625（第12図、図版４－６）

《位置・確認状況》ＭＩ118、ＭＪ118・119・120グリッドに位置する。第Ⅲ層上面において、北西－南東方向にほぼ等間隔に並列する柱穴を確認した。

《重複》東側柱のうち北側から３基目の柱穴（Ｐ６）がＳＫＰ581と重複し、南隅の柱穴（Ｐ７）がＳＯ565と重複する。新旧は本遺構がＳＫＰ581より古く、ＳＯ565より新しい。

《規模》桁行３間×梁行１間の掘立柱建物跡である。桁行総長は東側柱列（Ｐ２～Ｐ８）7.44m、西側柱列（Ｐ１～Ｐ７）7.26mで、梁行総長は北側柱列（Ｐ１～Ｐ２）2.26m、南側柱列（Ｐ７～Ｐ８）2.27mである。主軸方位はＮ－30°－Ｗである。

《柱穴》８基検出された。平面形は円形と楕円形であり、長軸0.24～0.30m、短軸0.24～0.29mで、確認面からの深さは0.11～0.20mである。堆積土は硬く締まっているにぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）の単一層であり、柱痕跡は認められなかった。個々の柱穴については第２表のとおりである。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

第２表　ＳＢ625柱穴一覧表

柱穴番号	平面形	大きさ			底面標高(m)	備　考
		長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
Ｐ１	円　形	0.28	0.27	0.20	19.19	
Ｐ２	円　形	0.29	0.29	0.12	19.32	
Ｐ３	楕円形	0.30	0.23	0.19	19.26	
Ｐ４	円　形	0.28	0.25	0.19	19.28	
Ｐ５	楕円形	0.29	0.24	0.17	19.33	
Ｐ６	(円 形)	0.24	(0.18)	0.15	19.27	Ｐ６→ＳＫＰ581
Ｐ７	円　形	0.25	0.24	0.11	19.37	Ｐ７←ＳＯ565
Ｐ８	円　形	0.28	0.27	0.18	19.28	

※（　）内の平面形と数値は推定である。　※重複関係は、旧→新である。

（２）竪穴建物跡

ＳＫＩ633（第15図、図版４－７）

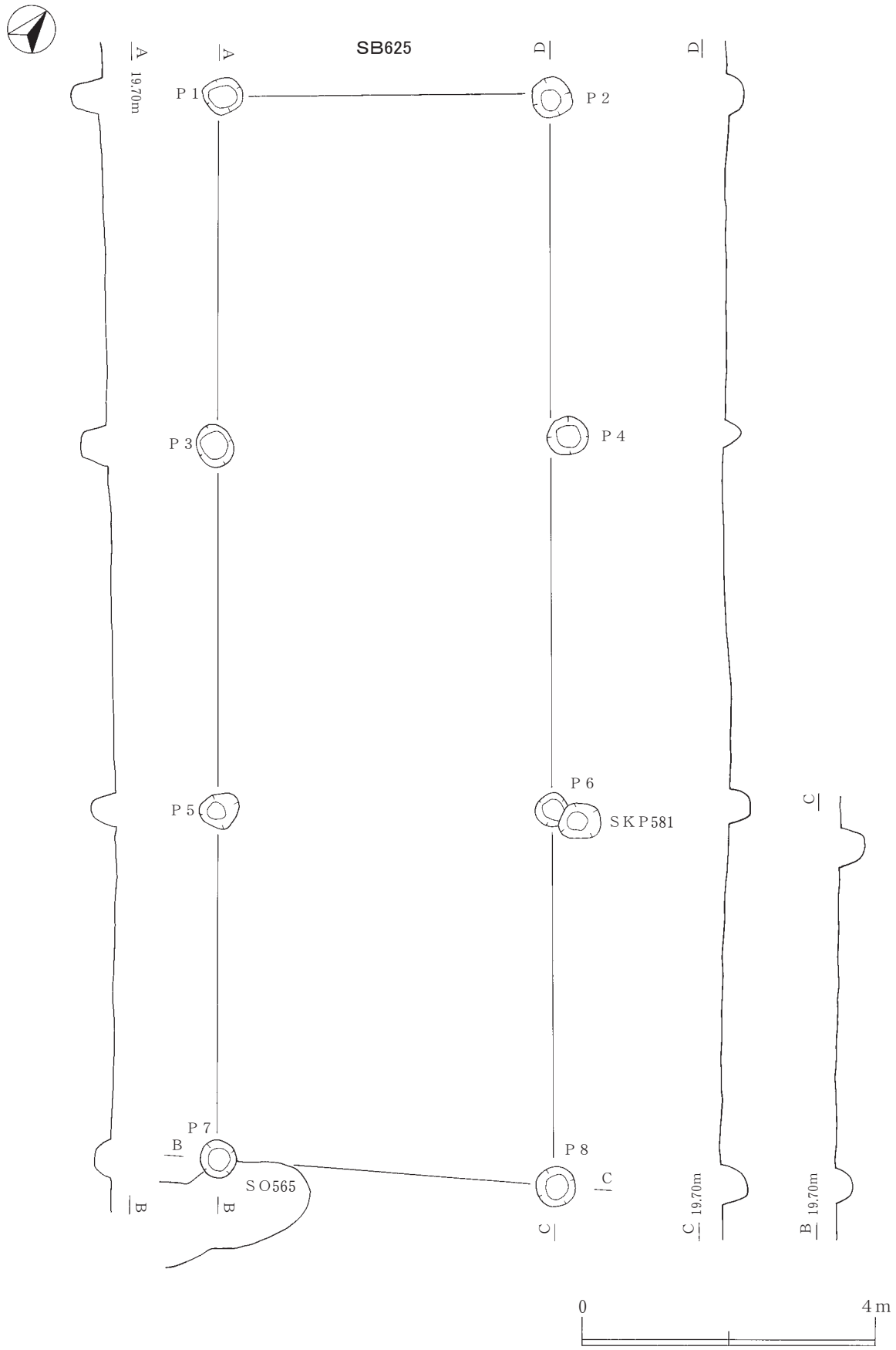
《位置・確認状況》ＭＦ114・115、ＭＧ114・115グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土と炭化物を含む暗褐色土の広がりとして確認した。

《重複》ＳＫ648と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

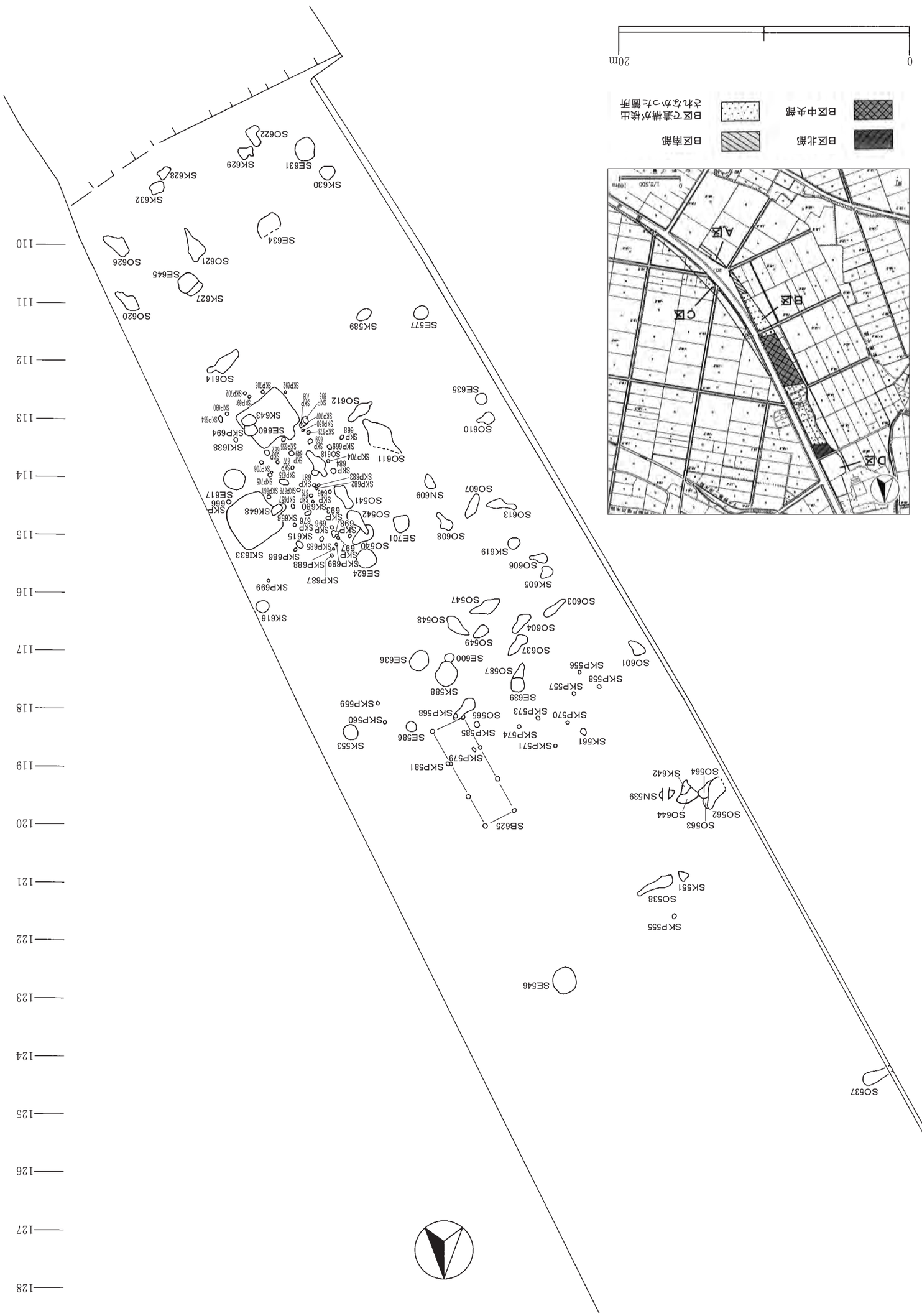
《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北西－南東）3.35m、短軸（北東－南西）3.33m、確認面からの深さ0.33mである。南西側に長さ0.82m、幅0.54mの出入り口が付属する。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面はほぼ平坦である。

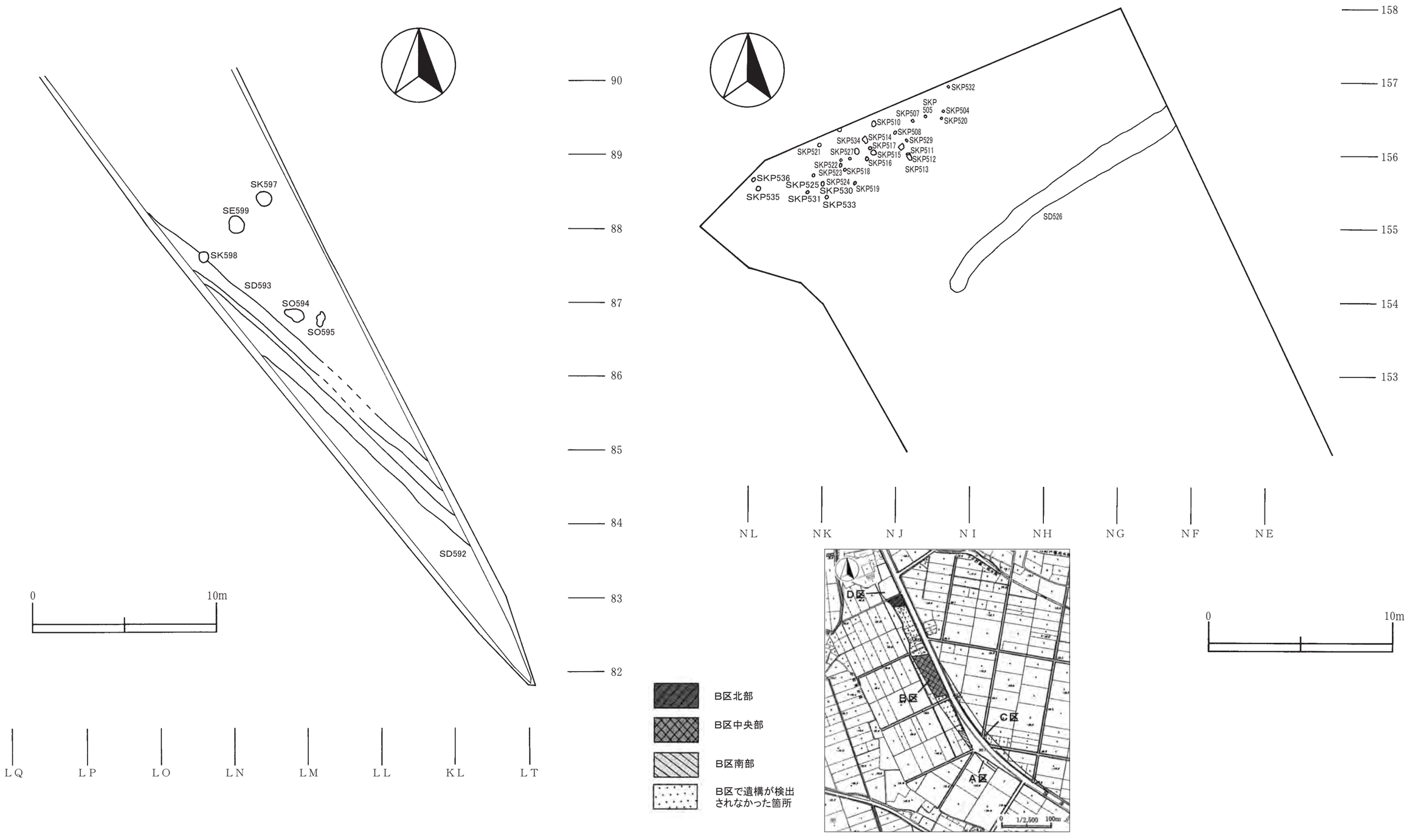
《堆積土》７層に分けられた。


SB625
A
A
D
D
A 19.70m
P 1
P 2
P 3
P 4
P 5
P 6
SKP581
P 7
P 8
B
B
B
C
C
C
SO565
C 19.70m
B 19.70m
0
4m

第 12 図　ＳＢ 625



第13図　B区遺構配置図(1)



第14図　Ｂ区遺構配置図（２）

《柱穴》６基検出された。個々の柱穴については第３表のとおりである。
《出土遺物》炭化米が少量出土した。

第３表　ＳＫＩ633柱穴一覧表

柱穴番号	平面形	大きさ			底面標高(ｍ)	備　考
		長軸(ｍ)	短軸(ｍ)	深さ(ｍ)		
Ｐ１	円形	0.25	0.24	0.26	18.78	
Ｐ２	方形	0.45	0.43	0.46	18.69	
Ｐ３	楕円形	0.27	0.19	0.25	18.93	
Ｐ４	楕円形	0.32	0.25	0.27	18.73	
Ｐ５	楕円形	0.45	0.26	0.44	18.61	
Ｐ６	楕円形	0.30	0.23	0.23	18.86	

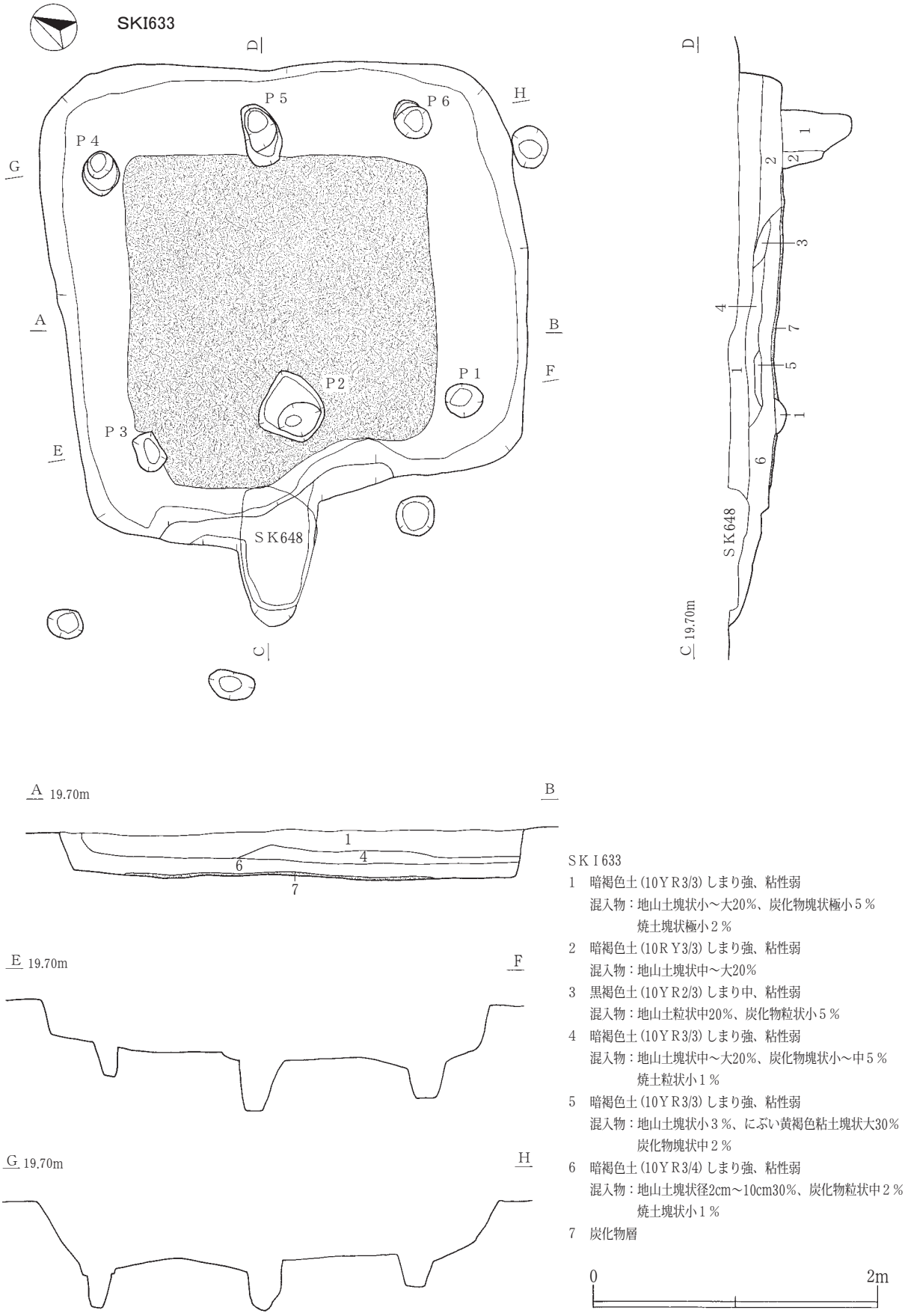
※（　）内の平面形と数値は推定である。　※重複関係は、旧→新である。

ＳＫＩ638（第16図、図版４－８）
《位置・確認状況》ＭＦ・ＭＧ112、ＭＦ・ＭＧ113グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＥ660・ＳＫ643・ＳＫＰ667と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北東－南西）3.68m、短軸（北西－南東）3.06m、確認面からの深さ0.23mである。北西側に長さ0.65m、幅0.85mの出入り口が付属する。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面はほぼ平坦である。
《柱穴》６基検出された。個々の柱穴については第４表のとおりである。
《堆積土》５層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

第４表　ＳＫＩ638柱穴一覧表

柱穴番号	平面形	大きさ			底面標高(ｍ)	備　考
		長軸(ｍ)	短軸(ｍ)	深さ(ｍ)		
Ｐ１	不整形	0.75	0.45	0.45	18.84	
Ｐ２	楕円形	0.43	0.37	0.49	18.81	
Ｐ３	楕円形	0.71	0.43	0.45	18.81	
Ｐ４	楕円形	0.89	0.64	0.53	18.77	
Ｐ５	楕円形	0.84	0.51	0.49	18.80	
Ｐ６	楕円形	(0.83)	0.52	0.26	19.04	Ｐ６→ＳＫ643、Ｐ６→ＳＫＰ667

※（　）内の平面形と数値は推定である。　※重複関係は、旧→新である。



SＫＩ633

1　暗褐色土(10ＹＲ3/3)しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状小～大20％、炭化物塊状極小５％
　　焼土塊状極小２％

2　暗褐色土(10ＲＹ3/3)しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中～大20％

3　黒褐色土(10ＹＲ2/3)しまり中、粘性弱
　混入物：地山土粒状中20％、炭化物粒状小５％

4　暗褐色土(10ＹＲ3/3)しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中～大20％、炭化物塊状小～中５％
　　焼土粒状小１％

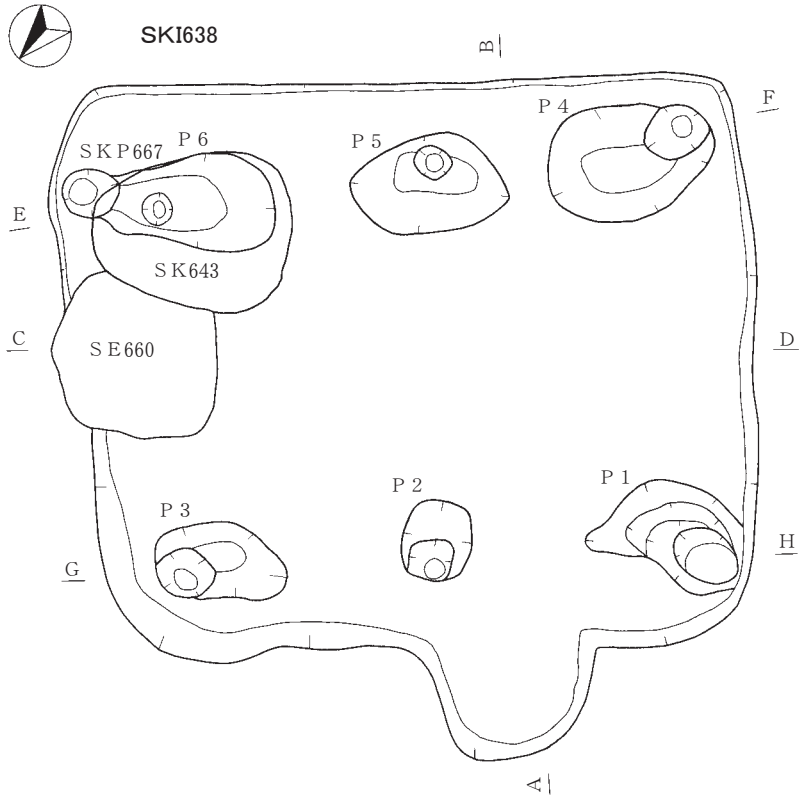
5　暗褐色土(10ＹＲ3/3)しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状小３％、にぶい黄褐色粘土塊状大30％
　　炭化物塊状中２％

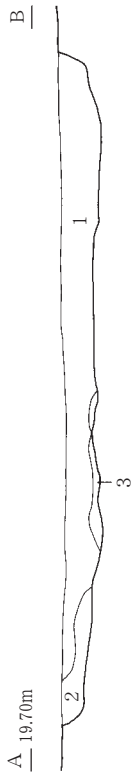
6　暗褐色土(10ＹＲ3/4)しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状径2cm～10cm30％、炭化物粒状中２％
　　焼土塊状小１％

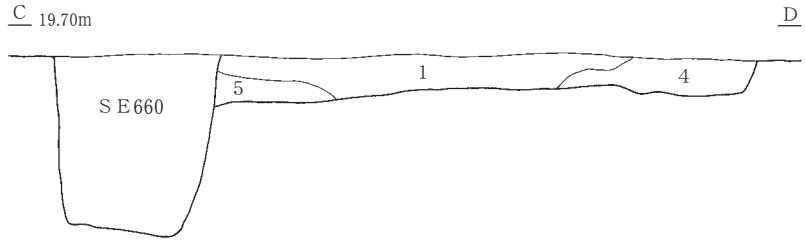
7　炭化物層

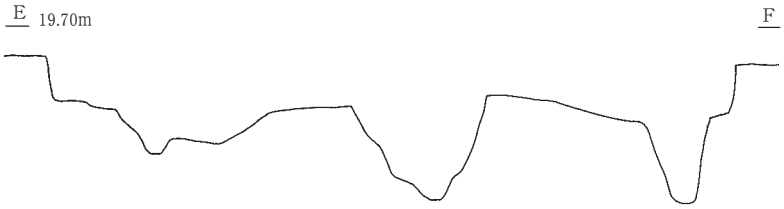
0　2m

第15図　ＳＫＩ633









ＳＫＩ638

1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状大５％、炭化物塊状小～中１％
　　焼土粒状小１％未満

2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中～大３％、炭化物塊状小３％
　　焼土粒状中１％未満

3　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中５％、炭化物塊状中～大15％

4　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中１％、炭化物粒状小～中１％
　　焼土粒状中１％未満

5　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中１％、炭化物塊状中１％

第16図　ＳＫＩ638

（３）かまど状遺構

ＳＯ537（第17図、図版５－１）

《位置・確認状況》ＭＱ124グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。

《重複》なし。

《平面形・規模》南西側が調査区外にかかり全容を把握できなかったが、その平面形は楕円形を呈するものと推察される。確認できた規模は長軸（北東－南西）1.78m、短軸（北西－南東）0.44m、確認面からの深さ0.26mである。南西側が焚き口、北東側が燃焼部である。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかである。底面はほぼ平坦で燃焼部へ緩やかに傾斜している。底面には広く炭化物層が確認された。また、壁面と底面には被熱を受けて赤褐色や暗赤褐色に変色した個所が部分的に認められた。

《堆積土》３層に分けられた。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ538（第17図、図版５－２）

《位置・確認状況》ＭＭ120・121グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。

《重複》なし。

《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）2.74m、短軸（北西－南東）0.83m、確認面からの深さ0.17mである。北東側が焚き口、南西側が燃焼部である。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦であり、一面に炭化物が確認された。

《堆積土》３層に分けられた。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ540（第18図）

《位置・確認状況》ＭＨ114・115グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。

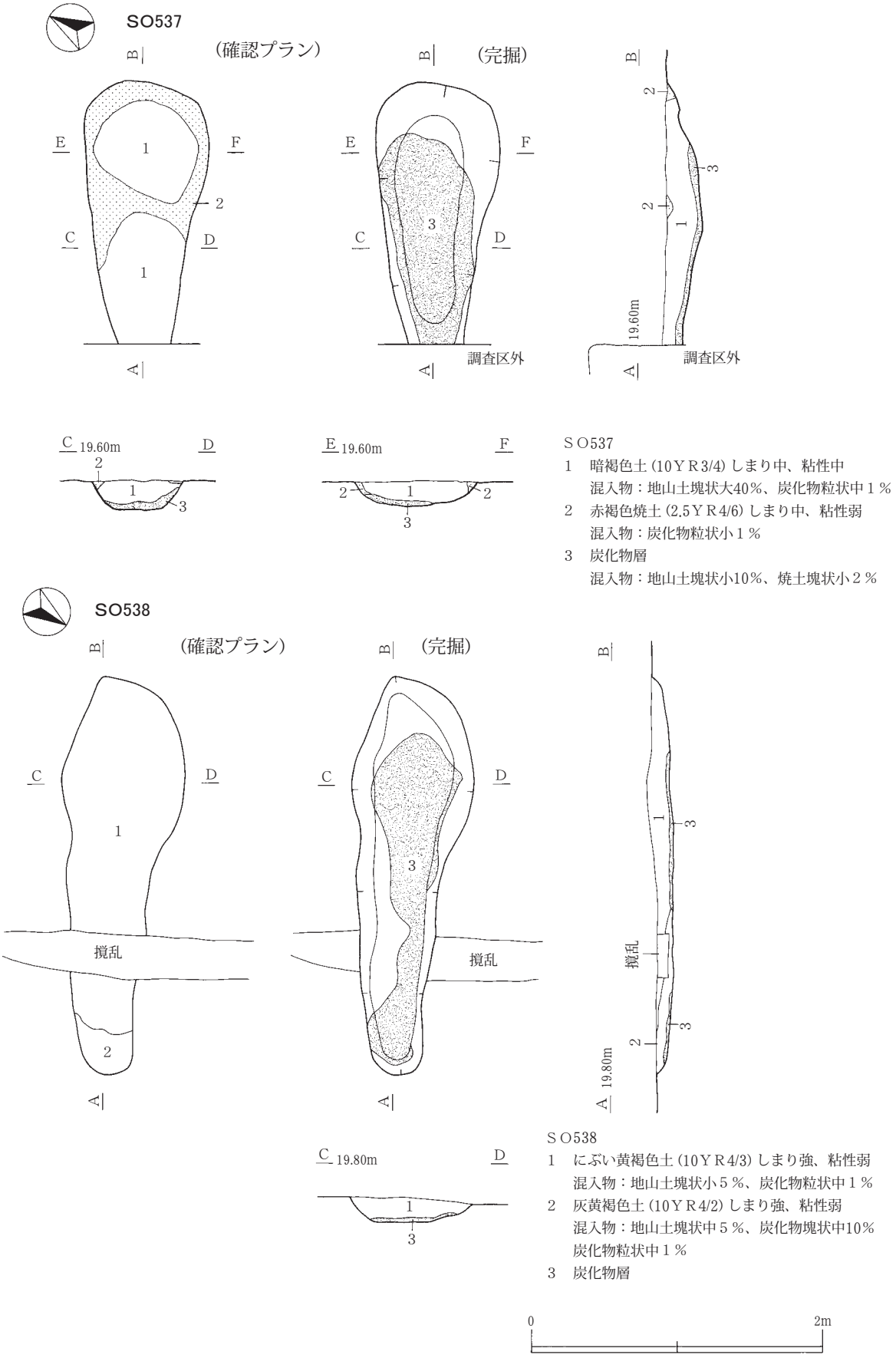
《重複》ＳＯ542と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）1.78m、短軸（北西－南東）1.00m、確認面からの深さ0.25mである。北東側が焚き口、南西側が燃焼部である。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかであり、燃焼部の壁は被熱を受けているがあまり硬化していない。また、炭化物が付着している個所も見受けられた。底面はほぼ平坦である。燃焼部の底面は被熱によって暗赤褐色しており、焚き口付近では炭化物層が確認された。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。



ＳＯ537
1　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土塊状大40％、炭化物粒状中１％
2　赤褐色焼土（2.5ＹＲ4/6）しまり中、粘性弱
　　混入物：炭化物粒状小１％
3　炭化物層
　　混入物：地山土塊状小10％、焼土塊状小２％

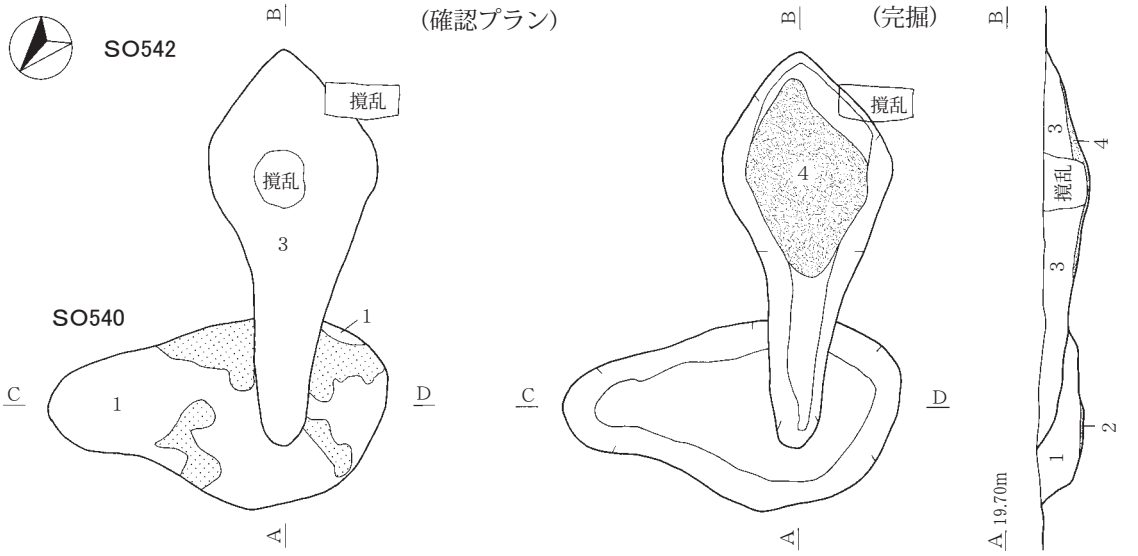
ＳＯ538
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状小５％、炭化物粒状中１％
2　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状中５％、炭化物塊状中10％
　　炭化物粒状中１％
3　炭化物層

第17図　ＳＯ537・538

ＳＯ541（第18図、図版５－３）
《位置・確認状況》ＭＨ114グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＫＰ672と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北西－南東）1.30m、短軸（北東－南西）0.90m、確認面からの深さ0.24mである。北西側が焚き口、南東側が燃焼部である。更に南東側に煙道と思われる突起が付設する。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。底面には炭化物層が確認された。底面は燃焼部にかけて緩やかに傾斜して暗赤褐色に被熱し硬化している。燃焼部の壁も被熱し硬化している。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

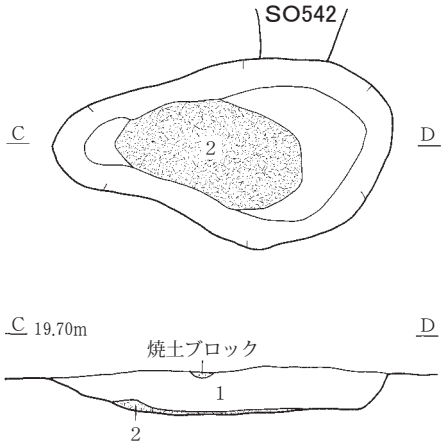
ＳＯ542（第18図、図版５－４）
《位置・確認状況》ＭＨ114グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む黒褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＯ540と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北西－南東）2.09m、短軸（北東－南西）0.90m、確認面からの深さ0.22mであり、北西側が焚き口、南東側が燃焼部である。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかであり、底面は波状である。燃焼部の壁は若干被熱しているが硬化はしていない。また炭化物が付着している個所も見受けられた。底面は燃焼部中央にかけて緩やかに傾斜しており、その部分に炭化物が広がっていた。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

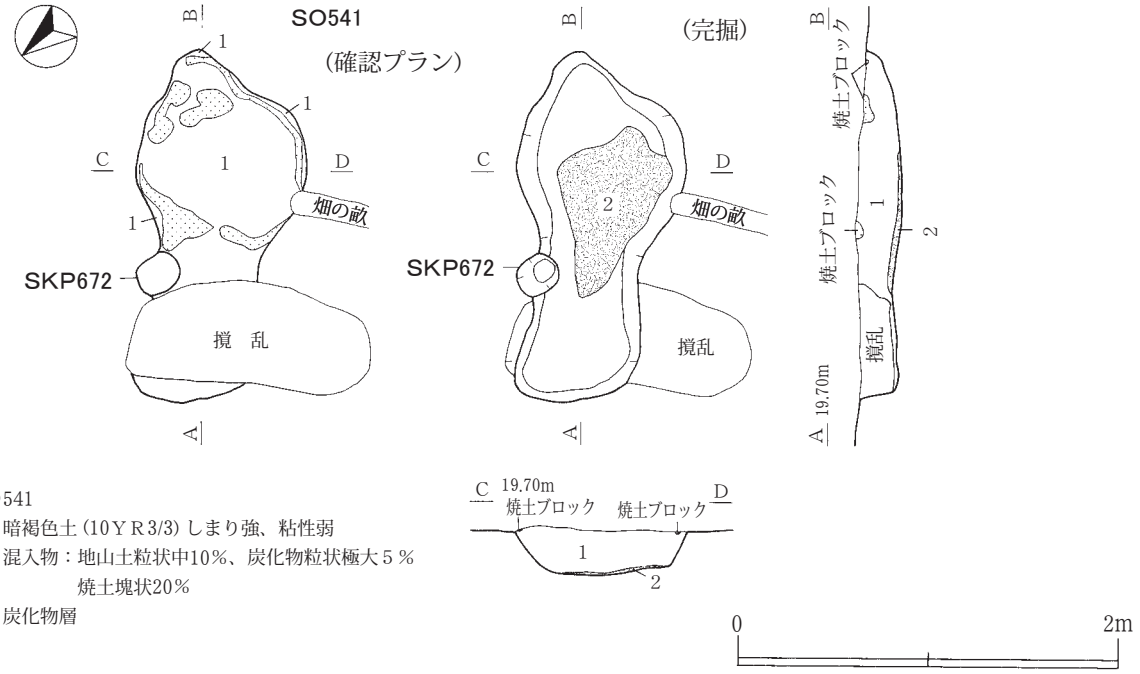
ＳＯ547（第19図、図版５－５）
《位置・確認状況》ＭＪ116グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土と焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）2.20m、短軸（北西－南東）1.03m、確認面からの深さ0.21mであり、南西側が焚き口、北東側が燃焼部である。更に北東側に煙道と思われる突起が付設する。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦であり、炭化物が確認された。燃焼部の底面及び壁に被熱痕が見られた。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。



ＳＯ540
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中～大10％、炭化物塊状中２％
　　焼土塊状中～大20％
2　炭化物層

ＳＯ542
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中５％、炭化物塊状中２％
　　焼土粒状中３％
4　炭化物層





ＳＯ541
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土粒状中10％、炭化物粒状極大５％
　　焼土塊状20％
2　炭化物層

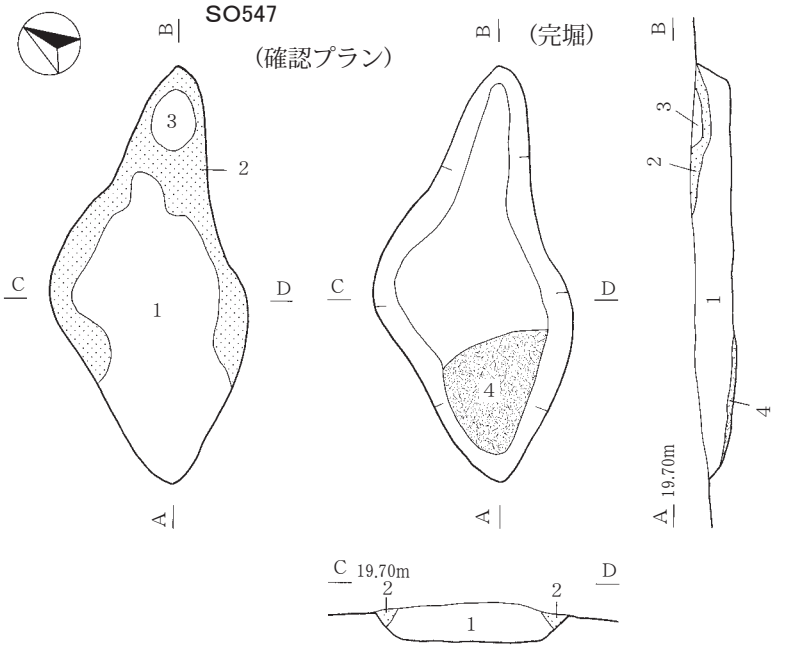
第18図　ＳＯ540・541・542

ＳＯ548（第19図、図版５－６）
《位置・確認状況》ＭＪ116グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形･規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北西－南東）1.94m､短軸（北東－南西）0.87m、確認面からの深さ0.29mである。北西から南東方向に焚き口、燃焼部が配置され、さらにその方向から35°南に傾いて煙道が付設されている。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦であり、炭化物が確認された。燃焼部の両側縁に被熱痕が見られた。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

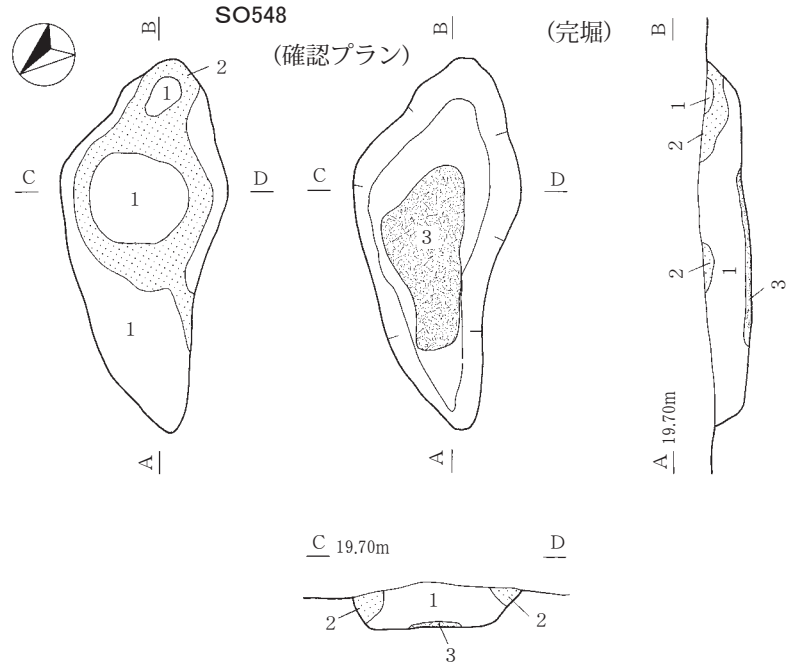
ＳＯ549（第19図、図版５－７）
《位置・確認状況》ＭＪ116グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土と焼土ブロックを含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形･規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）1.15m､短軸（北西－南東）0.74m、確認面からの深さ0.16mであり、北東側が焚き口、南西側が燃焼部である。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦であり、広く炭化物が確認された。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ562（第20図、図版５－８）
《位置・確認状況》ＭＮ119グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土ブロックを含む赤褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＯ563・564と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北－南）2.28m、短軸（東－西）1.16m、確認面からの深さ0.28mであり、北側が焚き口、南側が燃焼部である。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。燃焼部の壁は被熱によってやや硬化しているのが確認された。
《堆積土》６層に分けられた。５層はＳＯ562の底面の炭化物層であり、９層は重複するＳＯ564の底面の炭化物層と思われる。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

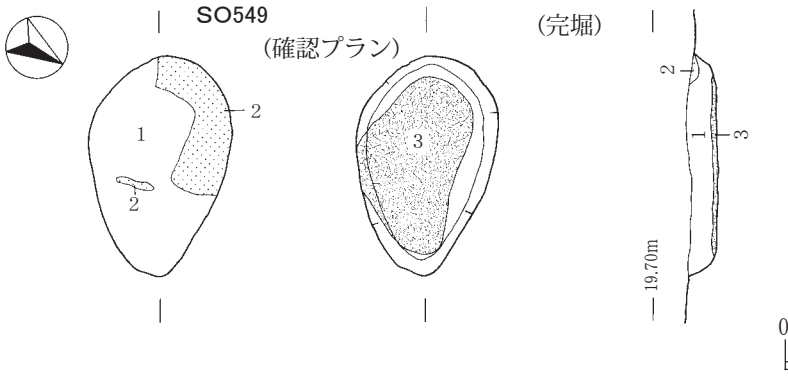
ＳＯ563（第20図）
《位置・確認状況》ＭＮ119グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土を含む暗褐色土の広がりとして確認した。



ＳＯ547
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性弱
　混入物：焼土塊状小10％、焼土塊状中～大20％
2　明赤褐色土（2.5ＹＲ5/8）しまり中、粘性弱
　混入物：暗褐色土塊状中10％、極暗赤褐色土塊状中20％
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：極暗赤褐色土塊状小７％、焼土塊状小～中15％
4　炭化物層



ＳＯ548
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状小20％、炭化物粒状中３％
　　焼土塊状中～大10％
2　赤褐色土（５ＹＲ4/6）しまり中、粘性弱
　混入物：地山土塊状小10％
3　炭化物層



ＳＯ549
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：焼土塊状小２％
2　明赤褐色土（2.5ＹＲ5/8）しまり中、粘性弱
　混入物：褐色土塊状極小10％
3　炭化物層

0　2m

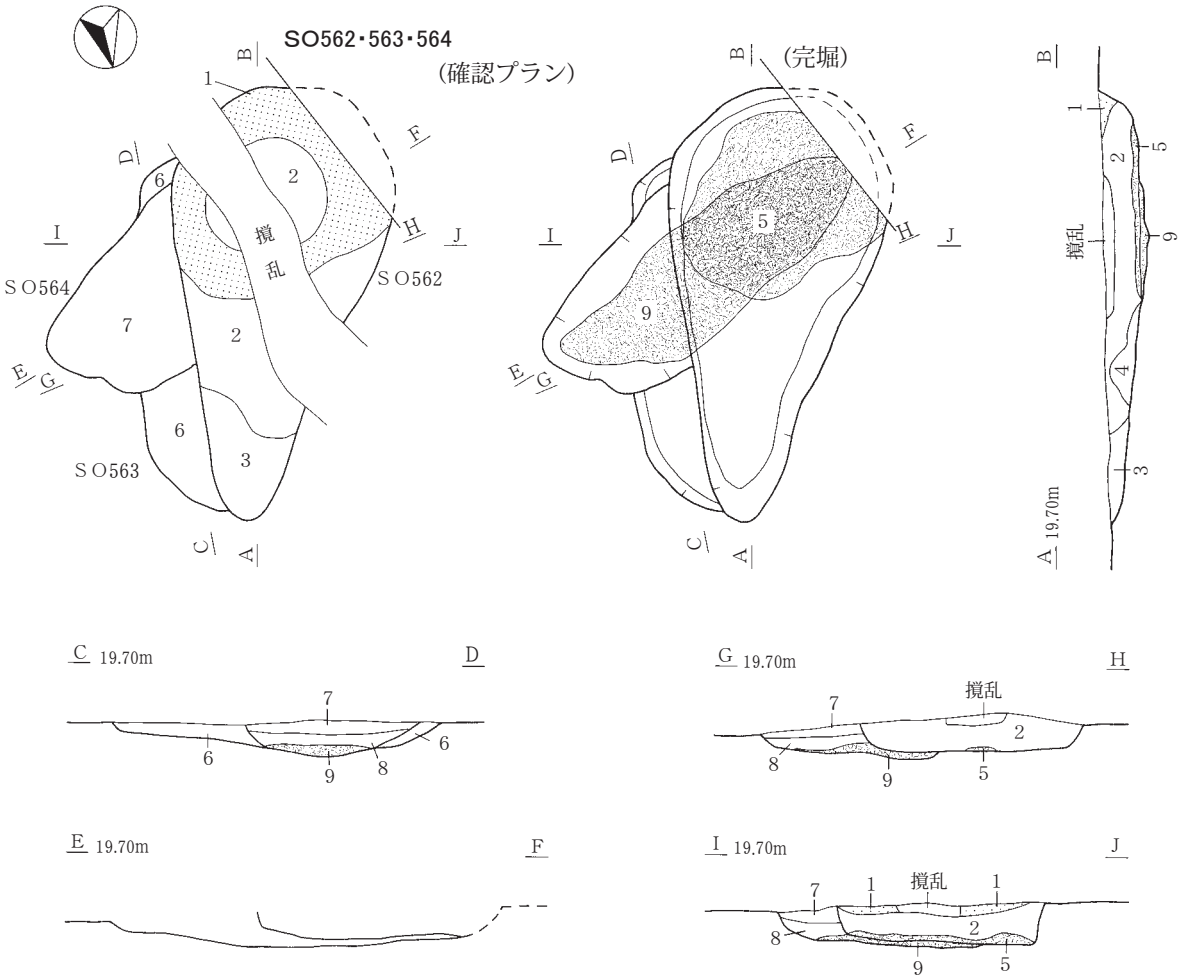
第19図　ＳＯ547・548・549

《重複》ＳＯ562・564と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形・規模》ＳＯ562・564と重複しており、全容を把握できなかったが、平面形は楕円形を呈するものと推察される。確認できた規模は長軸（北－南）1.84m、短軸（東－西）0.32m、確認面からの深さ0.16mである。底面の高低から北側が焚き口、南側が燃焼部と考えられる。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

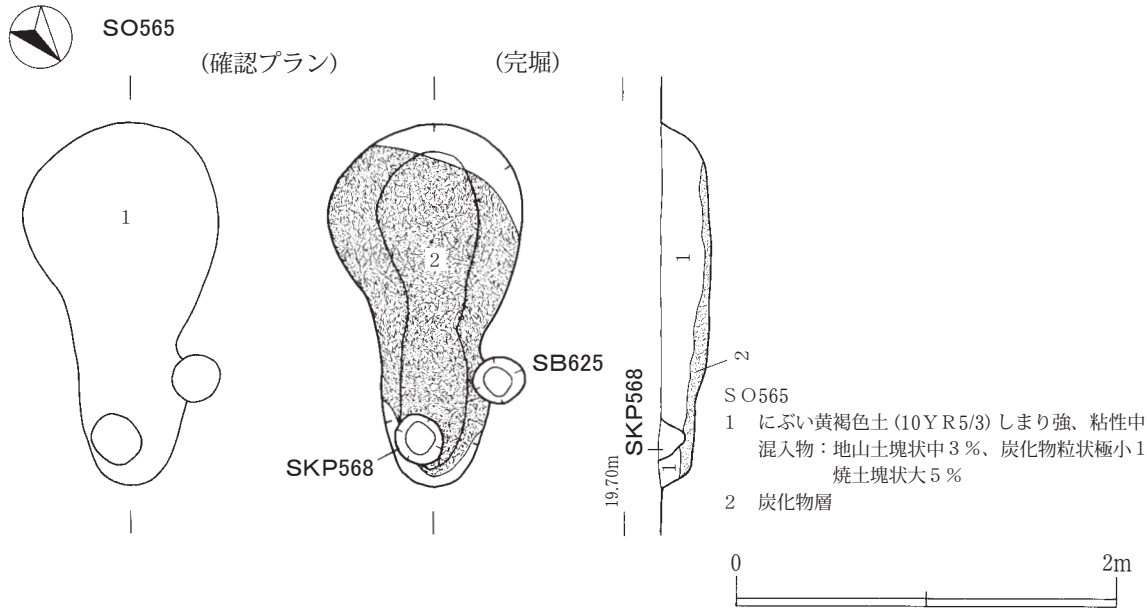
ＳＯ564（第20図）
《位置・確認状況》ＭＮ119グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＯ562・563と重複する。本遺構はＳＯ562より古くＳＯ563より新しい。
《平面形・規模》ＳＯ562・563と重複しており、全容は把握できなかったが、平面形は楕円形を呈するものと推察される。確認できた規模は長軸（東－西）0.84m、短軸0.76m（北－南）、確認面からの深さ0.18mである。東側が焚き口、西側が燃焼部と考えられる。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ565（第20図、図版５－９）
《位置・確認状況》ＭＪ117・118グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＫＰ568・ＳＢ625Ｐ７と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）1.92m、短軸（北西－南東）1.03m、確認面からの深さ0.27mである。北東側が焚き口、南西側が燃焼部である。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦ある。焚き口と燃焼部の底面は被熱を受けて硬化し暗赤褐色に変色している。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ587（第21図、図版５－10）
《位置・確認状況》ＭＫ117グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＥ639と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形・規模》当初ＳＥ639も含めて不整形のかまど状遺構と考えたが、半裁時点で燃焼部と思われた部分が井戸と分かった。よってかまど状遺構は、焚き口と思われる三角形の部分しか残っていなかった。確認できた規模は長軸（北－南）1.01m、短軸（東－西）0.63m、確認面からの深さ0.12m



SO562
1　赤褐色土(５YR4/8)しまり中、粘性弱
　　混入物：地山土塊状小７％
2　にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまり中、粘性中
　　混入物：暗褐色土塊状小10％
3　暗褐色土(10YR3/3)しまり中、粘性中
　　混入物：炭化物粒状５％
4　にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまり中、粘性中
　　混入物：焼土塊状極小２％
5　炭化物層
SO563
6　暗褐色土(10YR3/3)しまり中、粘性中
　　混入物：褐色土塊状小20％、焼土粒状小５％
SO564
7　褐色土(10YR4/4)しまり中、粘性中
　　混入物：焼土粒状中５％
8　暗褐色土(10YR2/2)しまり中、粘性中
　　混入物：褐色土塊状中～大25％、焼土塊状中７％
9　炭化物層



SO565
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)しまり強、粘性中
　　混入物：地山土塊状中３％、炭化物粒状極小１％
　　焼土塊状大５％
2　炭化物層

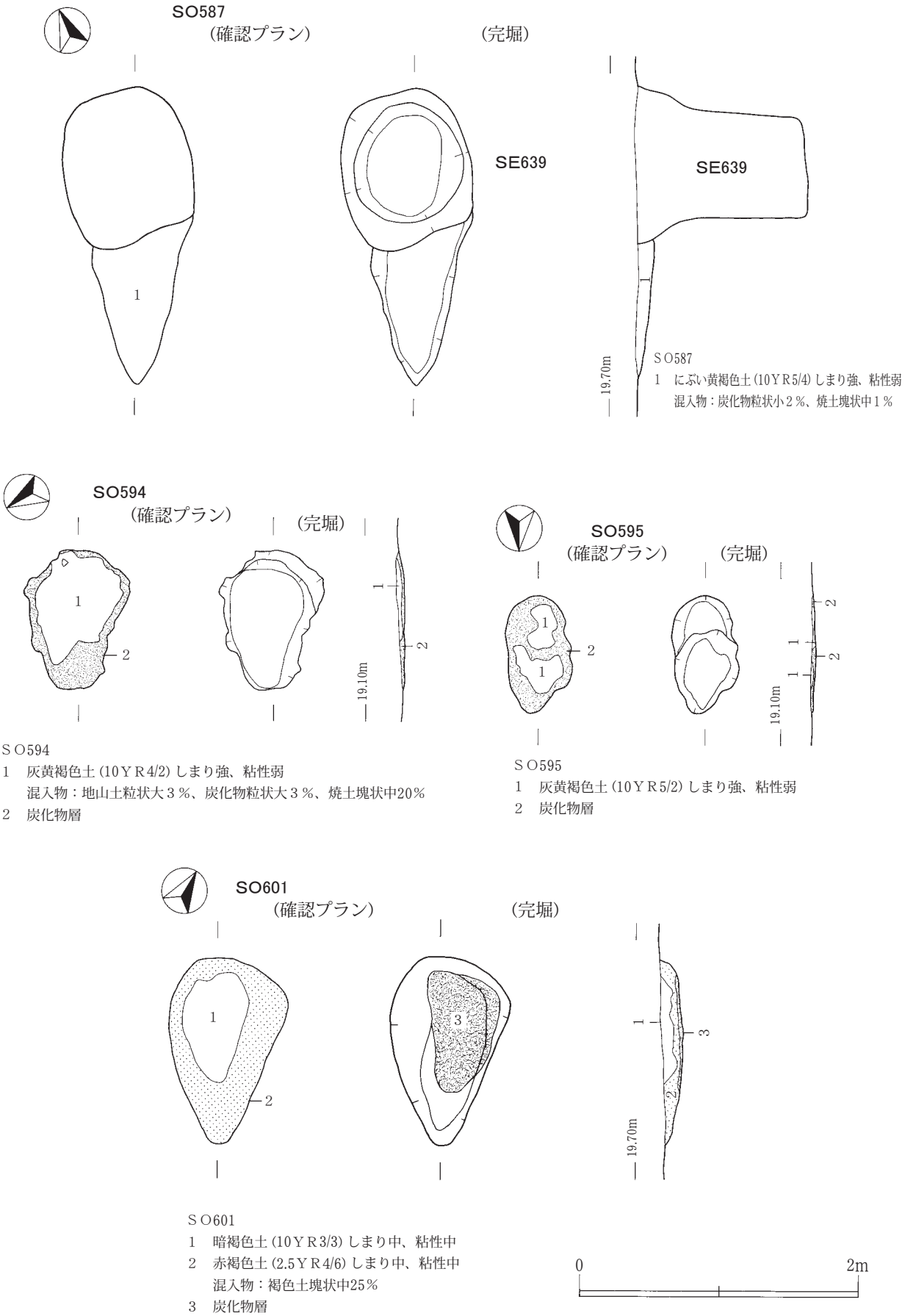
第20図　ＳＯ562・563・564・565

である。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ594（第21図、図版５－11）
《位置・確認状況》ＬＭ86グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山・炭化物・焼土を含む灰黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整な楕円形である。上部は削平されてほとんど残っていない。規模は長軸（北西－南東）1.00m、短軸（北東－南西）0.76m、確認面からの深さ0.06mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》２層に分けられた。２層は炭化物層であり、藁のような物が混入していた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ595（第21図、図版５－12）
《位置・確認状況》ＬＬ86グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む灰黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整な楕円形である。上部は削平されてほとんど残っていない。規模は長軸（北－南）0.84m、短軸（東－西）0.45m、確認面からの深さ0.03mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。底面は北に向かって若干傾斜しており、ところどころ被熱し硬化している。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ601（第21図、図版５－13）
《位置・確認状況》ＭＭ116・117グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北西－南東）1.33m、短軸（北東－南西）0.85m、確認面からの深さ0.17mである。南東側が焚き口、北西側が燃焼部である。
《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面は平坦である。北西側の底面に炭化物層が広がっている。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。



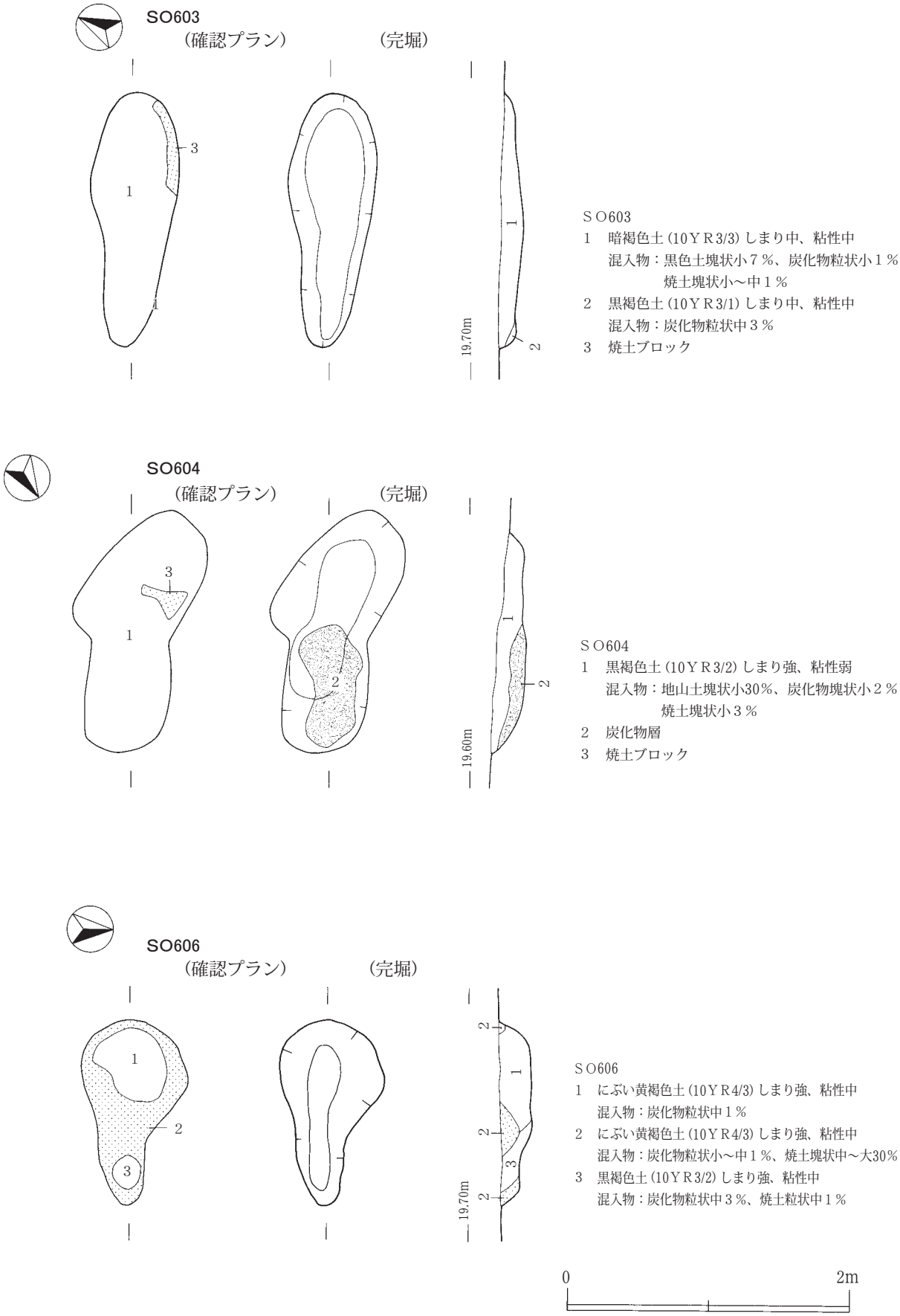
第21図　ＳＯ587・594・595・601

ＳＯ603（第22図、図版５－14）
《位置・確認状況》ＭＫ・ＭＬ116グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）1.80m、短軸（北西－南東）0.62m、確認面からの深さ0.16mであり、南西側が焚き口、北東側が燃焼部である。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ604（第22図、図版５－15）
《位置・確認状況》ＭＫ116グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含む黒褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）1.77m、短軸（北西－南東）0.74m、確認面からの深さ0.26mである。北東側が焚き口、南西側が燃焼部である。燃焼部は焚き口の方向より東に30°傾いている。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦であり、北側に炭化物が広がっている。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ606（第22図、図版６－１）
《位置・確認状況》ＭＫ115グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土ブロックを含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（東－西）1.30m、短軸（北－南）0.75m、確認面からの深さ0.24mである。東側が焚き口、西側が燃焼部である。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ607（第23図、図版６－２）
《位置・確認状況》ＭＪ114グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土ブロックを含む黒褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）1.75m、短軸（北西－南東）0.67m、確認面からの深さ0.21mである。南西側が焚き口、北東側が燃焼部である。更に燃焼部の北東側に煙



ＳＯ603
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり中、粘性中
　混入物：黒色土塊状小７％、炭化物粒状小１％
　　焼土塊状小～中１％
2　黒褐色土（10ＹＲ3/1）しまり中、粘性中
　混入物：炭化物粒状中３％
3　焼土ブロック

ＳＯ604
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状小30％、炭化物塊状小２％
　　焼土塊状小３％
2　炭化物層
3　焼土ブロック

ＳＯ606
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性中
　混入物：炭化物粒状中１％
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性中
　混入物：炭化物粒状小～中１％、焼土塊状中～大30％
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性中
　混入物：炭化物粒状中３％、焼土粒状中１％

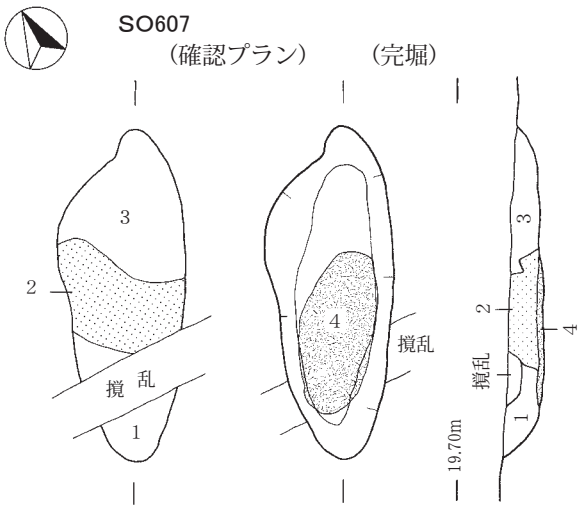
第22図　ＳＯ603・604・606

道と思われる突起が付設していた。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦であり、南西側の焚き口から北東側へ炭化物が広がっている。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

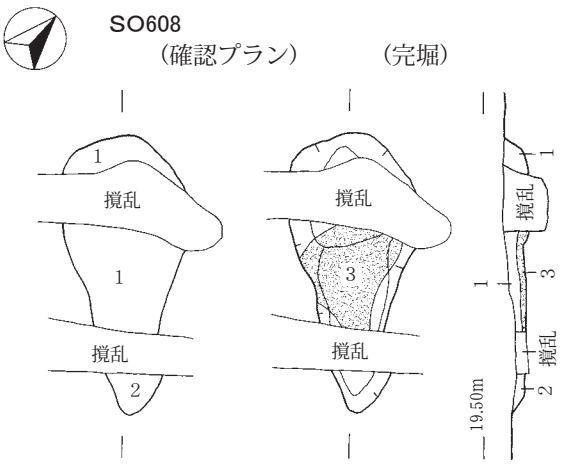
ＳＯ608（第23図、図版６－３）
《位置・確認状況》ＭＩ・ＭＪ114グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土を含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北西－南東）1.46m、短軸（北東－南西）0.70m（推定）、確認面からの深さ0.15mである。遺構は２本の畝跡で撹乱されているが、南東側が焚き口、北西側が燃焼部と思われる。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ610（第23図、図版６－４）
《位置・確認状況》ＭＪ112・113グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（東－西）1.20m、短軸（北－南）0.89m、確認面からの深さ0.18mである。東側が焚き口、西側が燃焼部である。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。焚き口部の底面と壁は被熱によって暗赤褐色に変色しているが、あまり硬化していなかった。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

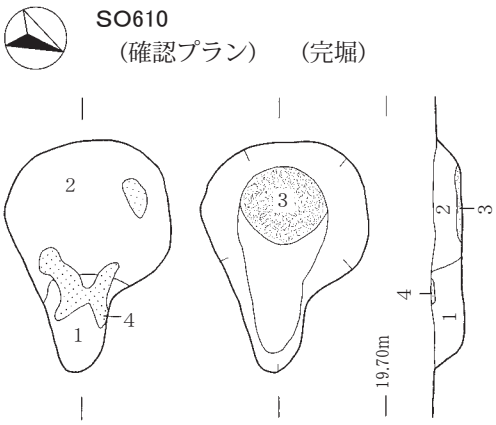
ＳＯ611（第23図、図版６－５）
《位置・確認状況》ＭＨ113グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）1.15m、短軸（北東－南西）0.42m、確認面からの深さ0.19mである。北西側が燃焼部、南東側が煙道と思われるが、燃焼部の上部は撹乱によりほとんど失われており底面のみが残っていた。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦であり、炭化物が広がっている。
《堆積土》３層に分けられた。



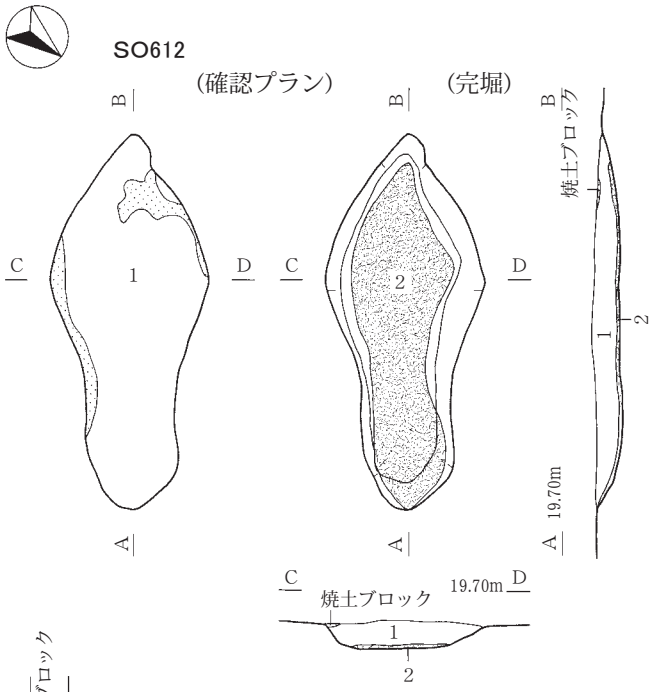
ＳＯ607
1　黒褐色土(10ＹＲ3/2)しまり中、粘性強
　　混入物：炭化物粒状中２％、焼土塊状中１％
2　赤褐色土(2.5ＹＲ4/8)しまり中、粘性中
　　混入物：暗褐色土塊状中50％
3　暗褐色土(10ＹＲ3/3)しまり中、粘性強
　　混入物：炭化物粒状中２％、焼土塊状中２％
4　炭化物層



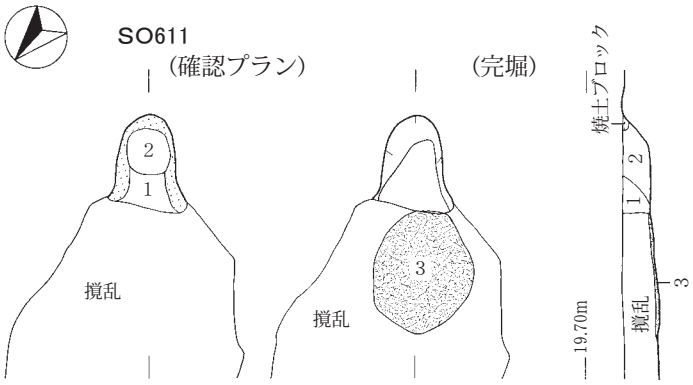
ＳＯ608
1　暗褐色土(10ＹＲ3/3) しまり中、粘性強
　　混入物：焼土粒状中７％
2　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5/4) しまり中、粘性中
　　混入物：炭化物粒状中５％
3　炭化物層



ＳＯ610
1　暗褐色土(10ＹＲ3/3) しまり中、粘性中
　　混入物：焼土塊状小～大25％、黒色土塊状中10％
2　黄褐色土(10ＹＲ5/6) しまり中、粘性中
　　混入物：暗褐色土塊状極小５％
3　炭化物層
4　焼土ブロック



ＳＯ612
1　暗褐色土(10ＹＲ3/3) しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状中～大20％、炭化物粒状大３％
　　焼土塊状中～大10％
2　炭化物層



ＳＯ611
1　褐色土(10ＹＲ4/4) しまり中、粘性中
　　混入物：炭化物粒状中１％、焼土塊状極小５％
2　明赤褐色土(10ＹＲ5/8) しまり中、粘性弱
　　混入物：焼土塊状中30％
3　炭化物層

0　2m

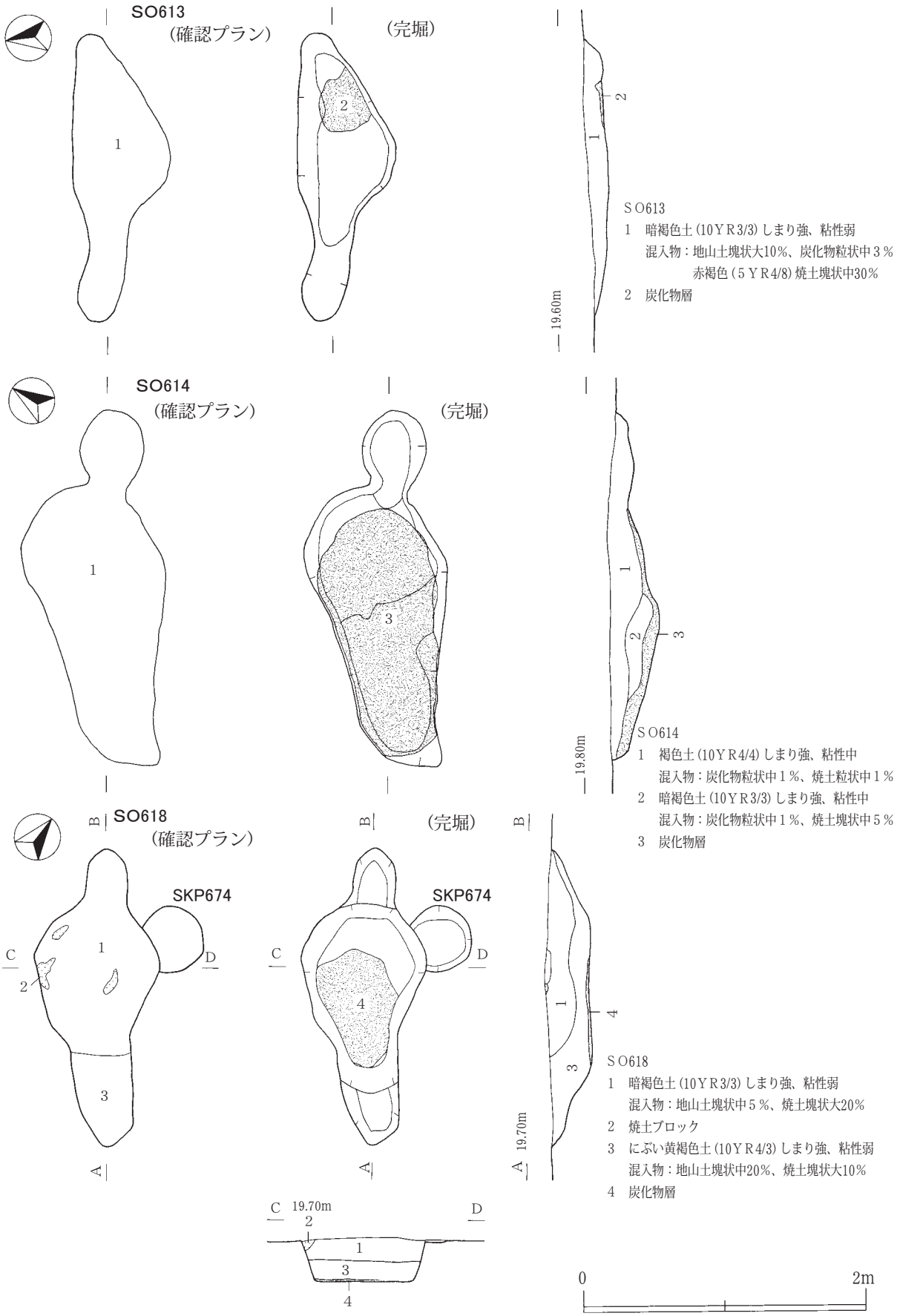
第23図　ＳＯ607・608・610・611・612

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ612（第23図、図版６－６）
《位置・確認状況》ＭＨ112・113グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山と炭化物と焼土や焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形･規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）1.98m､短軸（北西－南東）0.84m、確認面からの深さ0.15mである。北東から南西に向かって焚き口、燃焼部、煙道が直線的に配置されている。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦であり炭化物が広がる。燃焼部の壁は若干被熱しているが硬化はしていない。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ613（第24図、図版６－７）
《位置・確認状況》ＭＪ・ＭＫ114グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（東－西）2.01m、短軸（北－南）0.70m、確認面からの深さ0.18mである。西側が焚き口、東側が燃焼部である。煙道が焚き口、燃焼部方向より西へ30°傾いて付設されている。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。焚き口の部分は緩やかに立ち上がる。煙道部は急である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ614（第24図、図版６－８）
《位置・確認状況》ＭＦ111・112グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）2.62m、短軸（北西－南東）1.00m、確認面からの深さ0.37mである。南西側が焚き口、北東側が燃焼部である。焚き口、燃焼部の方向より13°東に傾いて煙道が付設していた。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は波状である。底面には炭化物が広範囲に広がっている。燃焼部の周辺と、煙道部の底面に被熱痕が確認された。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。



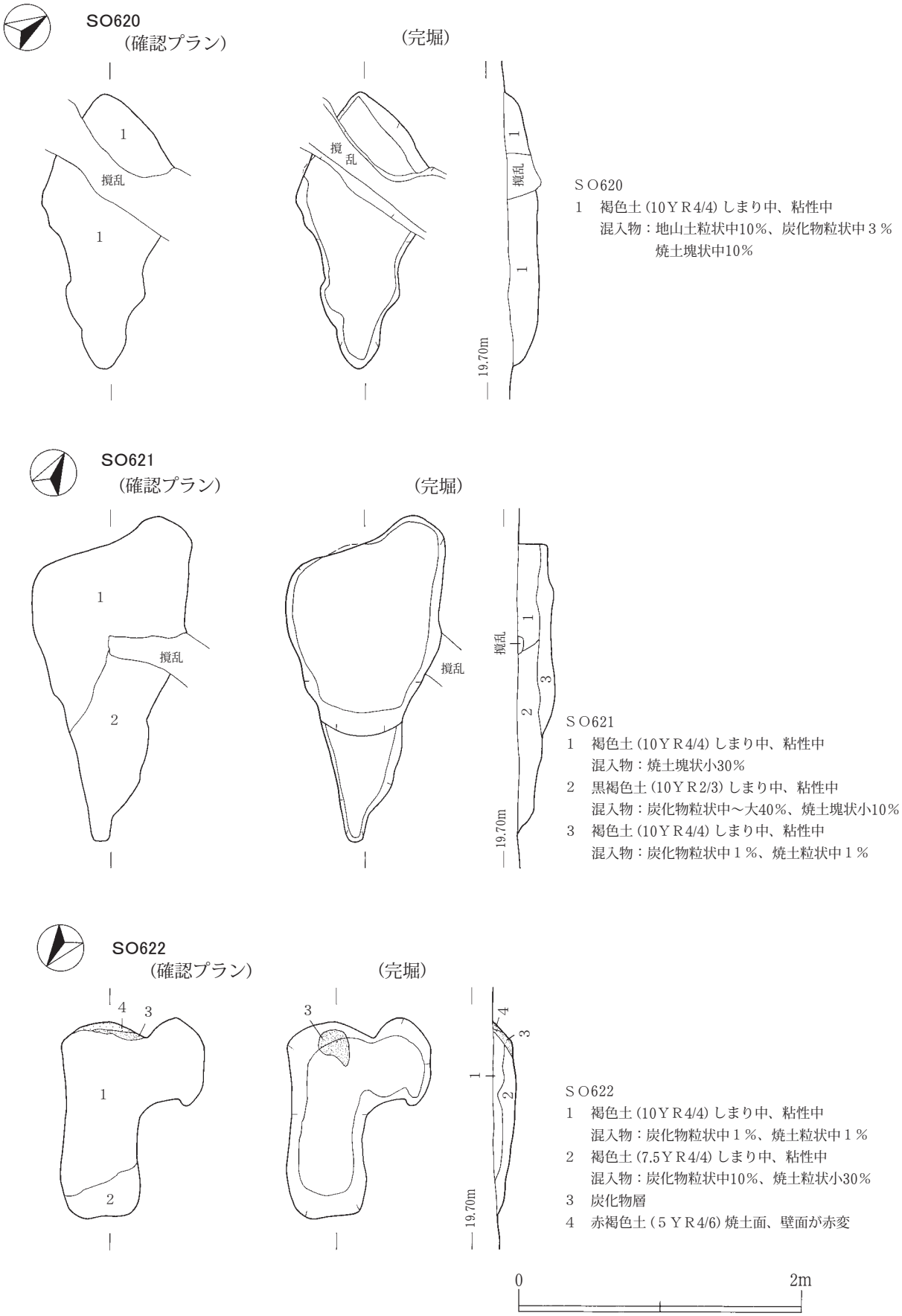
第24図　ＳＯ613・614・618

ＳＯ618（第24図、図版６－９）
《位置・確認状況》ＭＧ113・114グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＫＰ674と重複する。新旧は本遺構が新しい。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北西－南東）2.11m、短軸（北東－南西）0.87m、確認面からの深さ0.31mである。南東から北西に向けて焚き口・燃焼部・煙道が直線状に配置されている。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦であり、炭化物が確認された。燃焼部の壁は若干被熱しているが硬化はしていない。
《堆積土》３層に分けられた。２層は地山と似ており硬くしまっている。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ620（第25図、図版６－10）
《位置・確認状況》ＭＤ110・111グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北西－南東）1.91m、短軸（北東－南西）0.85m、確認面からの深さ0.21mである。南東側が焚き口であり、北西側が燃焼部である。燃焼部の中央が撹乱により欠損していた。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ621（第25図、図版６－11）
《位置・確認状況》ＭＥ109・110グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形であり、規模は長軸（北西－南東）2.10m、短軸（北東－南西）1.10m、確認面からの深さ0.26mである。南東側が焚き口であり、北西側が燃焼部と思われる。北側の突起は煙道の可能性がある。
《壁･底面》壁は、燃焼部の北西壁の傾斜はほぼ垂直である。焚き口の南東壁の傾きは緩やかである。底面は焚き口から燃焼部にかけて段をなして緩く傾斜している。
《堆積土》３層に分けられた。１層は焼土塊が多量に混入している。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ622（第25図、図版６－12）
《位置・確認状況》ＭＦ107･108グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む褐色土の広



ＳＯ620
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：地山土粒状中10％、炭化物粒状中３％
　　焼土塊状中10％

ＳＯ621
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：焼土塊状小30％
2　黒褐色土（10ＹＲ2/3）しまり中、粘性中
　混入物：炭化物粒状中～大40％、焼土塊状小10％
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：炭化物粒状中１％、焼土粒状中１％

ＳＯ622
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：炭化物粒状中１％、焼土粒状中１％
2　褐色土（7.5ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：炭化物粒状中10％、焼土粒状小30％
3　炭化物層
4　赤褐色土（５ＹＲ4/6）焼土面、壁面が赤変

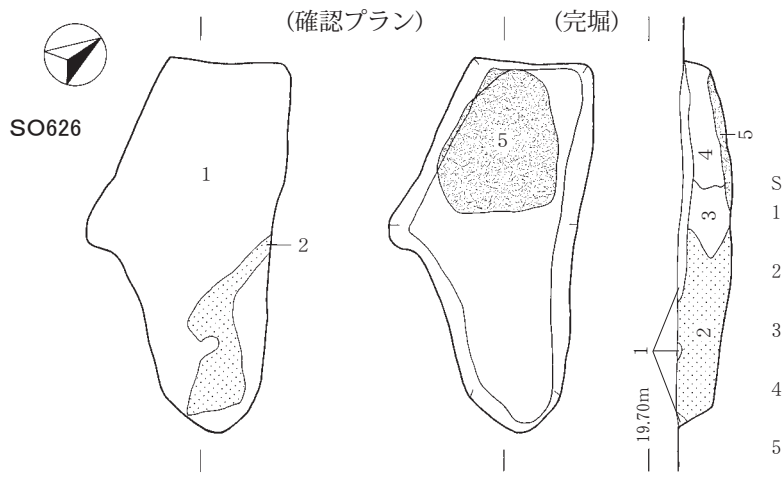
第25図　ＳＯ620・621・622

がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は大きな突出部を持つ楕円形である。規模は長軸（北西－南東）1.38m、短軸（北東－南西）0.99m、確認面からの深さ0.16mである。北西側が焚き口であり、南東側が燃焼部と思われる。南西側の突出部は煙道の可能性が考えられる。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、南側は赤褐色に被熱している。底面は平坦である。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

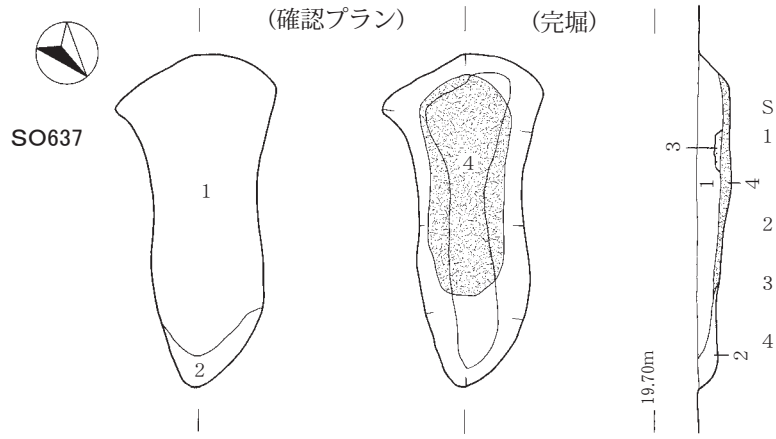
ＳＯ626（第26図、図版６－13）
《位置・確認状況》ＭＤ109・110グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整な楕円形である。規模は長軸（北西－南東）1.95m、短軸（北東－南西）1.00m、確認面からの深さ0.27mである。北西側が焚き口、南東側が燃焼部と思われる。南西側の突起は煙道の可能性がある。
《壁・底面》壁の傾きは、北西・南東の壁ともに傾斜が急である。底面はやや凹状を呈する。
《堆積土》５層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＯ637（第26図、図版６－14）
《位置・確認状況》ＭＫ116・117グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整な楕円形である。長軸（北東－南西）1.75m、短軸（北西－南東）0.83m、確認面からの深さ0.19mである。北東側が焚き口、南西側が燃焼部である。南東側に煙道が付設されていると思われる。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦であり、炭化物が広範囲に確認できた。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

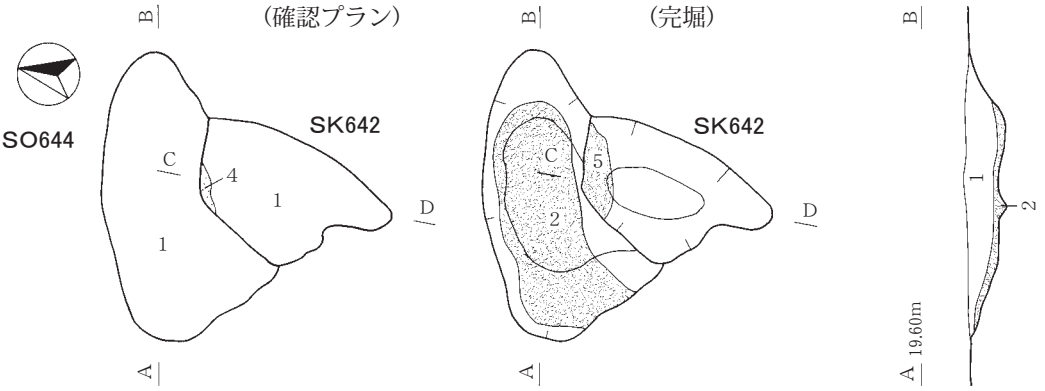
ＳＯ644（第26図、図版６－15）
《位置・確認状況》ＭＮ119グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＫ642と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（東－西）1.53m、短軸（北－南）0.82m、確認面からの深さ0.18mである。西側が焚き口、東側が燃焼部である。



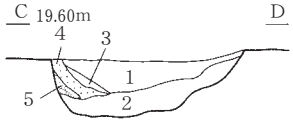
ＳＯ626
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：炭化物粒状中3%、焼土粒状中3%
2　暗赤褐色土（2.5ＹＲ3/4）焼土層
　混入物：炭化物粒状中3%
3　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまりやや強、粘性中
　混入物：炭化物粒状中１%、焼土粒状中１%
4　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：炭化物粒状中５%、焼土粒状中20%
5　炭化物層



ＳＯ637
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性中
　混入物：地山土塊状小１%、炭化物粒状大１%
　　焼土粒状大１%
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ5/4）しまり強、粘性中
　混入物：炭化物粒状極小１%未満
3　焼土ブロック
　混入物：炭化物粒状大２%
4　炭化物層



ＳＯ644
1　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり中、粘性強
　混入物：炭化物粒状小２%、焼土粒状中10%、
　　黒色土塊状小10%
2　炭化物層



ＳＫ642
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性中
　混入物：地山土塊状中２%、炭化物粒状中１%
　　焼土粒状中１%
2　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状大３%、炭化物粒状大２%
3　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性中
　混入物：地山土粒状中１%、炭化物塊状中20%
　　焼土粒状大２%
4　明赤褐色土（2.5ＹＲ5/6）しまり強、粘性中
　混入物：地山土粒状中１%、炭化物粒状中１%
5　炭化物層

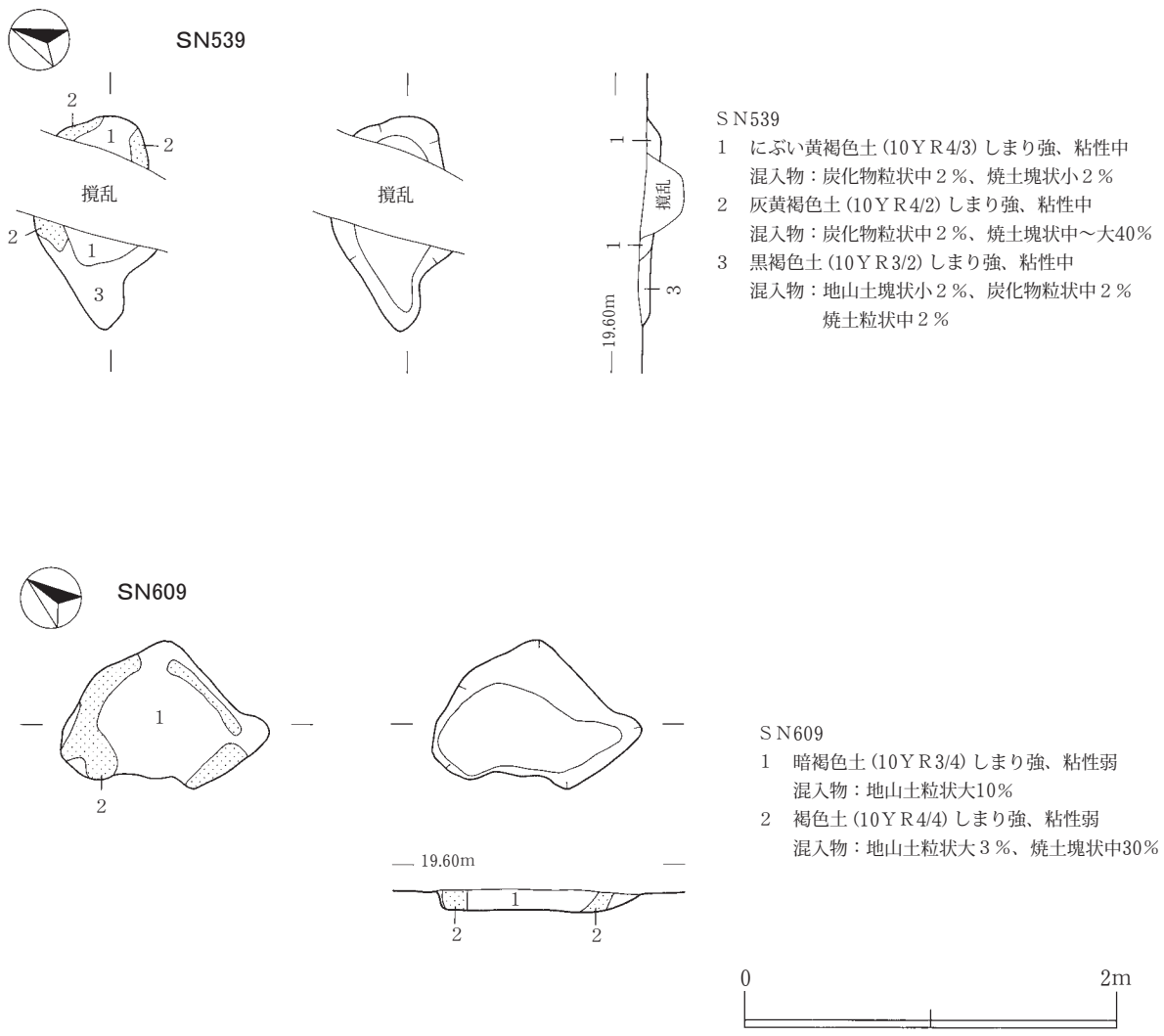
第26図　ＳＯ626・637・644、ＳＫ642

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はやや凹状である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

（４）焼土遺構
ＳＮ539（第27図）
《位置・確認状況》ＭＭ119グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（東－西）1.15m、短軸（北－南）0.61m(残存部)、確認面からの深さ0.09mである。遺構中央部が畑の畝により大きく撹乱されている。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＮ609（第27図、図版７－１）
《位置・確認状況》ＭＩ113・114グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒と焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北西－南東）1.09m、短軸（北東－南西）0.73m、確認面からの深さ0.12mである。
《壁・底面》壁の傾きは北西側がやや急であり、南東側は緩やかである。壁の東側と西側が部分的に被熱している。底面は平坦であり、北側と南側の一部が被熱によって暗赤褐色に変色している。
《堆積土》２層に分けられた。２層には赤褐色の焼土塊が多量に混入している。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

（５）井戸跡
ＳＥ546（第28図、図版７－２）
《位置・確認状況》ＭＫ・ＭＬ122グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒と炭化物を含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北－南）1.71m、短軸（東－西）1.64m、確認面からの深さ1.22mである。
《壁・底面》壁の傾きはほぼ垂直で、底面は平坦である。
《堆積土》５層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。



第27図　ＳＮ539・609

ＳＥ577（第28図、図版７－３）

《位置・確認状況》ＭＩ111グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒と炭化物を含む暗褐色土の広がりとして確認した。

《重複》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（東－西）1.10m、短軸（北－南）0.97m、確認面からの深さ0.87mである。

《壁・底面》壁の傾きは確認面から深さ0.4mまでは徐々に急になり、そこから底面まではほぼ垂直である。底面はほぼ平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。１層には炭化物が多く混入していた。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＥ586（第28図、図版７－４）

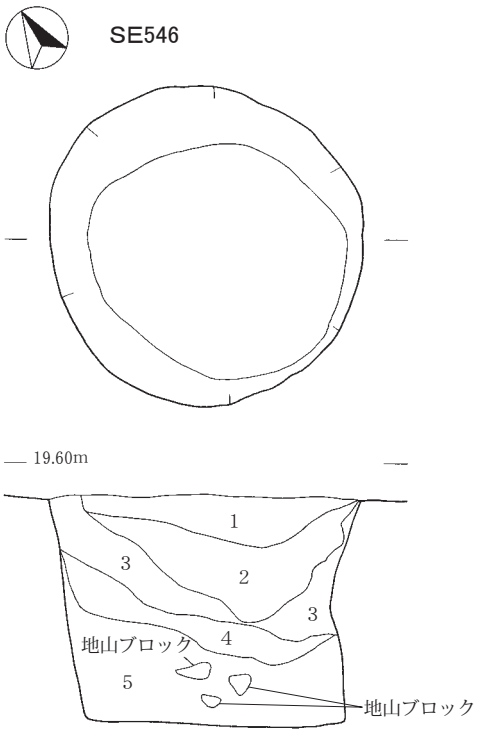
《位置・確認状況》ＭＩ118グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。

《重複》なし。
《平面形・規模》平面形はほぼ円形である。規模は長軸（東－西）0.78m、短軸（北－南）0.72m、確認面からの深さ1.11mである。
《壁・底面》壁の傾きはほぼ垂直で、底面は平坦である。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

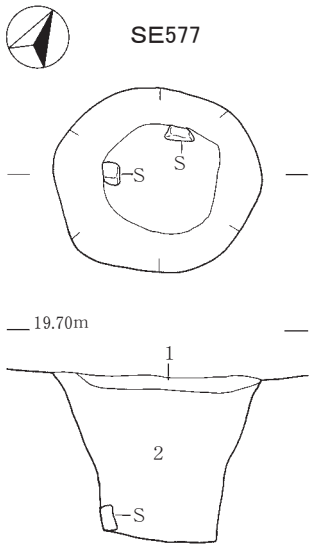
ＳＥ599（第29図、図版７－５）
《位置・確認状況》ＬＭ87・88、ＬＮ87・88グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒を含む黒褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北－南）0.85m、短軸（東－西）0.79m、確認面からの深さ0.68mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》底面で中世～近世初頭の青磁片が１点出土した（第29図２）。２は口縁部から胴部上半の破片である。口縁部が外反し胴部にふくらみを持つ皿である。

ＳＥ600（第28図、図版７－６）
《位置・確認状況》ＭＩ117グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＫ588と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形･規模》平面形はほぼ円形である。規模は長軸（東－西）0.64m、短軸（北－南）0.58m（残存部）、確認面からの深さ1.01mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

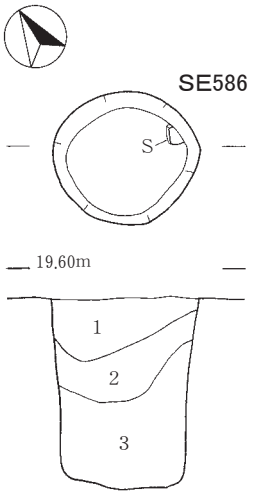
ＳＥ617（第29図、図版７－７）
《位置・確認状況》ＭＦ113・114グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊と炭化物を含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は円形である。規模は長軸（北東－南西）1.45m、短軸（北西－南東）1.42m、確認面からの深さ1.06mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。



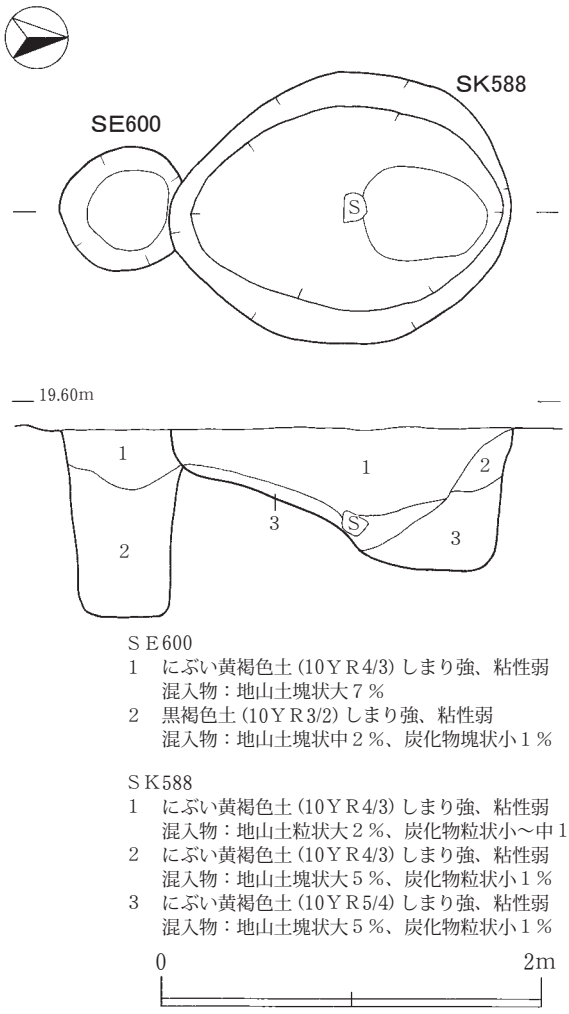
ＳＥ546
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土粒状中３％、塊状小３％
　　炭化物粒状中２％、塊状中１％
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中～大10％、炭化物粒状中10％
　　暗赤褐色焼土（５ＹＲ3/6）塊状小１％
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり強、粘性弱
　混入物：１層・２層由来土が筋状に入る
4　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性中
5　褐色土（10ＹＲ4/4）シルト～砂質、しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状大１％、炭化物粒状小１％



ＳＥ577
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状大３％、炭化物塊状小～中１％
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土粒状中10％、炭化物粒状中５％



ＳＥ586
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性中
　混入物：地山土塊状大３％、炭化物塊状小～中１％
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性中
　混入物：地山土塊状大２％、炭化物塊状中～大５％
3　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性中
　混入物：地山土塊状大３％、炭化物黒褐色土状小１％



ＳＥ600
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状大７％
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中２％、炭化物塊状小１％

ＳＫ588
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土粒状大２％、炭化物粒状小～中１％
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状大５％、炭化物粒状小１％
3　にぶい黄褐色土（10ＹＲ5/4）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状大５％、炭化物粒状小１％

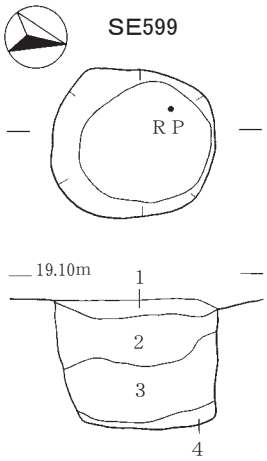
第28図　ＳＥ546・577・586・600、ＳＫ588

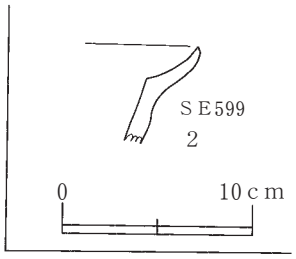
ＳＥ624（第29図、図版７－８）
《位置・確認状況》ＭＨ115グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊と炭化物や焼土を含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）1.33m、短軸（北西－南東）1.28m、確認面からの深さ0.96mである。
《壁・底面》壁の傾きはほぼ垂直で、底面は平坦である。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＥ631（第30図、図版７－９）
《位置・確認状況》ＭＧ108グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は惰円形である。規模は長軸（北－南）1.73m、短軸（東－西）1.43m（残存部）、確認面からの深さ1.03mである。
《壁・底面》壁の傾きは南側は急で、北側はやや緩やかである。底面は鍋底状である。
《堆積土》５層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

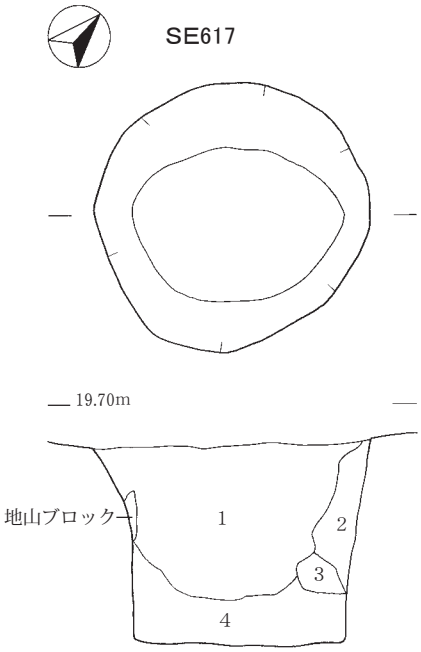
ＳＥ634（第30図、図版７－10）
《位置・確認状況》ＭＦ・ＭＧ109グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊と炭化物を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は南東側が撹乱されているが惰円形と思われる。規模は長軸（北東－南西）1.86m、短軸（北西－南東）1.26m（残存部）、確認面からの深さ0.90mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＥ635（第30図）
《位置・確認状況》ＭＪ112グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊を含む黒褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は惰円形である。規模は長軸（北－南）0.77m、短軸（東－西）0.73m、確認面からの深さ0.91mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。

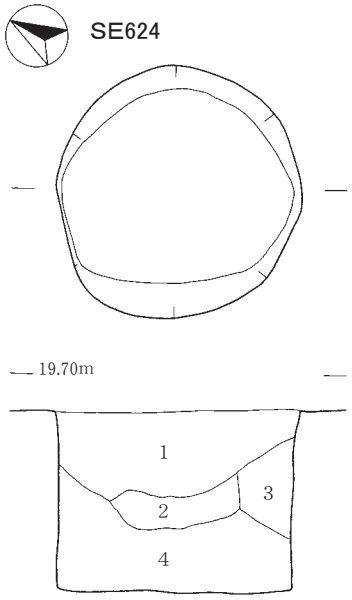




ＳＥ599
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土粒状小３％
2　褐色土（10ＹＲ3/1）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土塊状大20％
3　褐灰色粘土（10ＹＲ6/1）しまり中、粘性中
4　黒色土（10ＹＲ2/1）しまり中、粘性中
　　混入物：茅、藁



ＳＥ617
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状φ２ｃｍ～20ｃｍ20％、炭化物塊状中10％
2　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり強、粘性弱
　　混入物：灰黄褐色粘土塊状小３％、炭化物粒状中３％
3　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土粒状中20％、炭化物粒状小２％
4　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり中、粘性弱
　　混入物：地山土塊状中～大10％、炭化物粒状小１％



ＳＥ624
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状中～大10％、炭化物塊状小３％
　　焼土塊状大３％
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状大30％、炭化物塊状中５％
　　焼土塊状大10％
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状小５％、炭化物塊状小３％
　　焼土塊状中１％
4　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり中、粘性弱
　　混入物：地山土塊状大20％、炭化物塊状中～大10％
　　焼土塊状小10％

0　2m

第29図　ＳＥ599・617・624、遺構内出土遺物

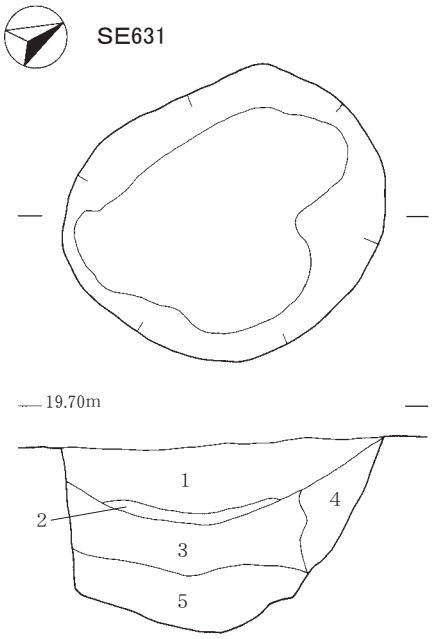
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＥ636（第30図、図版７－11）
《位置・確認状況》ＭＩ117グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は惰円形である。規模は長軸（北－南）1.48m、短軸（東－西）1.25m、確認面からの深さ0.99mである。
《壁・底面》壁の傾きは急であり、底面は平坦である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

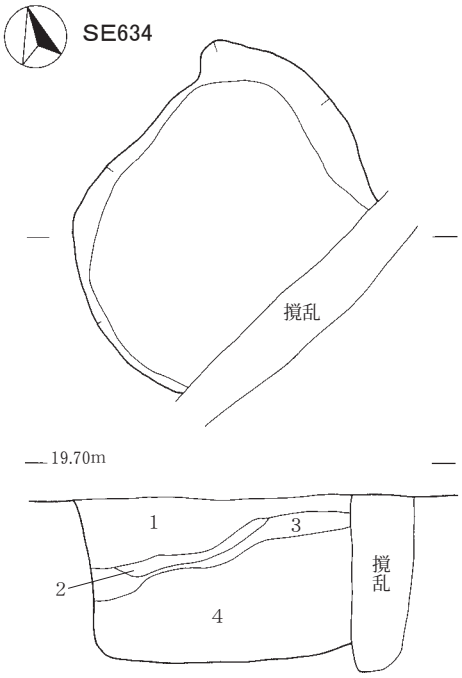
ＳＥ639（第31図、図版７－12）
《位置・確認状況》ＭＫ117グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。当初ＳＯ587の燃焼部と見ていたが、半裁時点で井戸跡として確認した。
《重複》ＳＯ587と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。
《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北東－南西）1.17m、短軸（北西－南東）1.00m、確認面からの深さ1.25mである。
《壁・底面》壁の傾きは急であり、約0.3mの深さで段がつき、底面は平坦である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＥ645（第31図、図版７－13）
《位置・確認状況》ＭＥ110グリッドに位置する。ＳＫ627の半裁中に井戸跡として確認した。
《重複》ＳＫ627と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。
《平面形・規模》平面形はほぼ円形である。規模は長軸（北－南）1.64m、短軸（東－西）1.35m、確認面からの深さ0.89mである。
《壁・底面》壁は深さ約0.5mで段がつき傾きは急である。底面はほぼ平坦である。
《堆積土》調査中の豪雨の為、壁が崩落してしまった。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

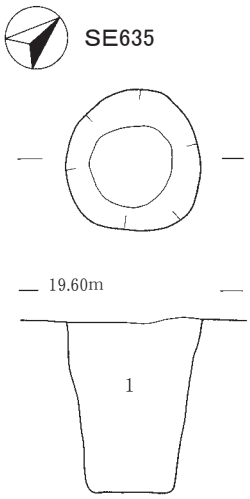
ＳＥ660（第31図、図版７－14）
《位置・確認状況》ＭＦ113グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＫＩ638・ＳＫ643と重複する。新旧は本遺構の方がＳＫＩ638より新しくＳＫ643より古い。



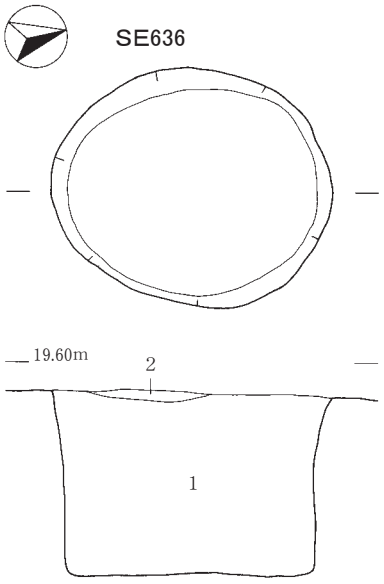
ＳＥ631
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土塊状極小～中10％
2　炭化物層
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土塊状極小10％、炭化物粒状小１％
4　明黄褐色土（10ＹＲ6/8）しまり中、粘性中
　　※地山の崩落層
5　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり中、粘性強
　　混入物：地山土塊状中５％、炭化物粒状中10％



ＳＥ634
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり強、粘性中
　　混入物：地山土塊状大10％、炭化物粒状大３％
2　炭化物層
3　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土塊状大20％
4　黄褐色土（10ＹＲ5/8）しまり強、粘性中
　　※地山の崩落層



ＳＥ635
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり中、粘性弱
　　混入物：地山土塊状極小～中20％



ＳＥ636
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状中３％、炭化物粒状中２％
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状小１％、炭化物塊状中～大７％

0　2m

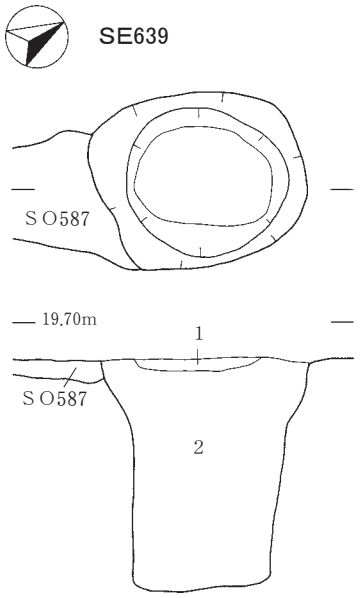
第30図　ＳＥ631・634・635・636

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（東－西）1.00m、短軸（北－南）0.93m、深さ0.98mである。
《壁・底面》壁の傾きは急であり、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

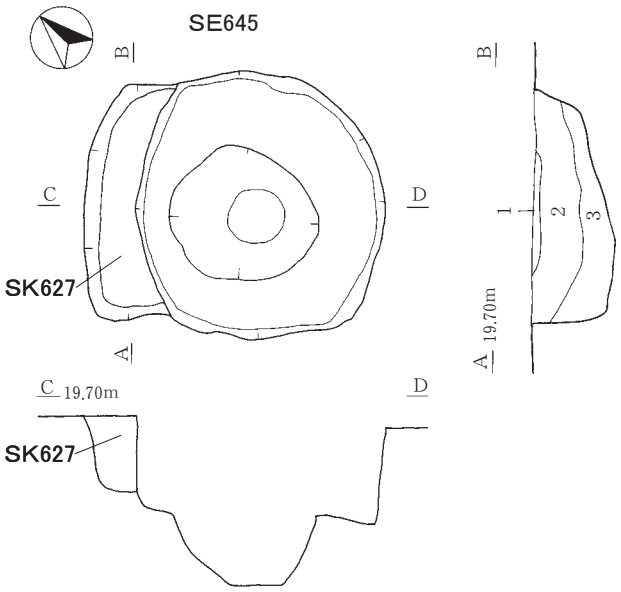
ＳＥ701（第31図、図版７－15）
《位置・確認状況》ＭＨ114グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）1.38m、短軸（北西－南東）1.19m、確認面からの深さ0.95mである。
《壁・底面》壁の傾きは急であり、底面付近では外側に少し開いている。底面は平坦である。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

（６）土坑
ＳＫ551（第32図、図版８－１）
《位置・確認状況》ＭＮ120グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は北西側が撹乱されており、全容を把握できなかったが、その平面形は楕円形を呈するものと推察される。確認できた規模は長軸（北西－南東）0.67m、短軸（北東－南西）0.47m、確認面からの深さ0.09mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は浅い皿状である。
《堆積土》２層に分けられた。１・２層とも焼土が多量に混入していた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ553（第32図、図版８－２）
《位置・確認状況》ＭＨ118グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊と炭化物や焼土を含む黒褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北－南）1.10m、短軸（東－西）1.00m、確認面からの深さ0.25mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

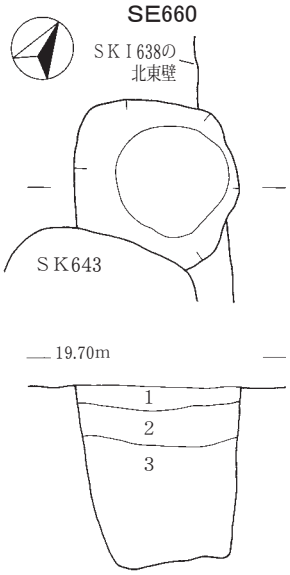


ＳＥ639
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ5/4）しまり強、粘性弱
　　混入物：２層土塊状大３％
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状大３％、炭化物塊状中２％
　　焼土塊状中１％

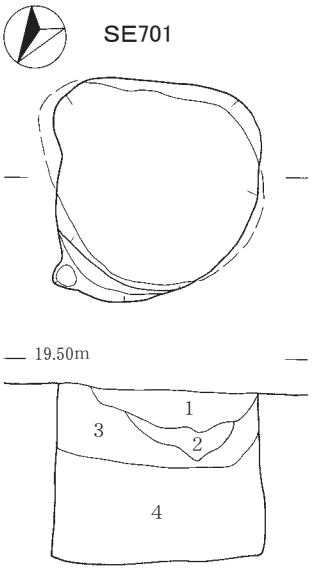


ＳＥ645
調査中の豪雨により壁が崩落したため土層注記とれず。

ＳＫ627
1　黄褐色土（10ＹＲ5/6）しまり強、粘性中
　　混入物：炭化物粒状中２％
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性中
　　混入物：暗褐色土塊状中２％、焼土塊状小10％
3　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり強、粘性中
　　混入物：黒褐色土塊状大５％



ＳＥ660
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状大５％、炭化物塊状小～中１％
　　焼土粒状小１％未満
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状中１％、炭化物塊状中１％
3　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状小10％、炭化物塊状中１％



ＳＥ701
1　褐色土（7.5ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　　混入物：炭化物塊状中５％、焼土塊状大５％
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土塊状中５％
3　黄褐色土（10ＹＲ5/6）しまり強、粘性中
　　混入物：炭化物塊状小１％、黒褐色土塊状中３％
4　黒褐色土（10ＹＲ3/1）しまり中、粘性弱
　　混入物：炭化物塊状小３％、焼土塊状中５％

0　2m

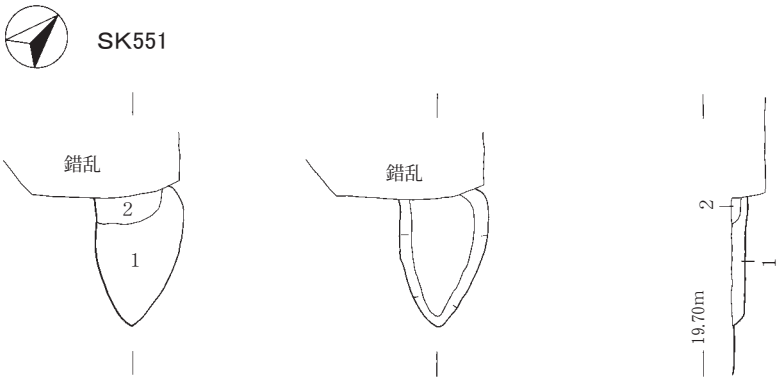
第31図　ＳＥ639・645・660・701、ＳＫ627

ＳＫ561（第32図、図版８－３）
《位置・確認状況》ＭＬ118グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北－南）0.45m、短軸（東－西）0.43m、確認面からの深さ0.18mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

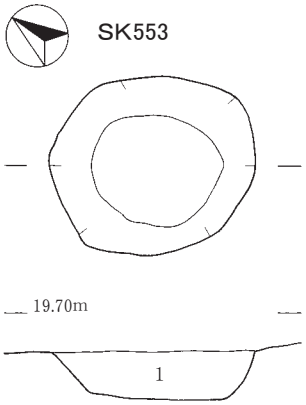
ＳＫ588（第28図、図版７－６）
《位置・確認状況》ＭＩ・ＭＪ117グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＥ600と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。
《平面形・規模》平面形は惰円形である。規模は長軸（北－南）1.80m、短軸（東－西）1.43m、確認面からの深さ0.38～0.77mである。
《壁・底面》壁の傾きは北側はほぼ垂直で、南側は緩やかである。底面はほぼ平坦であるが、南側から北側へ傾いている。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ589（第32図、図版８－４）
《位置・確認状況》ＭＨ111グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊と炭化物を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）1.06m、短軸（北西－南東）0.82m、確認面からの深さ0.18mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》近世陶器片が１点出土した（第32図３）。３は肥前陶器皿（17世紀）の口縁部から底部にかけての破片である。成形はロクロで行われており、高台は浅く削り出している。切り離しは回転糸切りである。大きさは口径12.0cm、底径2.2cm、器高2.2cmである。内面及び外面の口縁部から胴部にかけては長石釉が施されているが、底部は無釉である。内面には重ね焼きの際の砂目痕が認められる。

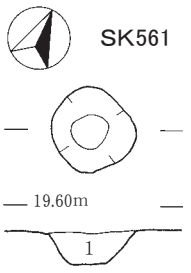
ＳＫ597（第33図、図版８－５）
《位置・確認状況》ＬＭ88グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊と炭化物を含む灰黄褐色土の



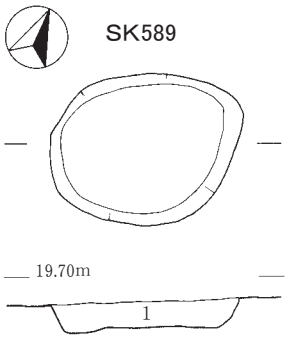
ＳＫ551
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：地山土塊状小２％、極暗赤褐色土塊状中10％
　　炭化物粒状小１％、焼土塊状小～大７％
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり中、粘性中
　混入物：地山土塊状小20％、黒色土塊状小１％
　　焼土塊状小10％



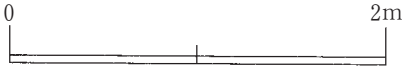
ＳＫ553
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　混入物：地山土塊状中10％、炭化物粒状中２％
　　焼土粒状小３％

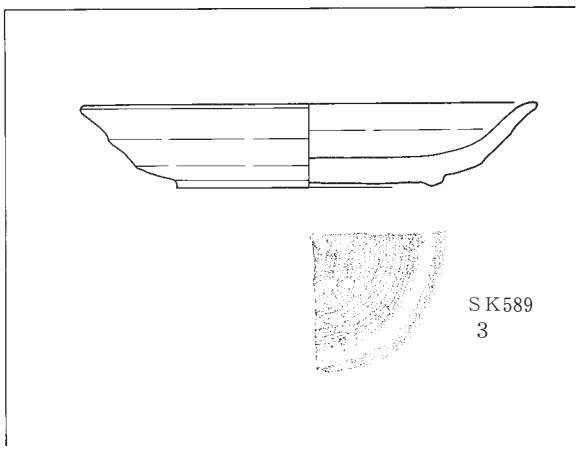


ＳＫ561
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性中
　混入物：地山土塊状中５％、炭化物粒状小１％



ＳＫ589
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　混入物：地山土塊状中７％、炭化物粒状中２％





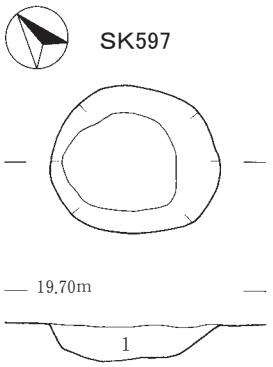
第32図　ＳＫ551・553・561・589、遺構内出土遺物

広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）0.90m、短軸（北東－南西）0.78m、確認面からの深さ0.18mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

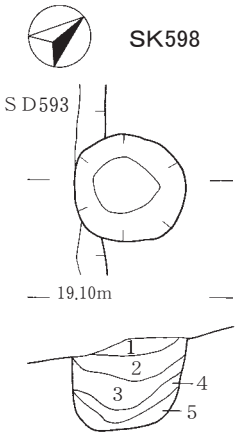
ＳＫ598（第33図、図版８－６）
《位置・確認状況》ＬＮ87グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒と炭化物を含む褐灰褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＤ593と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（東－西）0.61m、短軸（北－南）0.58m、確認面からの深さ0.47mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。
《堆積土》５層に分けられた。１層と４層、３層と５層はそれぞれ互層になっている。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ605（第33図、図版８－７）
《位置・確認状況》ＭＫ115グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）0.97m、短軸（北西－南東）0.84m、確認面からの深さ0.16mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

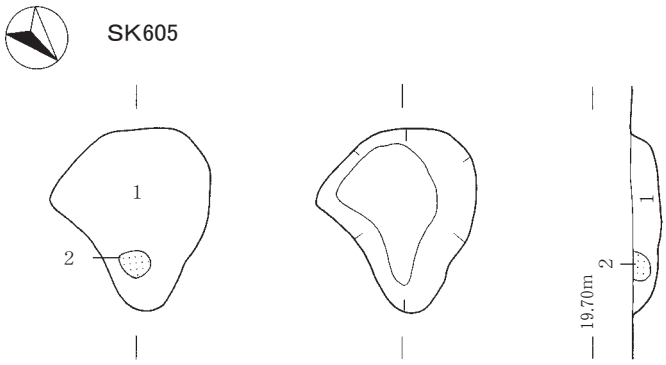
ＳＫ615（第33図、図版８－８）
《位置・確認状況》ＭＧ115グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む黒褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北－南）0.62m、短軸（東－西）0.44m、確認面からの深さ0.13mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は鍋底状である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。



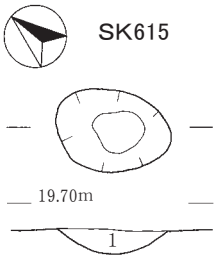
ＳＫ597
1　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状小20％、炭化物塊状小１％



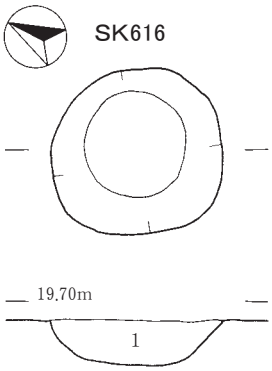
ＳＫ598
1　褐灰色土（10ＹＲ5/1）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状小３％、炭化物粒状小２％
2　黒褐色土（10ＹＲ3/1）しまり強、粘性中
　　混入物：地山土粒状小10％、炭化物粒状小１％
3　褐灰色土（10ＹＲ4/1）しまり強、粘性中
　　混入物：地山土塊状小３％
4　褐灰色土（10ＹＲ5/1）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状小３％、炭化物粒状小２％
5　褐灰色土（10ＹＲ4/1）しまり強、粘性中
　　混入物：地山土塊状小３％



ＳＫ605
1　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状中20％、炭化物塊状中20％
　　焼土粒状大２％
2　焼土ブロック



ＳＫ615
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状大２％、炭化物粒状小～中２％
　　焼土粒状大１％



ＳＫ616
1　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり中、粘性中
　　混入物：炭化物粒状中１％、焼土塊状中３％

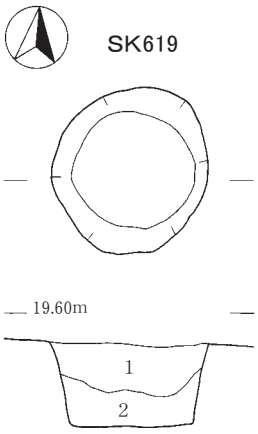
第33図　ＳＫ597・598・605・615・616

ＳＫ616（第33図、図版８－９）
《位置・確認状況》ＭＦ116グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形はほぼ円形である。規模は長軸（東－西）0.94m、短軸（北－南）0.90m、確認面からの深さ0.14mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

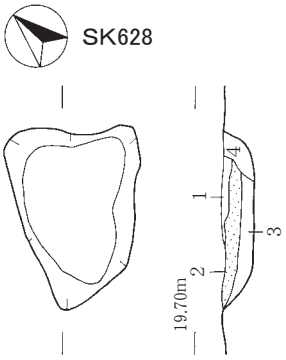
ＳＫ619（第34図、図版８－10）
《位置・確認状況》ＭＫ115グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）0.91m、短軸（北西－南東）0.80m、確認面からの深さ0.43mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ627（第31図）
《位置・確認状況》ＭＥ110グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＥ645と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形・規模》南東側をＳＥ645構築の際に削平されて全体の半分ほどしか残っていないが、その平面形は長方形を呈するものと推察される。確認できた規模は長軸（北東－南西）1.23m、短軸（北西－南東）0.36m、確認面からの深さ0.42mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》３層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

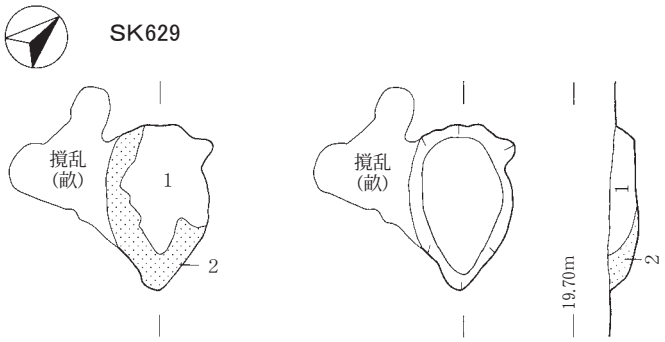
ＳＫ628（第34図、図版８－11）
《位置・確認状況》ＭＥ108グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）0.94m、短軸（北西－南東）0.71m、確認面からの深さ0.18mである。



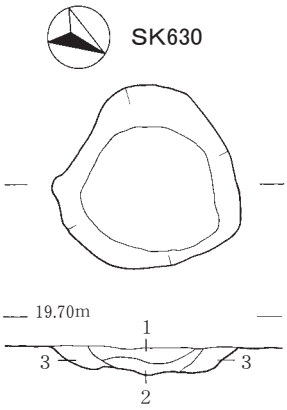
ＳＫ619
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状中～大５％
2　暗褐色土（10ＹＲ3/3）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状中～大20％



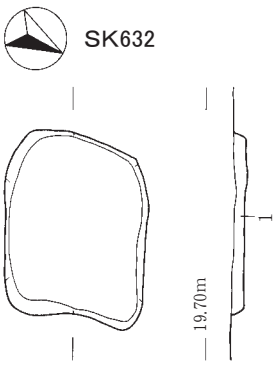
ＳＫ628
1　褐色土（7.5ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　　混入物：焼土粒状中10％
2　赤褐色土（2.5ＹＲ4/8）しまり中、粘性中、焼土層
3　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土粒状中10％、炭化物粒状中10％
　　焼土粒状中５％
4　にぶい黄褐色土（10ＹＲ5/4）しまり中、粘性中
　　混入物：炭化物粒状中３％、焼土粒状中５％



ＳＫ629
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　　混入物：炭化物粒状中３％
2　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土粒状中10％、炭化物粒状中５％
　　焼土粒状中３％



ＳＫ630
1　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり中、粘性中
　　混入物：炭化物粒状中10％、焼土塊状小10％
2　褐色土（7.5ＹＲ4/6）しまり中、粘性中
　　混入物：焼土塊状中30％
3　褐色土（10ＹＲ4/6）しまり強、粘性中
　　混入物：炭化物塊状大10％



ＳＫ632
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性中
　　混入物：炭化物粒状中10％、焼土粒状中１％

第34図　ＳＫ619・628・629・630・632

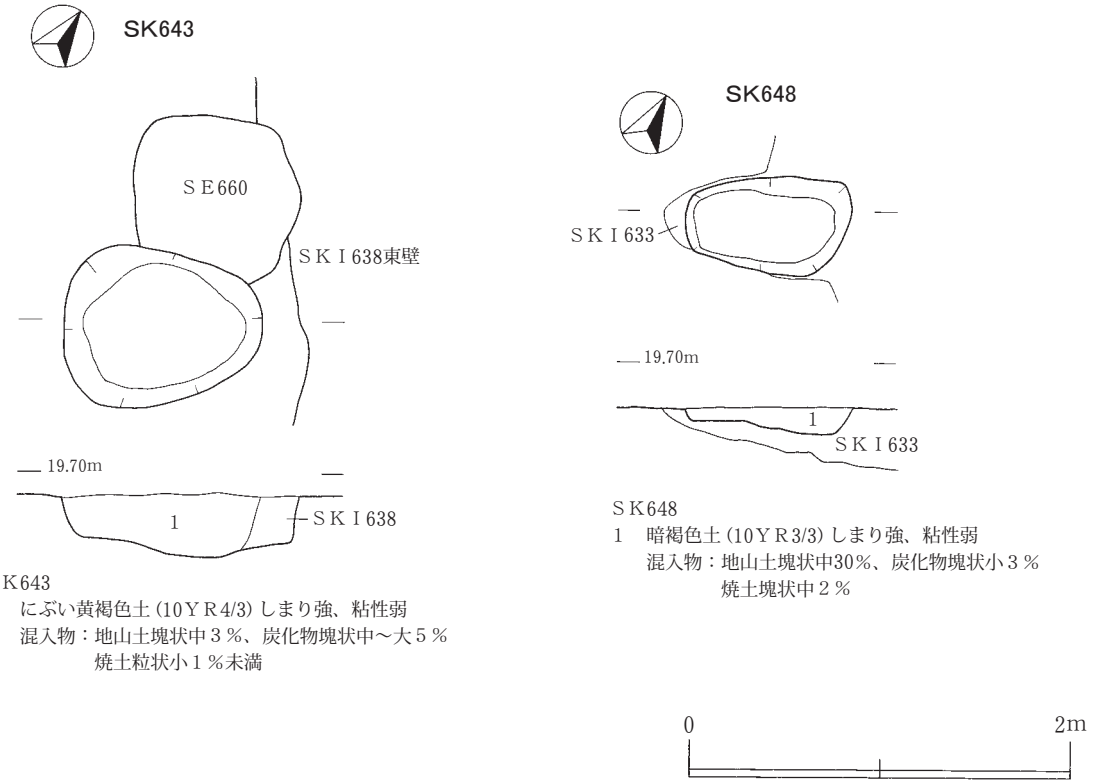
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ629（第34図、図版８－12）
《位置・確認状況》ＭＥ108グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で焼土を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北西－南東）0.88m、短軸（北東－南西）0.47m、確認面からの深さ0.14mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ630（第34図、図版８－13）
《位置・確認状況》ＭＥ108グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む暗褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（東－西）0.98m、短軸（北－南）0.93m、確認面からの深さ0.15mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》３層に分けられた。全部の層に焼土が多量に混入していた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ632（第34図、図版８－14）
《位置・確認状況》ＭＤ109、ＭＥ108・109グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土を含む褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は方形である。規模は長軸（北東－南西）0.98m、短軸（北西－南東）0.75m、確認面からの深さ0.06mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ642（第26図、図版８－15）
《位置・確認状況》ＭＮ119グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物と焼土や焼土ブロックを含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。



第35図　ＳＫ643・648

《重複》ＳＯ644と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北－南）1.02m、短軸（東－西）0.65m、確認面からの深さ0.34mである。

《堆積土》５層に分けられた。

《壁・底面》壁の傾きは北側が急で、南側が緩やかである。底面は平坦である。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ643（第35図）

《位置・確認状況》ＭＦ112・113グリッドに位置する。ＳＫＩ638の半裁途中に炭化物と焼土を含むにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。

《重複》ＳＫＩ638、ＳＥ660と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》ＳＫＩ638の半裁途中に確認されたため、全体の半分しか調査できなかったが、平面形は惰円形と推定される。確認された規模は長軸（北東－南西）1.05m、短軸（北西－南東）0.40m、確認面からの深さ0.34mである。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は北東部が少し深い。

《堆積土》１層である。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ648（第35図）

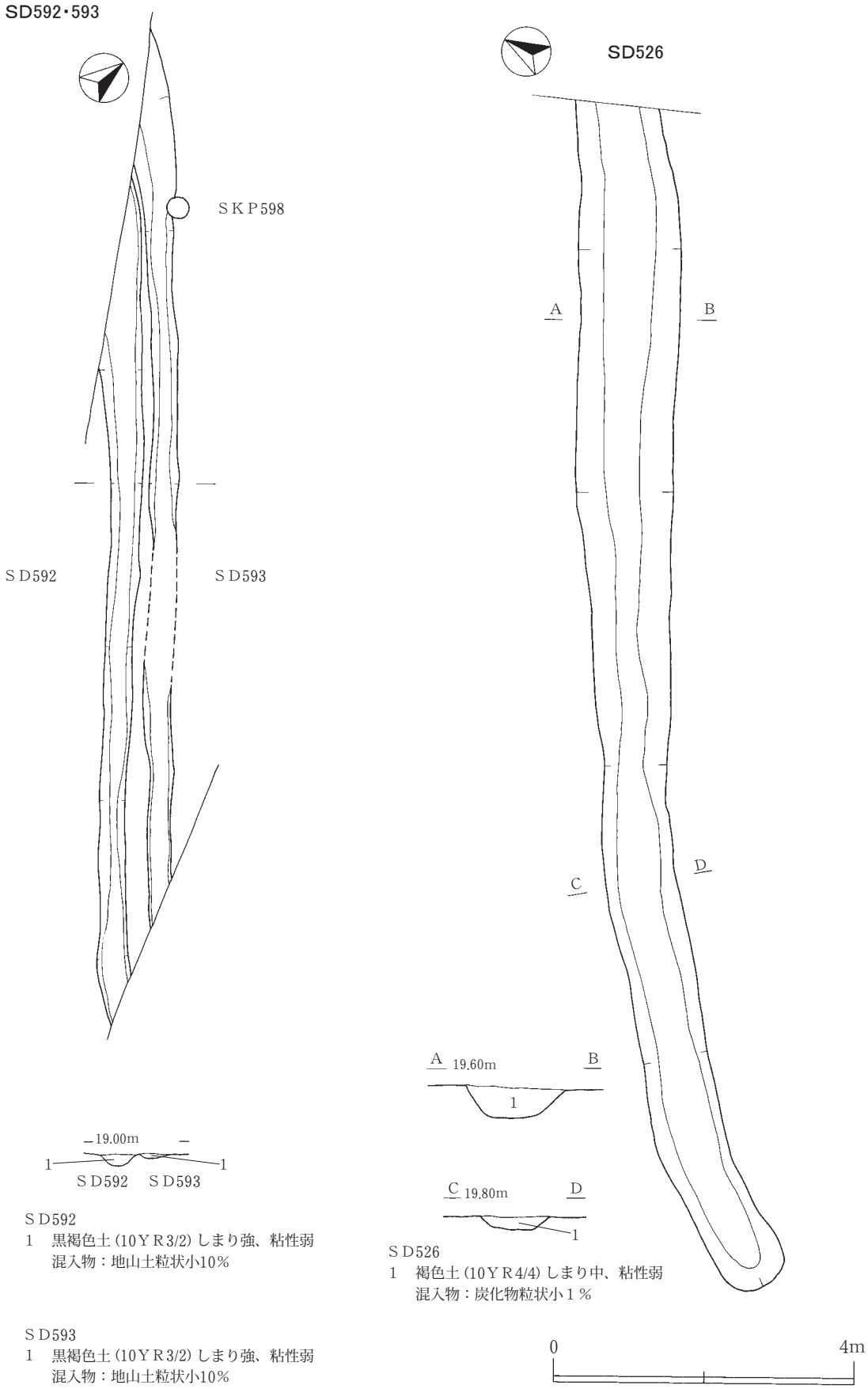
《位置・確認状況》ＭＧ114グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊と炭化物を含む暗褐色土の

広がりとして確認した。
《重複》ＳＫＩ633と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）0.87m、短軸（北西－南東）0.51m、確認面からの深さ0.14mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は北東側がやや深くなっている。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

（７）溝跡
ＳＤ526（第36図）
《位置・確認状況》ＮＦ・ＮＧ155、ＮＧ・ＮＨ154、ＮＨ・ＮＩ152グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含む褐色土の筋として確認した。
《重複》なし。
《規模》確認した範囲で長さ15.08m、幅0.84～1.36m、確認面からの深さ0.14～0.46mである。南西から北東に向かって深さを増しながら延びている。北東端は調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＤ592（第36図）
《位置・確認状況》ＬＪ83・84、ＬＫ83～85、ＬＬ84～86、ＬＭ85・86、ＬＮ86・87グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒を含む黒褐色土の筋として確認した。
《重複》なし。
《規模》確認した範囲で長さ10.80m、幅0.32～0.50m、確認面からの深さ0.15mである。北西－南東方向に延びており、両端ともに調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＤ593（第36図）
《位置・確認状況》ＬＫ84・85、ＬＬ84～86、ＬＭ86・87、ＬＮ87・88、ＬＯ88グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒を含む黒褐色土の筋として確認した。
《重複》ＳＫＰ598と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《規模》確認した範囲で長さ11.30m、幅0.30～0.37m、確認面からの深さ0.07mである。北西－南東方向に延びており、両端ともに調査区外に延伸している。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。



ＳＤ592
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状小10％

ＳＤ593
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状小10％

ＳＤ526
1　褐色土（10ＹＲ4/4）しまり中、粘性弱
　　混入物：炭化物粒状小１％

第36図　ＳＤ526・592・593

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

（８）柱穴様ピット（第13・14図）

Ｂ区の柱穴様ピットは、北端部で31基、中央部61基の計92基を検出した。平面形は楕円形、円形、方形を呈し、規則的な配列は認められず、柱痕も確認できなかった。堆積土は黒褐色土（10ＹＲ3/2）・暗褐色土（10ＹＲ3/3・3/4）で、しまりの強い単一層である。遺物はほとんど出土せず、その時期を明確にすることができなかった。個々の柱穴様ピットについては第５・６表にまとめた。

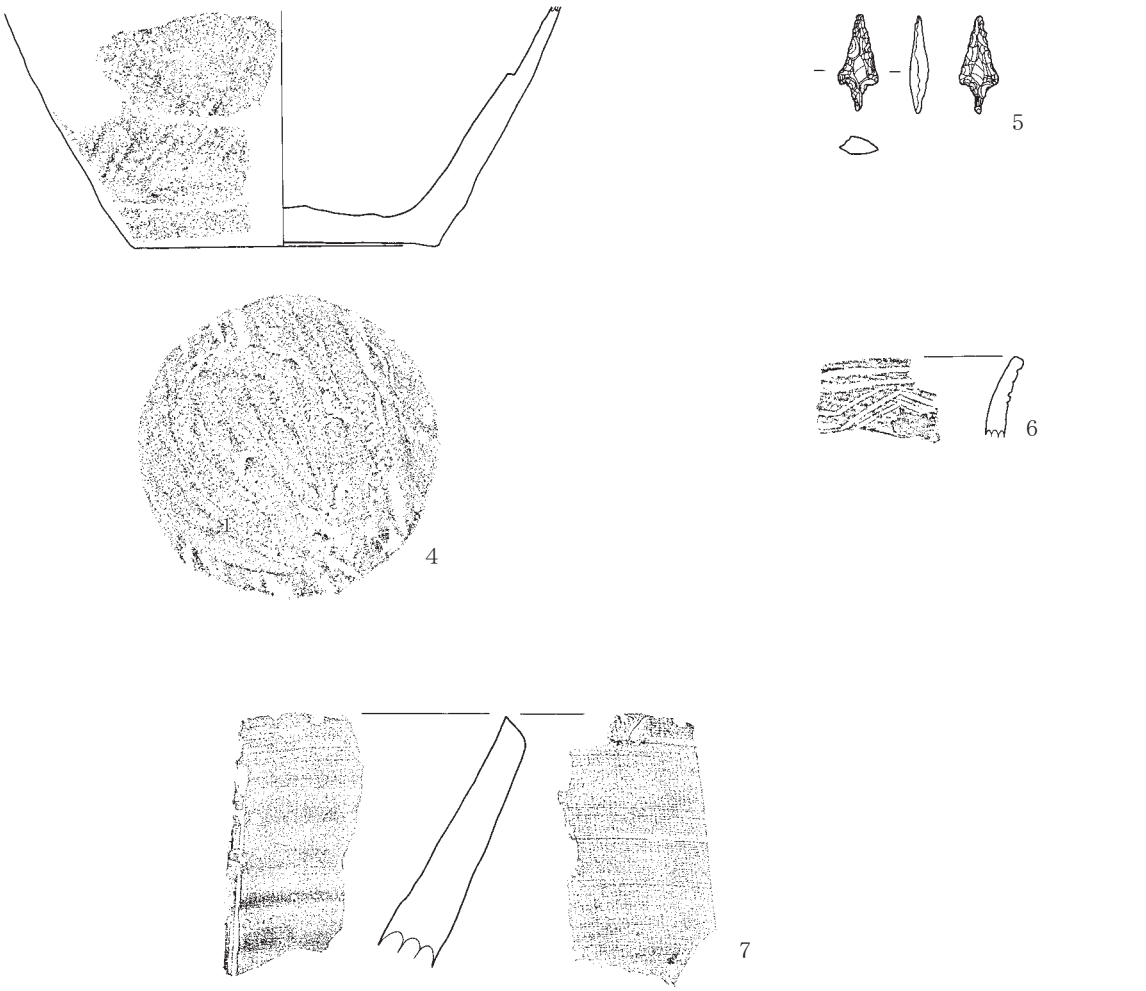
第５表　Ｂ区柱穴様ピット観察表（１）

柱穴番号	検出グリッド	平面形	大きさ			底面標高(m)	備考
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
５０４	ＮＩ156	楕円形	19	15	12	19.38	
５０５	ＮＩ156	楕円形	20	18	12	19.36	
５０７	ＮＩ156	円形	20	18	8	19.40	
５０８	ＮＪ156	楕円形	15	13	14	19.40	
５１０	ＮＪ156	楕円形	33	28	40	19.10	
５１１	ＮＩ156	方形	41	33	18	19.30	
５１２	ＮＩ155･156	楕円形	26	16	16	19.30	
５１３	ＮＩ155	（楕円形）	（31）	25	18	19.28	
５１４	ＮＪ156	方形	49	32	19	19.22	
５１５	ＮＪ155･156	楕円形	38	32	22	19.22	
５１６	ＮＪ155	楕円形	21	18	4	19.44	
５１７	ＮＪ156	円形	19	18	12	19.30	
５１８	ＮＪ155	円形	17	17	13	19.35	
５１９	ＮＪ155	楕円形	18	17	13	19.39	
５２０	ＮＩ156	楕円形	16	14	12	19.38	
５２１	ＮＫ156	楕円形	21	17	12	19.41	
５２２	ＮＪ155	楕円形	14	12	4	19.45	
５２３	ＮＪ155	楕円形	19	16	6	19.42	
５２４	ＮＪ155	方形	16	15	11	19.36	
５２５	ＮＫ155	楕円形	18	15	6	19.44	
５２７	ＮＪ155･156	（楕円形）	42	33	21	19.26	
５２９	ＮＩ156	楕円形	19	17	8	19.40	
５３０	ＮＪ・ＮＫ155	楕円形	22	19	12	19.39	
５３１	ＮＫ155	円形	16	15	6	19.44	
５３２	ＮＩ156	楕円形	18	16	33	19.11	
５３３	ＮＪ155	楕円形	24	20	17	19.33	
５３４	ＮＪ156	（楕円形）	（13）	22	10	19.42	
５３５	ＮＫ155	楕円形	27	25	18	19.24	
５３６	ＮＫ155	円形	21	19	14	19.32	
５５５	ＭＭ121	楕円形	33	28	28	19.42	
５５６	ＭＬ117	楕円形	25	22	22	19.32	
５５７	ＭＬ117	楕円形	30	28	15	19.32	
５５８	ＭＬ117	円形	23	22	14	19.36	
５５９	ＭＨ117	円形	22	21	14	19.34	
５６０	ＭＨ・ＭＩ118	楕円形	23	19	12	19.38	
５６８	ＭＪ118	楕円形	28	24	15	19.46	
５７０	ＭＬ118	円形	24	23	10	19.32	
５７１	ＭＫ118	楕円形	23	19	12	19.35	
５７３	ＭＫ118	楕円形	31	28	10	19.39	

第６表　Ｂ区柱穴様ピット観察表（２）

柱穴番号	検出グリッド	平面形	大きさ 長軸(m)	大きさ 短軸(m)	大きさ 深さ(m)	底面標高(m)	備考
５７４	MK118	楕円形	28	25	21	19.30	
５７９	ＭＪ118	楕円形	33	28	22	19.29	
５８１	ＭＪ118	楕円形	31	28	15	19.28	
５８５	ＭＪ118	楕円形	41	40	11	19.41	
６４６	MH114	円形	23	23	38	19.14	
６４７	ＭＦ113	楕円形	44	35	26	19.24	
６４９	MG113	楕円形	34	28	39	19.15	
６５０	MG113	円形	24	23	29	19.22	
６５５	MG113	円形	25	23	27	19.25	
６５６	MG114	楕円形	27	22	14	19.28	
６５７	MG114	楕円形	34	21	15	19.25	
６５８	ＭＦ113	円形	23	21	20	19.26	
６５９	MG113	円形	28	28	34	19.15	
６６１	ＭＦ・MG114	円形	30	29	23	19.25	
６６２	MG113	楕円形	25	21	47	19.02	
６６４	ＭＦ112・113	楕円形	48	27	34	19.09	
６６６	ＭＦ113	楕円形	31	25	32	19.12	
６６８	MH113	楕円形	29	25	39	19.10	
６６９	MG・MH113	楕円形	41	33	43	19.04	
６７３	MG113	楕円形	28	21	33	19.18	
６７４	MG113・114	(円形)	48	(36)	6	19.64	
６７５	MG114	楕円形	70	42	40	19.01	
６７６	MG114	方形	50	35	46	18.98	
６７７	MG113	円形	22	22	37	19.12	
６７８	MG114	円形	22	20	16	19.27	
６７９	MG114	円形	19	19	42	19.05	
６８０	MG114	円形	20	19	8	19.37	
６８１	MG114	楕円形	24	19	16	19.33	
６８２	MG114	円形	20	20	12	19.37	
６８３	MG114	楕円形	23	18	19	19.31	
６８４	MH113	円形	33	33	37	19.07	
６８５	MG115	方形	35	32	40	19.03	
６８６	MG115	円形	20	19	10	19.31	
６８７	MH115	楕円形	32	26	27	19.16	
６６８	MH115	楕円形	21	18	31	19.31	
６８９	MH115	円形	23	21	15	19.30	
６９０	ＭＦ112	円形	23	22	11	19.41	
６９１	ＭＦ112	円形	23	22	24	19.29	
６９２	MG112	楕円形	25	18	28	19.21	
６９３	MH114・115	楕円形	28	28	42	19.02	
６９４	ＭＦ113	楕円形	32	28	20	19.28	
６９５	MG113	楕円形	50	35	54	18.90	
６９６	MH114	楕円形	20	18	28	19.23	
６９７	MH115	円形	27	26	20	19.24	
６９８	MH115	円形	18	16	26	19.17	
６９９	ＭＦ・MG115	円形	17	17	22	19.25	
７０２	ＭＦ112	円形	25	24	12	19.42	
７０３	ＭＦ112	楕円形	27	23	10	19.40	
７０４	MG・MH113	楕円形	23	18	23	19.23	
７０５	MF・MG113・114	円形	30	30	44	18.97	
７０６	MG113	(楕円形)	(18)	17	12	19.30	
７０７	MG113	(楕円形)	(22)	38	36	19.10	
７０８	MG118	円形	25	24	28	19.21	

※（　　）内の平面形と数値は推定である。



第37図　遺構外出土遺物

４　Ｂ区の遺構外出土遺物

Ｂ区の遺構外からは縄文土器15点（うち６点接合）、石器１点、フレーク１点、弥生土器１点、中世の陶器２点、近世の陶磁器５点、銭貨（寛永通宝）１点などが出土した。ここではそれらの内、細片を除くいくつかの遺物を掲載する。

（１）縄文時代の遺物（第37図、図版12－４～５）

第37図４はＮＦ151グリッドの第Ⅲ層上面から出土した縄文土器である。深鉢形土器の底部から胴部にかけての破片であり、大きさは残存高6.7cm、底径7.9cmである。外面には単節ＬＲ縄文が施されている。底面には箆状工具でのナデ調整痕が認められる。

第37図５はＮＦ150グリッドの第Ⅲ層上面から出土した石鏃である。凸基有茎鏃に分類され、断面は六角形状を呈する。両面に素材の剥離面を残しているが、丁寧な押圧剥離が施されている。大きさは長さ2.6cm、幅1.1cm、厚さ0.5cmであり、石材は頁岩である。完形品に近いが、先端がわずかに破損している。

（２）弥生時代の遺物（第37図、図版12－６）

第37図６はＮＥ148グリッドの第Ⅲ層上面から出土した弥生土器である。鉢形土器の口縁部破片で、

外面には口縁部に沿って沈線による鋸歯状文が施されている。器厚は薄いが胎土は緻密で焼成は良好である。

（３）中世の遺物（第37図、図版12－７）

第37図７はＭＰ136グリッドから出土した珠洲系陶器である。擂鉢の口縁部から底部にかけての破片である。成形はロクロで行われ、成形後の調整は外面には認められないが、内面には２条の卸目が認められる。胎土は砂粒を多く含み緻密で、焼成は良好である。色調は外面･内面ともに灰色である。

５　Ｃ区の検出遺構と出土遺物

（１）井戸跡

ＳＥ104（第42図、図版９－５）

《位置・確認状況》ＪＴ67グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊を含む灰黄褐色土の広がりとして確認した。

《重複》なし。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）0.65m、短軸（北西－南東）0.59m、確認面からの深さ0.59mである。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。

《堆積土》３層に分けられた。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＥ153（第42図、図版９－６）

《位置・確認状況》ＫＧ72グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で炭化物を含む黒褐色土の広がりとして確認した。

《重複》なし。

《平面形・規模》平面形は不整形である。規模は長軸（北東－南西）0.80m、短軸（北西－南東）0.73m、確認面からの深さ0.83mである。

《壁・底面》壁の傾きは急である。約0.5mの深さで段差が設けられ、ほぼ直線的に底面に達する。底面は平坦である。

《堆積土》４層に分けられた。

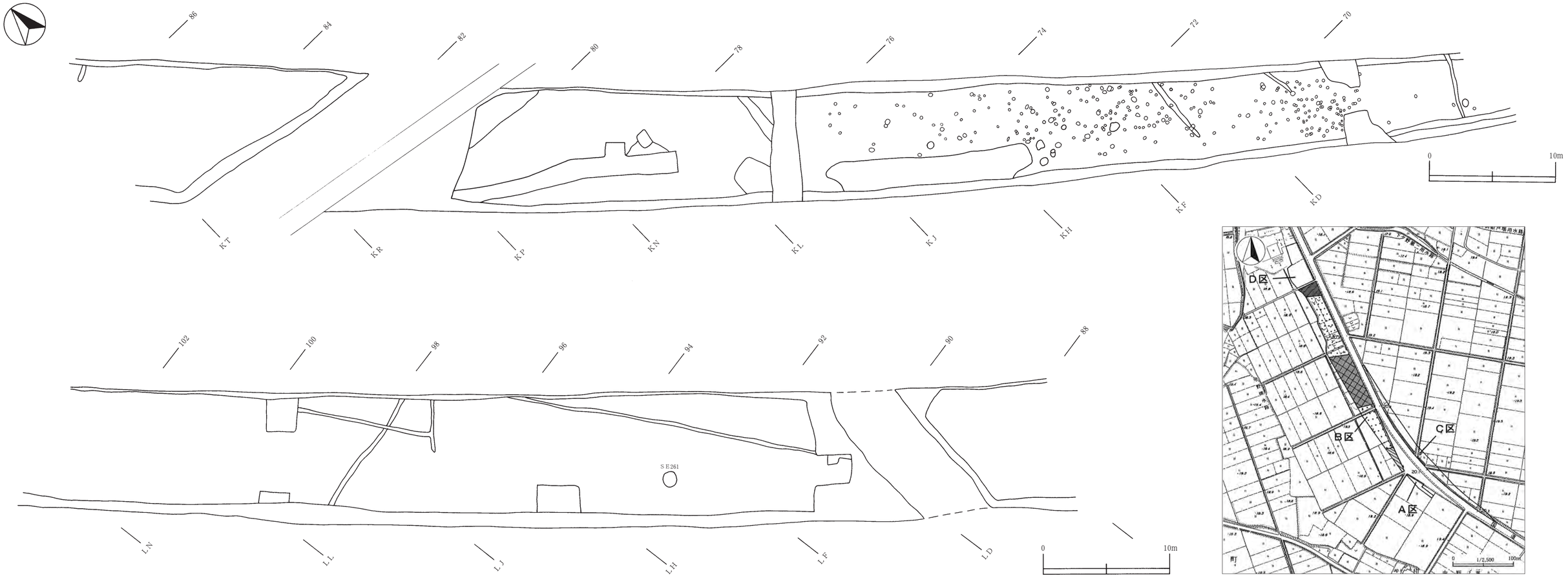
《出土遺物》１層から近世陶器（第43図９）が１点と陶器皿細片が１点、４層から14世紀の中世陶器（第43図８）が１点と平安時代の土師器坏細片が１点出土した。第43図８は珠洲系陶器甕の胴部の破片である。成形はロクロで行われており、成形後に外面は平行叩きによって調整されている。内面にはその際の当て具痕が認められる。胎土は砂粒を含み緻密で、焼成は良好である。色調は内外面ともに灰色である。第43図９は瓷器系陶器擂鉢の口縁部から胴部上半にかけての破片である。成形はロクロで行われており、成形後の調整は外面には認められないが、内面には８条を一単位とする卸目が施されている。胎土は砂粒、雲母を含み緻密で、焼成は良好である。色調は外面が赤褐色、内面が黄橙色である。

ＳＥ154（第42図、図版９－７）
《位置・確認状況》ＫＧ72グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊と炭化物を含む黒褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形はほぼ円形である。長軸（東－西）0.72m、短軸（北－南）0.68m、確認面からの深さ0.96mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》１層から近世陶器片１点が出土した。

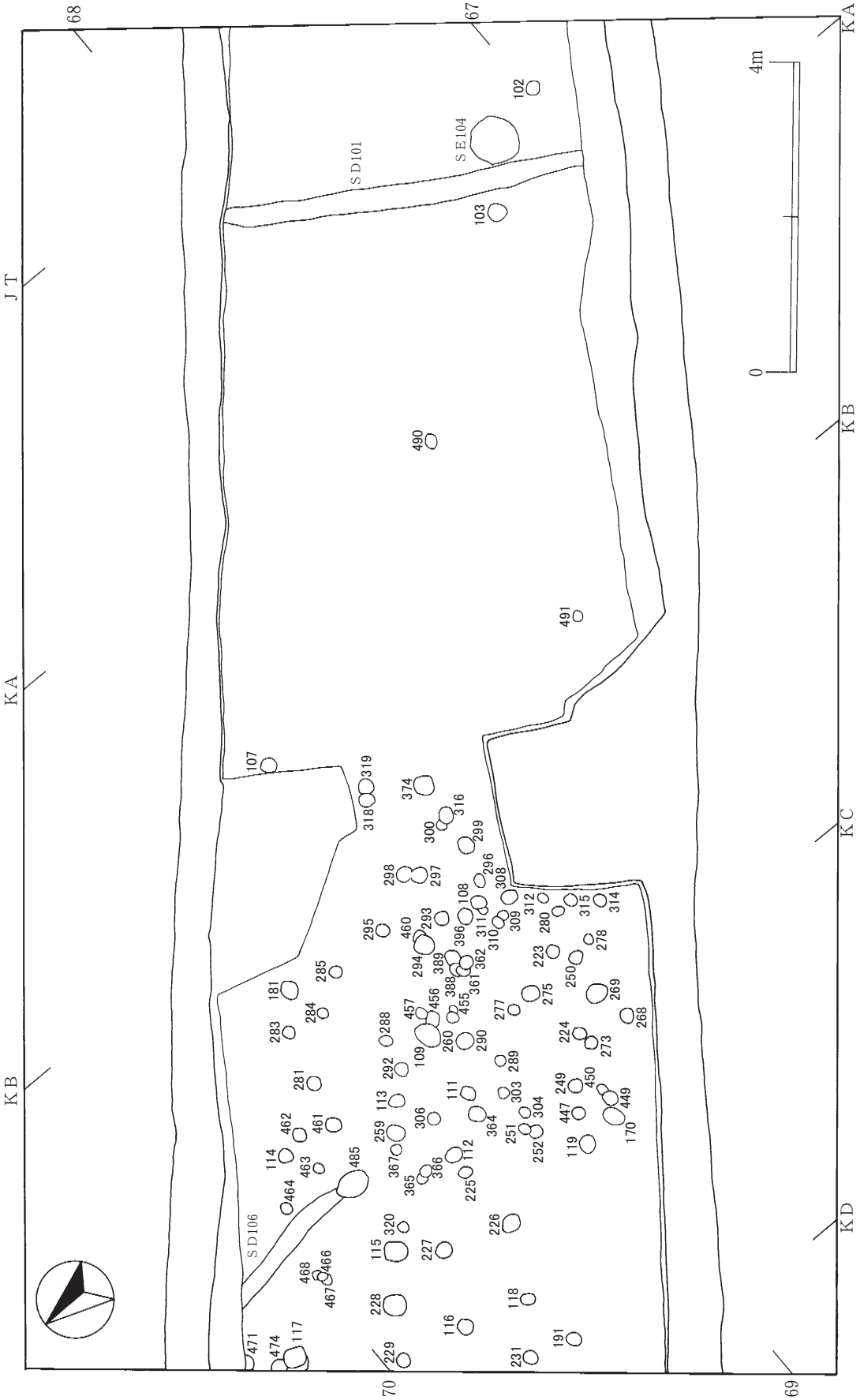
ＳＥ155（第42図）
《位置・確認状況》ＫＥ71グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊と炭化物を含む黒褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北－南）0.88m、短軸（東－西）0.78m、確認面からの深さ0.57mである。
《壁・底面》壁の傾きは急であり、底面は平坦である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》１層から陶磁器細片１点、土師器細片２点、土錘１点（第43図10）、木材片６点（うち１点、第51図17）出土した。

ＳＥ261（第42図、図版９－８）
《位置・確認状況》ＬＦ92グリッドに位置する。第Ⅲ層上面でにぶい黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北－南）1.30m、短軸（東－西）1.20m、確認面からの深さ0.74mである。
《壁・底面》壁の傾きは急であり、底面は中央部が少し窪んでいるもののほぼ平坦である。
《堆積土》４層に分けられた。
《出土遺物》１層から近世陶器片３点が出土した。うち１点、掲載した（第43図11）。11は肥前陶器皿の口縁部から底部にかけての破片である。成形はロクロで行われており、高台を削り出している。大きさは口径12.3cm、底径3.6cm、器高3.5cmである。内外面ともに灰釉が施されている。内面及び底面には重ね焼きの際の砂目痕が認められる。

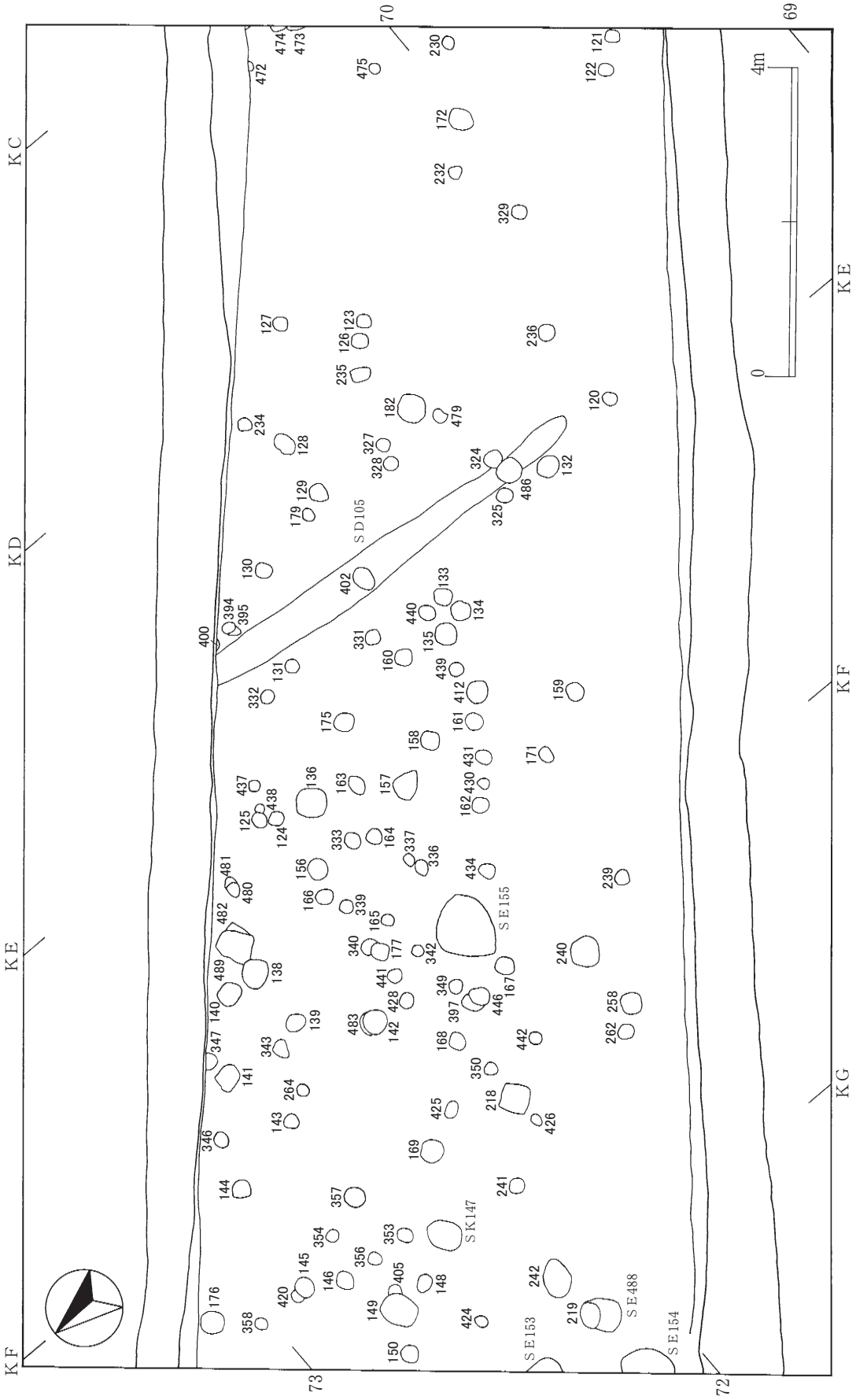
（２）土坑
ＳＫ147（第44図、図版10－１）
《位置・確認状況》ＫＦ72グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒と炭化物を含む灰黄褐色土の



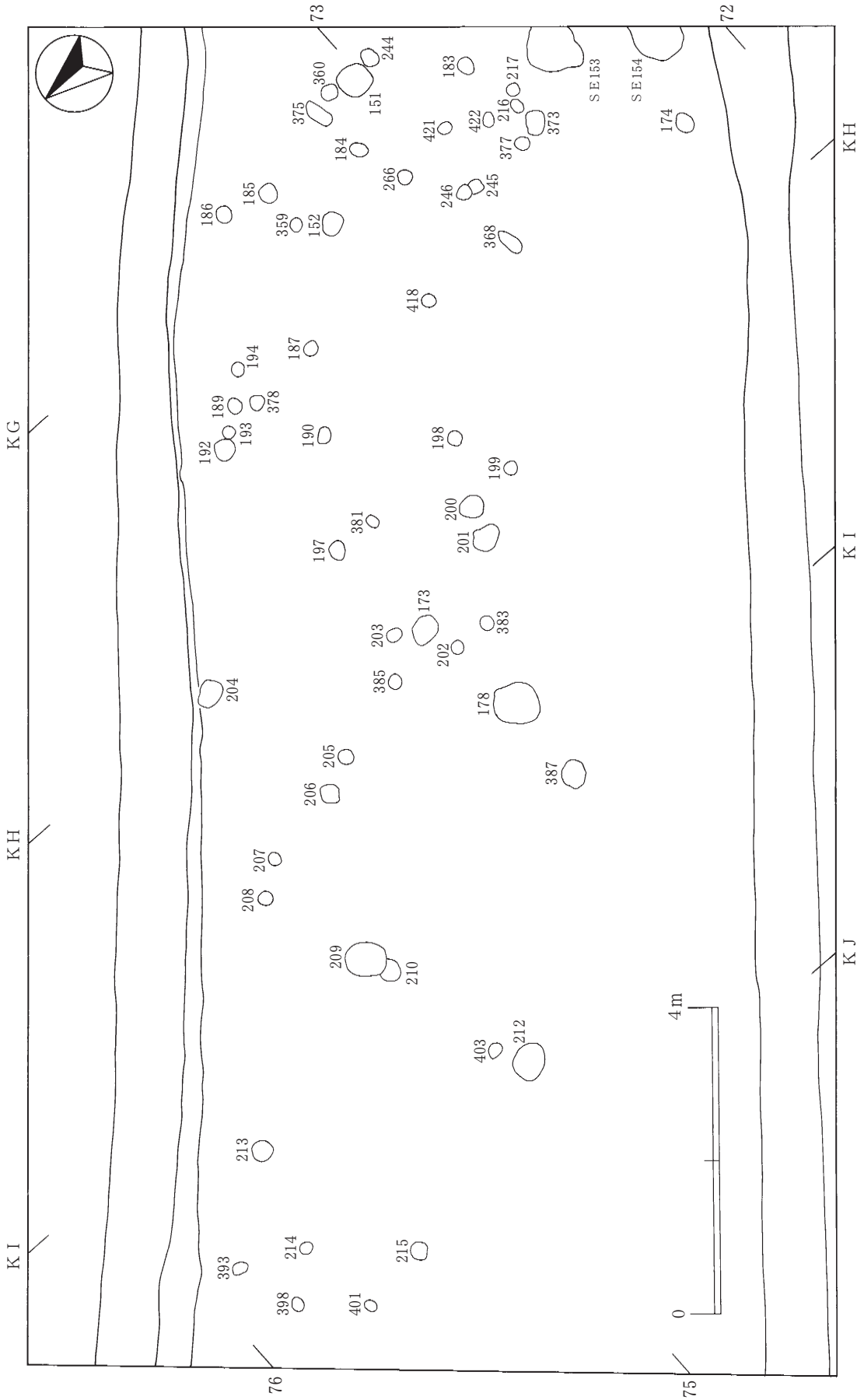
第38図　Ｃ区遺構配置図（１）



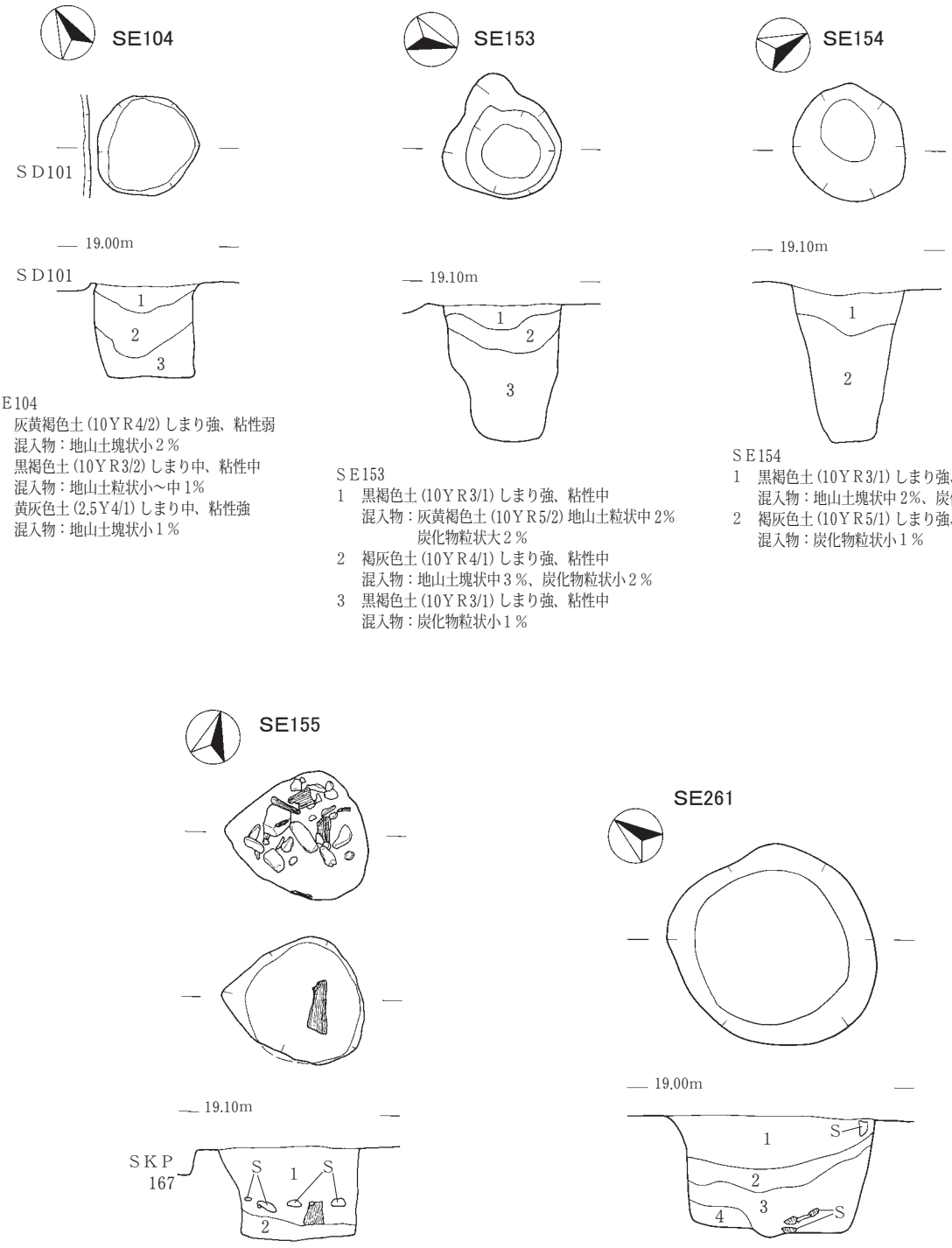
第39図　Ｃ区遺構配置図（２）



第40図　C区遺構配置図（３）



第41図　Ｃ区遺構配置図（４）



ＳＥ104
1　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状小２％
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土粒状小～中１％
3　黄灰色土（2.5Ｙ4/1）しまり中、粘性強
　　混入物：地山土塊状小１％

ＳＥ153
1　黒褐色土（10ＹＲ3/1）しまり強、粘性中
　　混入物：灰黄褐色土（10ＹＲ5/2）地山土粒状中２％
　　炭化物粒状大２％
2　褐灰色土（10ＹＲ4/1）しまり強、粘性中
　　混入物：地山土塊状中３％、炭化物粒状小２％
3　黒褐色土（10ＹＲ3/1）しまり強、粘性中
　　混入物：炭化物粒状小１％

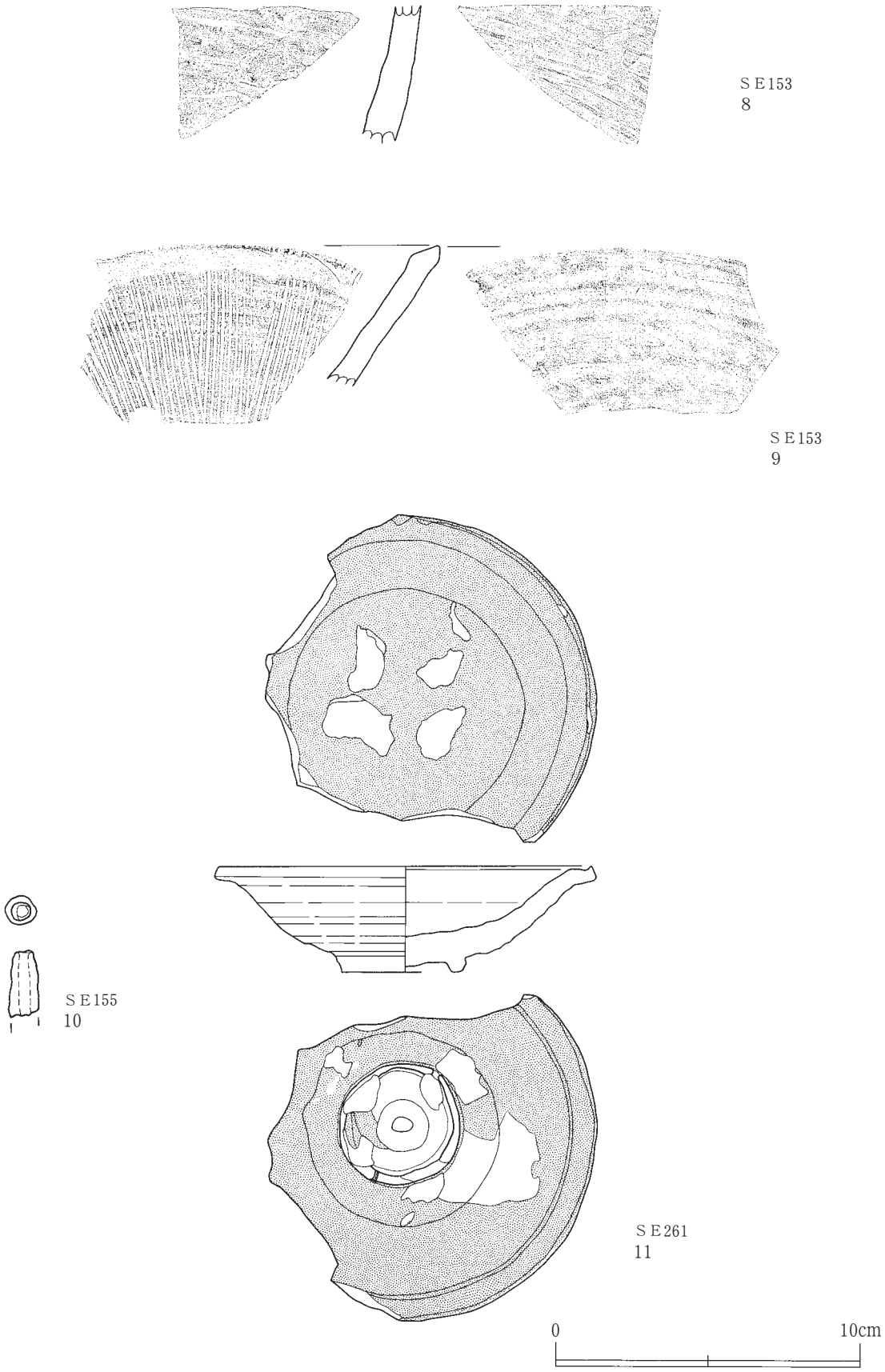
ＳＥ154
1　黒褐色土（10ＹＲ3/1）しまり強、粘性中
　　混入物：地山土塊状中２％、炭化物粒状中２％
2　褐灰色土（10ＹＲ5/1）しまり強、粘性中
　　混入物：炭化物粒状小１％

ＳＥ155
1　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土塊状大10％、炭化物粒状小２％
2　褐灰色粘土（10ＹＲ4/1）しまり中、粘性中

ＳＥ261
1　にぶい黄褐色土（10ＹＲ4/3）しまり強、粘性中
2　黒褐色土（10ＹＲ2/2）しまり中、粘性中
3　黒褐色土（10ＹＲ3/1）しまり中、粘性強
　　混入物：地山土塊状中～大１％
4　灰色土（５Ｙ4/1）しまり中、粘性強
　　混入物：３層土塊状小３％

0　2ｍ

第42図　ＳＥ104・153・154・155・261



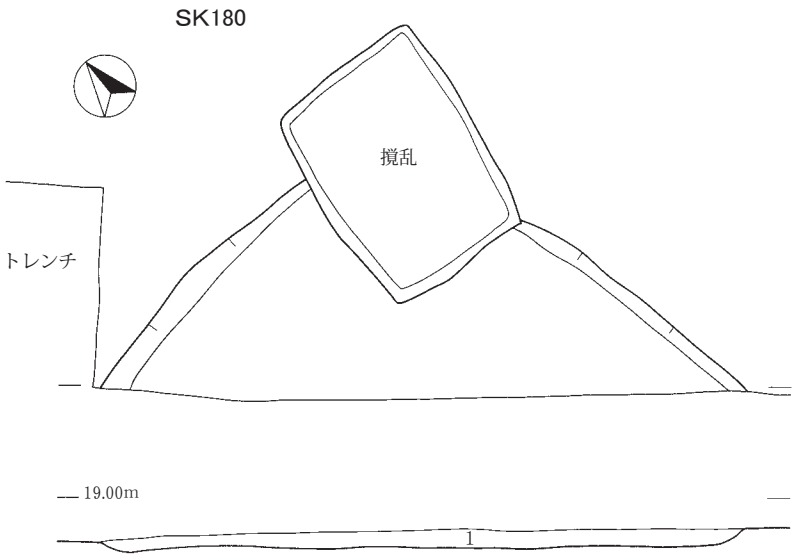
第43図　遺構内出土遺物

広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北東－南西）0.47m、短軸（北西－南東）0.38m、確認面からの深さ0.25mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

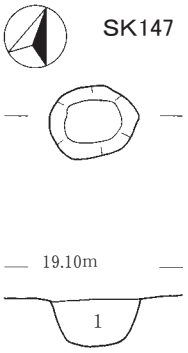
ＳＫ180（第44図）
《位置・確認状況》ＫＬ・ＫＭ78、ＫＬ・ＫＭ77グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土塊を含む灰黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》なし。
《平面形・規模》現代の撹乱や確認調査のトレンチで、遺構の半分ほどが削平されているため、全容は把握できなかったが、その平面形は長方形を呈するものと推察される。確認できた規模は長軸（北西－南東）3.38m、短軸（北東－南西）1.14m、確認面からの深さ0.10mである。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ488（第44図、図版10－２）
《位置・確認状況》ＫＧ72グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で灰黄褐色土の広がりとして確認した。
《重複》ＳＫＰ219と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《平面形・規模》平面形は楕円形である。長軸（北西－南東）0.53m、短軸（北東－南西）0.43m、確認面からの深さ0.12mである。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》確認面から近世陶器片１点が出土し、第56図34と接合した。

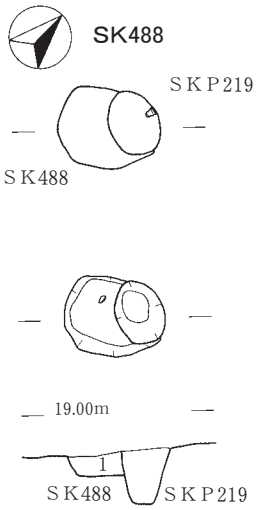
（３）溝跡
ＳＤ101（第45図、図版10－３）
《位置・確認状況》ＪＴ67・68グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で灰黄褐色土の筋として確認した。
《重複》なし。
《規模》確認した範囲で長さ6.30m、幅0.20～0.32m、確認面からの深さ0.11mである。北東－南西方向に延びており、両端ともに調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。



ＳＫ180
1　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり中、粘性中
　　混入物：地山土塊状大７％



ＳＫ147
1　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状小～中５％、炭化物粒状小１％



ＳＫ488
1　灰黄褐色土（10ＹＲ5/2）しまり中、粘性弱

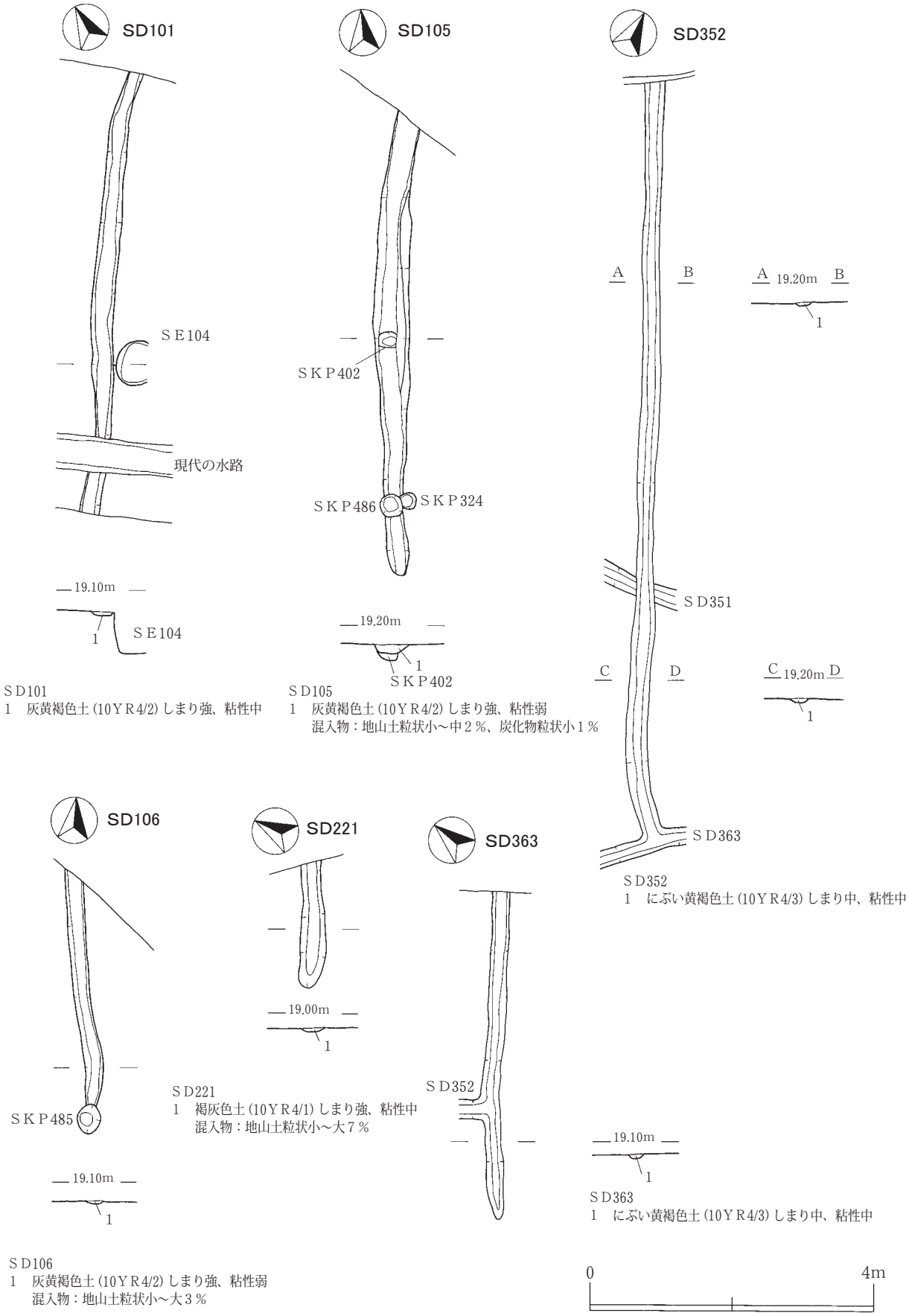
第44図　ＳＫ147・180・488

ＳＤ105（第45図、図版10－４）
《位置・確認状況》ＫＤ70・71グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒と炭化物を含む灰黄褐色土の筋として確認した。
《重複》ＳＫＰ324・ＳＫＰ402・ＳＫＰ486と重複する。新旧は本遺構の方がＳＫＰ324・ＳＫＰ486より古くＳＫＰ402より新しい。
《規模》確認した範囲で長さ6.53m、幅0.26～0.50m、確認面からの深さ0.13mである。北－南方向に延びており、北端が調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＤ106（第45図、図版10－５）
《位置・確認状況》ＫＢ69･70グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒を含む灰黄褐色土の筋として確認した。
《重複》ＳＫＰ485と重複する。新旧は本遺構の方がＳＫＰ485より古い。
《規模》確認した範囲で長さ3.37m、幅0.18～0.24m、確認面からの深さ0.04mである。北－南方向に延びており、北端が調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＤ221（第45図）
《位置・確認状況》ＫＳ86グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で地山土粒を含む褐灰色土の筋として確認した。
《重複》なし。
《規模》確認した範囲で長さ1.79m、幅0.39m、確認面からの深さ0.06mである。北東－南西方向に直線状に延びている。北東端は調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＤ267（第46図、図版10－６）
《位置・確認状況》ＬＤ90、ＬＤ・ＬＥ91、ＬＥ92・93、ＬＦ93・94、ＬＦ・ＬＧ95グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で灰黄褐色土の筋として確認した。
《重複》なし。
《規模》確認した範囲で長さ28.08m、幅0.18～0.35m、確認面からの深さ0.04～0.06mである。北西－南東方向に直線状に延びている。北西端は調査区外へ延伸している。南東端は電柱の設置区域に



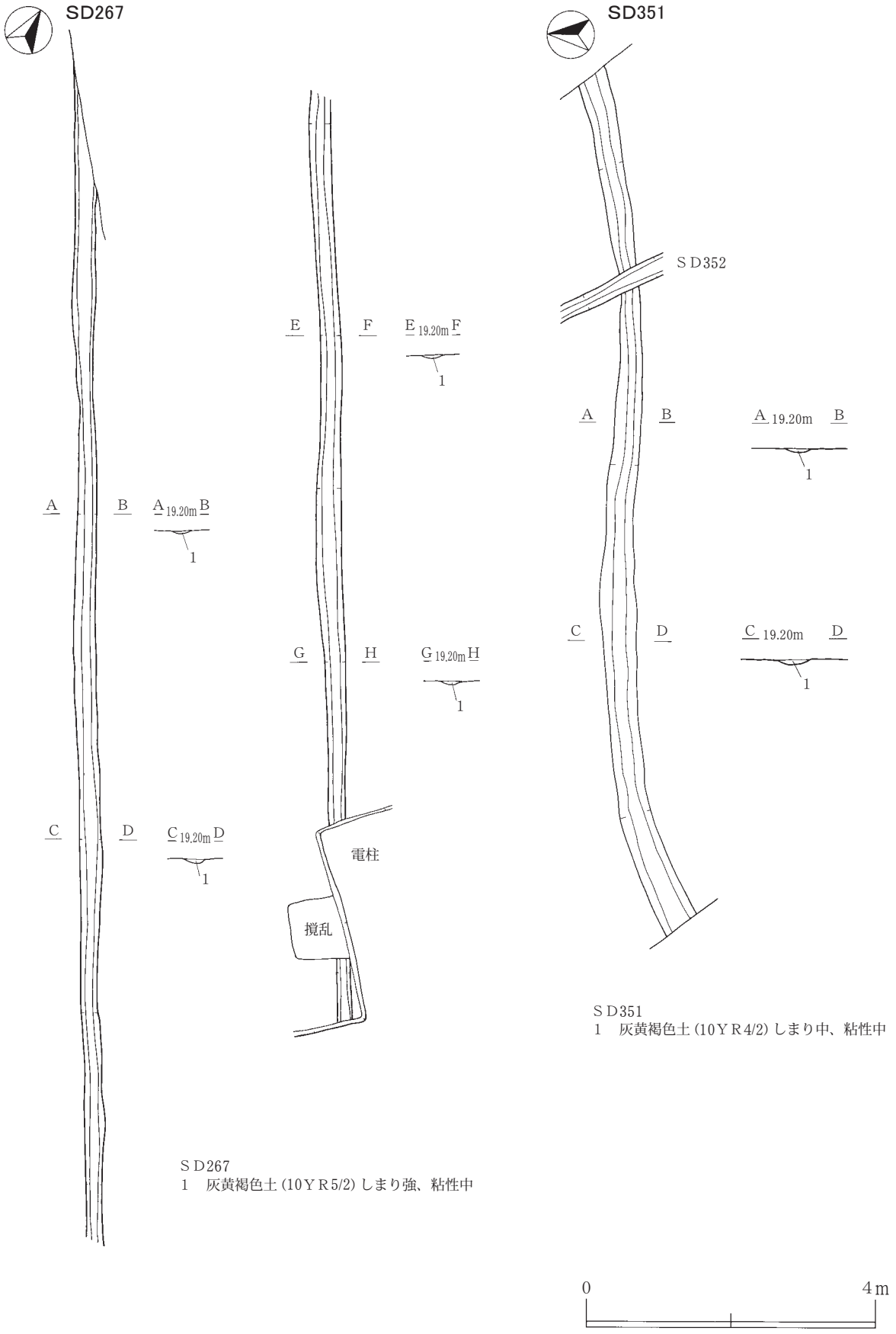
第45図　ＳＤ101・105・106・221・352・363

続いている。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＤ351（第46図、図版10－７）
《位置・確認状況》ＬＨ・ＬＩ・ＬＪ・ＬＫ97グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で灰黄褐色土の筋として確認した。
《重複》ＳＤ352と重複する。新旧は本遺構の方が古い。
《規模》確認した範囲で長さ11.66m、幅0.26～0.50m、確認面からの深さ0.06mである。東－西方向に直線状に延びている。両端ともに調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＤ352（第45図、図版10－８）
《位置・確認状況》ＬＨ97、ＬＩ97・98、ＬＩ・ＬＪ99グリッドに位置する。第Ⅲ層上面でにぶい黄褐色土の筋として確認した。
《重複》ＳＤ351・ＳＤ363と重複する。新旧は本遺構の方がＳＤ351より新しい。またＳＤ363とは連続していると思われる。
《規模》確認した範囲で長さ10.93m、幅0.21～0.31m、確認面の深さ0.06mである。北西－南東方向に直線状に延びている。両端ともに調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＤ363（第45図、図版10－８）
《位置・確認状況》ＬＨ96・97、ＬＩ96グリッドに位置する。第Ⅲ層上面でにぶい黄褐色土の筋として確認した。
《重複》ＳＤ352と重複する。本遺構はＳＤ352と連続していると思われる。
《規模》確認した範囲で長さ4.61m、幅0.24m、確認面の深さ0.06mである。北東－南西方向に直線状に延びている。北東端は調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面はほぼ平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。



ＳＤ267
1　灰黄褐色土（10ＹＲ5/2）しまり強、粘性中

ＳＤ351
1　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり中、粘性中

第46図　ＳＤ267・351

（４）柱穴様ピット（第47・48図）

Ｃ区の柱穴様ピットは、南部でⅢ層上面から273基を検出した。平面形は楕円形、円形、方形を呈し、規則的な配列は認められず、柱痕も確認できなかった。堆積土は黒褐色土（10ＹＲ3/2）・暗褐色土（10ＹＲ3/3）・灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）で、しまりの強い単一層である。これらのうち、土師器片、陶磁器片、砥石が出土した柱穴様ピットが14基ある。個々の柱穴様ピットについては第７～15表にまとめ、木材を出土した柱穴様ピットのうち10基の図を掲載した。

ＳＫＰ138（第47図、図版15－16）

《位置・確認状況》ＫＥ72グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《出土遺物》１層から柱材が１点出土した（第50図16）。16の大きさは長さ1,043mm、幅195mm、厚さ114mmである。

ＳＫＰ173（第47図）

《位置・確認状況》ＫＨ73・74グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《出土遺物》１層から板材２点が出土した。材Ａの大きさは長さ320mm、幅140mm、厚さ40mm、材Ｂは長さ660mm、幅220mm、厚さ50mmである。

ＳＫＰ178（第47図、図版15－18）

《位置・確認状況》ＫＨ73・74グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《出土遺物》２層から材が１点出土した（第51図18）。18の大きさは長さ301mm、幅160mm、厚さ104mmである。

ＳＫＰ201（第47図）

《位置・確認状況》ＫＨ73グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《出土遺物》底面で材が１点出土した。材の大きさは長さ640m、幅300mm、厚さ40mmである。

ＳＫＰ212（第48図、図版16－20）

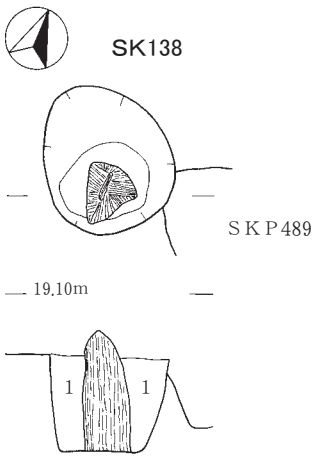
《位置・確認状況》ＫＩ74グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《出土遺物》底面で柱材が１点出土した（第52図20）。20の大きさは長さ381mm、幅161mm、厚さ167mmである。

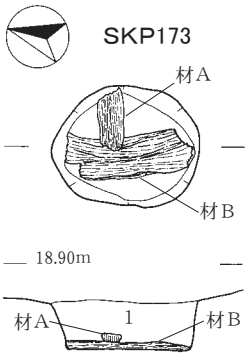
ＳＫＰ213（第48図）

《位置・確認状況》ＫＩ75グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

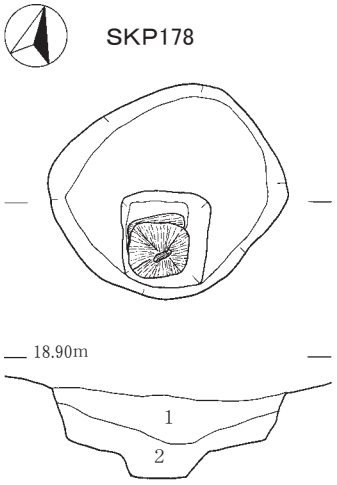
《出土遺物》底面で材２点が出土した。材Ａの大きさは長さ260mm、幅110mm、厚さ20mmである。材Ｂの大きさは長さ270mm、幅120mm、厚さ20mmである。



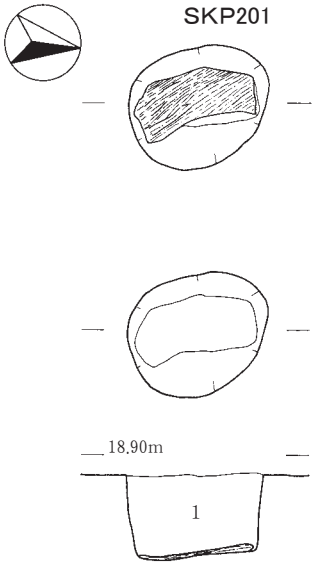
ＳＫＰ138
1　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状大３％



ＳＫＰ173
1　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状大～極大７％

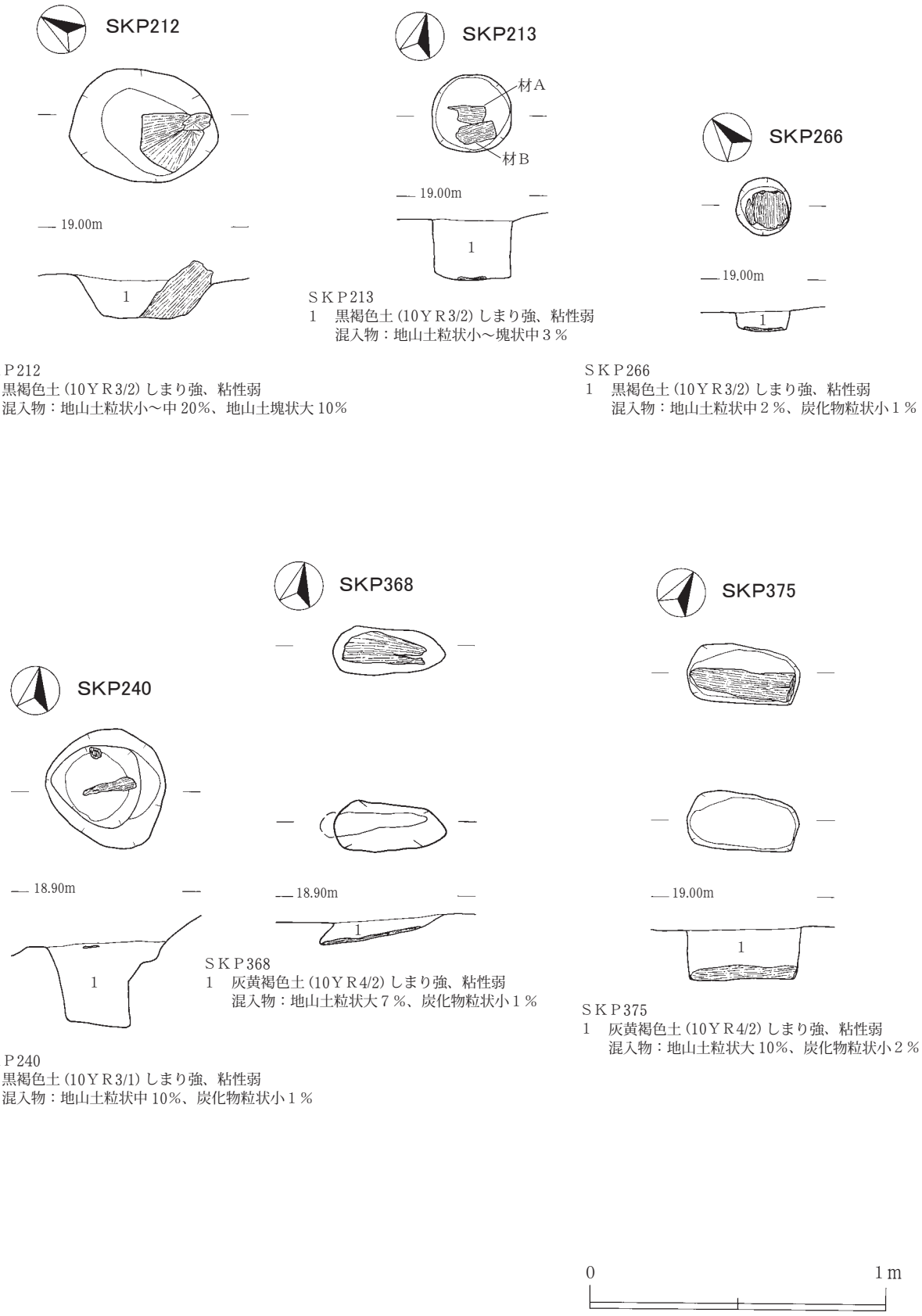


ＳＫＰ178
1　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状小３％
2　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり中、粘性弱
　　混入物：地山土塊状中２％



ＳＫＰ201
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状小３％

第47図　ＳＫＰ138・173・178・201



ＳＫＰ212
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状小～中 20%、地山土塊状大 10%

ＳＫＰ213
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状小～塊状中３％

ＳＫＰ266
1　黒褐色土（10ＹＲ3/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状中２％、炭化物粒状小１％

ＳＫＰ368
1　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状大７％、炭化物粒状小１％

ＳＫＰ240
1　黒褐色土（10ＹＲ3/1）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状中 10%、炭化物粒状小１％

ＳＫＰ375
1　灰黄褐色土（10ＹＲ4/2）しまり強、粘性弱
　　混入物：地山土粒状大 10%、炭化物粒状小２％

第48図　ＳＫＰ212・213・240・266・368・375

第７表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（１）

ＳＫＰ番　号	検　出グリッド	平面形	大きさ			底面標高(m)	出土遺物：破片点数
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
１０２	ＪＴ66・67	楕円形	0.20	0.17	0.06	18.78	－
１０３	ＪＴ67	楕円形	0.23	0.22	0.11	18.76	－
１０７	ＫＡ69	円形	0.20	0.20	0.15	18.76	－
１０８	ＫＢ68	楕円形	0.20	0.17	0.15	18.75	－
１０９	ＫＢ69	楕円形	0.29	0.25	0.23	18.66	－
１１１	ＫＢ69	楕円形	0.19	0.17	0.18	18.70	－
１１２	ＫＣ69	楕円形	0.22	0.20	0.07	18.80	－
１１３	ＫＢ69	楕円形	0.20	0.17	0.09	18.80	－
１１４	ＫＢ69	楕円形	0.19	0.17	0.14	18.74	－
１１５	ＫＣ69	楕円形	0.31	0.26	0.41	18.74	土師器坏１点
１１６	ＫＣ69	楕円形	0.22	0.19	0.11	18.78	－
１１７	ＫＣ70	楕円形	0.29	0.27	0.39	18.42	－
１１８	ＫＣ69	楕円形	0.18	0.14	0.15	18.70	－
１１９	ＫＣ69	楕円形	0.22	0.20	0.26	18.61	－
１２０	ＫＤ70	楕円形	0.20	0.18	0.12	18.68	土師器甕１点
１２１	ＫＣ69	円形	0.19	0.19	0.25	18.68	－
１２２	ＫＣ・ＫＤ69	楕円形	0.21	0.17	0.09	18.74	土師器坏１点
１２３	ＫＤ70	楕円形	0.20	0.18	0.21	18.65	－
１２４	ＫＥ71	円形	0.22	0.21	0.16	18.78	－
１２５	ＫＦ71	円形	0.20	0.20	0.13	18.83	－
１２６	ＫＤ70	楕円形	0.22	0.20	0.40	18.45	－
１２７	ＫＣ70	円形	0.19	0.19	0.24	18.69	－
１２８	ＫＤ71	楕円形	0.32	0.21	0.17	18.69	－
１２９	ＫＤ71	円形	0.24	0.23	0.35	18.54	－
１３０	ＫＤ71	楕円形	0.22	0.20	0.25	18.63	－
１３１	ＫＤ71	円形	0.18	0.17	0.33	18.60	－
１３２	ＫＤ70	楕円形	0.32	0.27	0.23	18.59	－
１３３	ＫＤ・ＫＥ71	円形	0.24	0.23	0.31	18.55	磁器皿３点
１３４	ＫＥ71	楕円形	0.28	0.26	0.34	18.52	－
１３５	ＫＥ71	円形	0.28	0.28	0.17	18.69	－
１３６	ＫＥ71	円形	0.39	0.39	0.49	18.42	－
１３８	ＫＥ72	楕円形	0.40	0.34	0.25	18.68	－

第８表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（２）

ＳＫＰ番　号	検　　出グリッド	平面形	大きさ			底面標高(m)	出土遺物：破片点数
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
１３９	ＫＥ72	楕円形	0.28	0.23	0.24	18.72	－
１４０	ＫＥ72	方形	0.31	0.27	0.17	18.75	－
１４１	ＫＥ72	楕円形	0.32	0.28	0.18	18.77	－
１４２	ＫＥ72	円形	0.32	0.31	0.42	18.49	－
１４３	ＫＥ72	楕円形	0.20	0.18	0.27	18.68	－
１４４	ＫＦ72	円形	0.24	0.24	0.31	18.63	－
１４５	ＫＦ72	円形	0.25	0.25	0.16	18.80	－
１４６	ＫＦ72	楕円形	0.26	0.23	0.30	18.65	－
１４８	ＫＦ72	楕円形	0.25	0.19	0.15	18.92	－
１４９	ＫＦ72	方形	0.47	0.39	0.40	18.53	砥石１点（第49図12）
１５０	ＫＦ72	円形	0.23	0.22	0.16	18.76	－
１５１	ＫＦ72・73	楕円形	0.45	0.41	0.22	18.69	－
１５２	ＫＧ73	楕円形	0.30	0.25	0.19	18.76	染付碗１点 瓦器皿１点
１５６	ＫＥ71	円形	0.27	0.27	0.23	18.72	土師器坏１点
１５７	ＫＥ71	（楕円形）	0.38	（0.33）	0.19	18.66	－
１５８	ＫＥ71	楕円形	0.31	0.25	0.14	18.74	－
１５９	ＫＥ70	楕円形	0.25	0.20	0.18	18.60	－
１６０	ＫＥ71	円形	0.22	0.22	0.23	18.67	土師器坏１点
１６１	ＫＥ71	円形	0.23	0.23	0.30	18.56	－
１６２	ＫＥ71	楕円形	0.24	0.20	0.25	18.64	－
１６３	ＫＥ71	楕円形	0.27	0.20	0.26	18.66	土師器甕１点
１６４	ＫＥ71	楕円形	0.22	0.20	0.20	18.70	－
１６５	ＫＥ71	円形	0.17	0.17	0.13	18.79	－
１６６	ＫＥ72	楕円形	0.22	0.19	0.12	18.82	土師器坏１点
１６７	ＫＥ・ＫＦ71	円形	0.25	0.25	0.15	18.71	－
１６８	ＫＦ71	楕円形	0.23	0.21	0.16	18.74	－
１６９	ＫＦ72	楕円形	0.32	0.30	0.20	18.72	－
１７０	ＫＣ68	楕円形	0.29	0.29	0.12	18.75	－
１７１	ＫＥ71	楕円形	0.32	0.17	0.40	18.39	－
１７２	ＫＣ69・70	楕円形	0.30	0.28	0.37	18.43	－
１７３	ＫＨ73・74	楕円形	0.39	0.30	0.12	18.67	－
１７４	ＫＧ72	楕円形	0.28	0.21	0.25	18.69	－

第９表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（３）

ＳＫＰ番　号	検　　出グリッド	平面形	大きさ			底面標高(m)	出土遺物：破片点数
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
１７５	ＫＥ71	楕円形	0.28	0.25	0.08	18.85	陶器１点 砥石１点(第49図13)
１７６	ＫＦ73	円形	0.31	0.31	0.23	18.74	土師器１点
１７７	ＫＥ71	円形	0.24	0.24	0.20	18.71	－
１７８	ＫＨ73・74	方形	0.58	0.53	0.23	18.58	－
１７９	ＫＤ71	楕円形	0.19	0.16	0.11	18.80	－
１８１	ＫＢ69	楕円形	0.26	0.22	0.20	18.69	－
１８２	ＫＤ70	円形	0.37	0.37	0.34	18.52	－
１８３	ＫＦ・ＮＧ72	楕円形	0.25	0.20	0.22	18.69	－
１８４	ＫＦ・ＮＧ72	楕円形	0.23	0.18	0.08	18.74	－
１８５	ＫＦ73	円形	0.24	0.24	0.18	18.74	－
１８６	ＫＦ73	楕円形	0.22	0.20	0.31	18.62	－
１８７	ＫＧ73	楕円形	0.20	0.15	0.30	18.55	－
１８９	ＫＧ73・74	楕円形	0.20	0.18	0.33	18.55	－
１９０	ＫＧ73	楕円形	0.22	0.17	0.32	18.54	－
１９１	ＫＣ68	円形	0.19	0.19	0.14	18.62	－
１９２	ＫＧ74	円形	0.28	0.27	0.34	18.54	－
１９３	ＫＧ74	楕円形	0.18	0.15	0.32	18.56	－
１９４	ＫＧ73	楕円形	0.19	0.17	0.38	18.52	－
１９７	ＫＧ74	楕円形	0.26	0.20	0.08	18.82	－
１９８	ＫＧ73	円形	0.20	0.20	0.33	18.49	－
１９９	ＫＨ73	楕円形	0.18	0.16	0.15	18.70	－
２００	ＫＨ73	楕円形	0.33	0.28	0.20	18.63	－
２０１	ＫＨ73	楕円形	0.38	0.31	0.20	18.62	－
２０２	ＫＨ73・74	楕円形	0.17	0.15	0.11	18.71	－
２０３	ＫＨ74	楕円形	0.19	0.17	0.19	18.62	－
２０４	ＫＧ・ＫＨ74	楕円形	0.36	0.28	0.24	18.62	－
２０５	ＫＨ74	円形	0.20	0.20	0.15	18.65	－
２０６	ＫＨ74	円形	0.25	0.25	0.18	18.61	－
２０７	ＫＨ74	楕円形	0.18	0.16	0.09	18.74	－
２０８	ＫＨ74・75	円形	0.18	0.18	0.07	18.79	－
２０９	ＫＨ・ＫＩ74	楕円形	0.55	0.42	0.22	18.63	－
２１０	ＫＩ74	(楕円形)	0.28	(0.20)	0.17	18.67	－

第10表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（４）

ＳＫＰ番　号	検　　出グリッド	平面形	大きさ			底面標高(m)	出土遺物：破片点数
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
２１２	ＫＩ74	楕円形	0.50	0.38	0.15	18.70	－
２１３	ＫＩ75	円形	0.28	0.27	0.20	18.72	－
２１４	ＫＩ75	楕円形	0.18	0.16	0.06	18.80	－
２１５	ＫＩ75	方形	0.24	0.22	0.10	18.69	－
２１６	ＫＧ72	楕円形	0.21	0.18	0.16	18.74	－
２１７	ＫＧ72	楕円形	0.19	0.17	0.15	18.78	－
２１８	ＫＦ71	方形	0.39	0.38	0.40	18.50	－
２１９	ＫＧ72	楕円形	0.34	0.25	0.29	18.61	陶器碗１点
２２３	ＫＢ68	楕円形	0.18	0.16	0.14	18.74	－
２２４	ＫＢ・ＫＣ68	楕円形	0.19	0.16	0.10	18.78	－
２２５	ＫＣ69	円形	0.16	0.15	0.16	18.70	－
２２６	ＫＣ69	楕円形	0.28	0.21	0.21	18.64	－
２２７	ＫＣ69	楕円形	0.22	0.20	0.11	18.76	－
２２８	ＫＣ69	方形	0.30	0.29	0.20	18.65	－
２２９	ＫＣ69	楕円形	0.19	0.17	0.15	18.71	－
２３０	ＫＣ69	楕円形	0.18	0.16	0.10	18.77	－
２３１	ＫＣ69	楕円形	0.19	0.17	0.09	18.75	－
２３２	ＫＣ70	楕円形	0.17	0.15	0.07	18.70	－
２３４	ＫＤ71	楕円形	0.18	0.16	0.23	18.64	－
２３５	ＫＤ70	楕円形	0.26	0.18	0.43	18.40	－
２３６	ＫＤ70	楕円形	0.23	0.20	0.14	18.70	－
２３９	ＫＦ71	円形	0.19	0.19	0.13	18.62	－
２４０	ＫＦ71	楕円形	0.41	0.39	0.29	18.44	－
２４１	ＫＦ72	楕円形	0.21	0.18	0.12	18.79	－
２４２	ＫＦ72	楕円形	0.51	0.33	0.54	18.39	－
２４４	ＫＦ72	楕円形	0.24	0.21	0.22	18.70	－
２４５	ＫＧ72	（楕円形）	0.18	（0.16）	0.11	18.71	－
２４６	ＫＧ72・73	円形	0.20	0.20	0.20	18.63	－
２４９	ＫＣ68	楕円形	0.20	0.18	0.15	18.74	－
２５０	ＫＢ68	楕円形	0.19	0.17	0.25	18.63	－
２５１	ＫＣ69	円形	0.16	0.15	0.14	18.74	－
２５２	ＫＣ69	（楕円形）	0.19	（0.16）	0.27	18.59	－

第11表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（５）

ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ			底面標高(m)	出土遺物：破片点数
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
２５８	ＫＦ71	楕円形	0.29	0.27	0.18	18.59	－
２５９	ＫＢ69	楕円形	0.22	0.20	0.20	18.66	－
２６０	ＫＢ69	楕円形	0.16	0.15	0.21	18.66	－
２６２	ＫＦ71	円形	0.20	0.20	0.08	18.68	－
２６４	ＫＦ72	円形	0.17	0.16	0.16	18.80	－
２６６	ＫＧ73	円形	0.19	0.18	0.06	18.83	－
２６８	ＫＣ68	楕円形	0.18	0.16	0.19	18.70	－
２６９	ＫＢ68	楕円形	0.29	0.24	0.09	18.76	－
２７３	ＫＣ68	円形	0.17	0.17	0.13	18.74	－
２７５	ＫＢ68	（楕円形）	(0.22)	0.20	0.23	18.61	－
２７７	ＫＢ68	楕円形	0.16	0.14	0.19	18.65	－
２７８	ＫＢ68	楕円形	0.14	0.13	0.11	18.73	－
２８０	ＫＢ68	楕円形	0.15	0.12	0.12	18.71	－
２８１	ＫＢ69	円形	0.19	0.18	0.14	18.72	－
２８３	ＫＢ69	円形	0.16	0.16	0.09	18.78	－
２８４	ＫＢ69	楕円形	0.15	0.13	0.24	18.63	－
２８５	ＫＢ69	円形	0.15	0.15	0.17	18.68	－
２８８	ＫＢ69	楕円形	0.17	0.14	0.26	18.53	－
２８９	ＫＢ69	楕円形	0.15	0.13	0.12	18.72	－
２９０	ＫＢ69	楕円形	0.24	0.22	0.27	18.55	土師器甕１点
２９２	ＫＢ69	楕円形	0.19	0.17	0.07	18.72	－
２９３	ＫＢ68	楕円形	0.20	0.18	0.11	18.73	－
２９４	ＫＢ69	円形	0.26	0.26	0.12	18.71	－
２９５	ＫＢ69	楕円形	0.18	0.16	0.21	18.62	－
２９６	ＫＢ68	楕円形	0.17	0.13	0.04	18.82	－
２９７	ＫＢ68	円形	0.21	0.21	0.14	18.70	－
２９８	ＫＢ68	（楕円形）	0.21	(0.18)	0.31	18.52	－
２９９	ＫＢ68	楕円形	0.23	0.19	0.20	18.66	－
３００	ＫＢ68	楕円形	0.13	0.11	0.06	18.78	－
３０３	ＫＢ・ＫＣ69	円形	0.14	0.14	0.13	18.73	－
３０４	ＫＣ69	楕円形	0.16	0.14	0.11	18.76	－
３０６	ＫＢ69	円形	0.17	0.17	0.19	18.62	－

第12表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（６）

ＳＫＰ番　号	検　　出グリッド	平面形	大きさ			底面標高(m)	出土遺物：破片点数
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
３０８	ＫＢ68	楕円形	0.22	0.19	0.14	18.70	－
３０９	ＫＢ68	(楕円形)	0.15	(0.10)	0.05	18.76	－
３１０	ＫＢ68	楕円形	0.17	0.09	0.13	18.71	－
３１１	ＫＢ68	(楕円形)	0.13	(0.09)	0.11	18.73	－
３１２	ＫＢ68	楕円形	0.15	0.13	0.10	18.74	－
３１４	ＫＢ68	楕円形	0.20	0.15	0.15	18.71	－
３１５	ＫＢ68	円形	0.17	0.16	0.11	18.76	－
３１６	ＫＢ68	(楕円形)	(0.19)	0.19	0.12	18.72	－
３１８	ＫＡ・ＫＢ68	楕円形	0.20	0.19	0.24	18.59	－
３１９	ＫＡ68	(楕円形)	0.22	(0.20)	0.04	18.78	－
３２０	ＫＣ69	楕円形	0.15	0.13	0.06	18.79	－
３２４	ＫＤ70	(楕円形)	0.24	(0.21)	0.06	18.76	－
３２５	ＫＤ70	円形	0.22	0.21	0.19	18.63	－
３２７	ＫＤ70	楕円形	0.19	0.17	0.06	18.80	－
３２８	ＫＤ70	楕円形	0.20	0.18	0.07	18.79	－
３２９	ＫＤ70	円形	0.19	0.19	0.15	18.69	－
３３１	ＫＤ71	円形	0.20	0.20	0.07	18.84	－
３３２	ＫＤ71	楕円形	0.20	0.18	0.13	18.77	－
３３３	ＫＥ71	円形	0.21	0.21	0.10	18.82	－
３３６	ＫＥ71	楕円形	0.24	0.22	0.16	18.75	－
３３７	ＫＥ71	楕円形	0.16	0.13	0.26	18.64	－
３３９	ＫＥ71	円形	0.19	0.19	0.10	18.83	－
３４０	ＫＥ71	(楕円形)	0.23	(0.17)	0.14	18.78	－
３４２	ＫＥ71	円形	0.15	0.15	0.10	18.78	－
３４３	ＫＥ72	楕円形	0.25	0.19	0.07	18.87	－
３４６	ＫＥ72	楕円形	0.21	0.19	0.34	18.61	－
３４７	ＫＥ72	(楕円形)	0.22	(0.16)	0.12	18.83	－
３４９	ＫＥ71	楕円形	0.19	0.17	0.14	18.71	－
３５０	ＫＦ71	円形	0.18	0.17	0.11	18.79	－
３５３	ＫＦ72	楕円形	0.21	0.18	0.12	18.79	－
３５４	ＫＦ72	楕円形	0.17	0.15	0.07	18.87	－
３５６	ＫＦ72	円形	0.18	0.17	0.09	18.85	－

第13表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（７）

ＳＫＰ番　号	検　　出グリッド	平面形	大きさ			底面標高(m)	出土遺物：破片点数
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
３５７	ＫＦ72	円形	0.27	0.27	0.10	18.84	－
３５８	ＫＦ73	円形	0.16	0.16	0.10	18.86	－
３５９	ＫＧ73	楕円形	0.17	0.15	0.12	18.82	－
３６０	ＫＦ73	楕円形	0.21	0.19	0.11	18.79	－
３６１	ＫＢ68・69	(楕円形)	0.18	(0.10)	0.15	18.65	－
３６２	ＫＢ68	円形	0.18	0.18	0.25	18.55	－
３６４	ＫＢ・ＫＣ69	円形	0.21	0.21	0.11	18.76	－
３６５	ＫＣ69	(楕円形)	0.14	(0.10)	0.15	18.78	－
３６６	ＫＣ69	楕円形	0.17	0.13	0.11	18.73	－
３６７	ＫＢ69	円形	0.15	0.15	0.14	18.71	－
３６８	ＫＢ72・73	楕円形	0.38	0.16	0.07	18.74	－
３７３	ＫＧ72	楕円形	0.33	0.25	0.45	18.42	－
３７４	ＫＢ68	円形	0.26	0.26	0.20	18.70	－
３７５	ＫＦ73	楕円形	0.38	0.19	0.17	18.72	－
３７７	ＫＧ72	楕円形	0.20	0.17	0.24	18.59	－
３７８	ＫＧ73	楕円形	0.20	0.16	0.32	18.92	－
３８１	ＫＧ73	楕円形	0.17	0.13	0.12	18.71	－
３８３	ＫＨ73	楕円形	0.18	0.17	0.05	18.81	－
３８５	ＫＨ74	円形	0.20	0.20	0.14	18.71	－
３８７	KH73･74、KI73･74	円形	0.37	0.30	0.26	18.57	－
３８８	ＫＢ68・69	(楕円形)	0.17	(0.08)	0.20	18.60	－
３８９	ＫＢ68・69	(楕円形)	(0.18)	0.18	0.14	18.66	－
３９３	ＫＩ75	楕円形	0.21	0.14	0.10	18.57	－
３９４	ＫＤ71	楕円形	0.19	0.14	0.10	18.77	－
３９５	ＫＤ71	(楕円形)	0.16	(0.10)	0.14	18.74	－
３９６	ＫＢ68	楕円形	0.23	0.20	0.22	18.62	－
３９７	ＫＦ71	(楕円形)	0.27	(0.13)	0.22	18.64	－
３９８	ＫＩ75	楕円形	0.18	0.14	0.10	18.72	－
４００	ＫＤ71	(楕円形)	0.16	(0.04)	0.38	18.56	－
４０１	ＫＩ75	楕円形	0.20	0.18	0.07	18.72	－
４０２	ＫＤ71	楕円形	0.33	0.24	0.10	18.73	－
４０３	ＫＩ74	楕円形	0.21	0.15	0.13	18.69	－

第14表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（８）

ＳＫＰ番　号	検　　出グリッド	平面形	大きさ			底面標高(m)	出土遺物：破片点数
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
４０５	ＫＦ72	(楕円形)	0.18	(0.11)	0.33	18.60	－
４１２	ＫＥ71	楕円形	0.29	0.26	0.22	18.62	磁器皿１点
４１８	ＫＧ73	円形	0.18	0.17	0.13	18.72	－
４２０	ＫＦ72	(楕円形)	0.18	(0.11)	0.09	18.85	－
４２１	ＫＧ72	楕円形	0.18	0.15	0.11	18.80	－
４２２	ＫＧ72	楕円形	0.20	0.17	0.11	18.80	－
４２４	ＫＦ72	楕円形	0.16	0.14	0.09	18.83	－
４２５	ＫＦ72	楕円形	0.22	0.16	0.14	18.76	－
４２６	ＫＦ71	楕円形	0.16	0.13	0.12	18.80	－
４２８	ＫＥ71・72	楕円形	0.22	0.18	0.19	18.71	－
４３０	ＫＥ71	楕円形	0.15	0.13	0.17	18.70	－
４３１	ＫＥ71	楕円形	0.21	0.19	0.24	18.62	－
４３４	ＫＥ71	楕円形	0.23	0.20	0.12	18.73	－
４３７	ＫＥ71	楕円形	0.17	0.14	0.10	18.79	－
４３８	ＫＥ71	(楕円形)	(0.12)	0.12	0.06	18.88	－
４３９	ＫＥ71	円形	0.18	0.18	0.08	18.77	－
４４０	ＫＤ・ＫＥ71	楕円形	0.22	0.19	0.28	18.58	－
４４１	ＫＥ71	楕円形	0.20	0.18	0.14	18.73	－
４４２	ＫＦ71	円形	0.18	0.18	0.12	18.79	－
４４６	ＫＦ71	楕円形	0.28	0.27	0.15	18.69	－
４４７	ＫＣ68・69	円形	0.15	0.15	0.08	18.79	－
４４９	ＫＣ68	円形	0.20	0.20	0.22	18.64	－
４５０	ＫＣ68	(楕円形)	(0.13)	0.12	0.14	18.72	－
４５５	ＫＢ69	(楕円形)	0.11	(0.07)	0.05	18.73	－
４５６	ＫＢ69	(楕円形)	0.20	(0.17)	0.06	18.71	－
４５７	ＫＢ69	(楕円形)	(0.17)	0.14	0.15	18.64	－
４６０	ＫＢ69	(楕円形)	0.18	(0.08)	0.10	18.72	－
４６１	ＫＢ69	楕円形	0.20	0.18	0.09	18.73	－
４６２	ＫＢ69	楕円形	0.20	0.16	0.05	18.76	－
４６３	ＫＢ69	楕円形	0.15	0.12	0.07	18.76	－
４６４	ＫＢ69	楕円形	0.18	0.15	0.10	18.72	－
４６６	ＫＣ69	楕円形	0.20	0.13	0.20	18.59	－

第15表　Ｃ区柱穴様ピット観察表（９）

ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ			底面標高(m)	出土遺物：破片点数
			長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)		
４６７	ＫＣ69	(楕円形)	0.16	(0.09)	0.06	18.72	－
４６８	ＫＣ69	(楕円形)	(0.14)	0.13	0.08	18.73	－
４７１	ＫＣ70	(楕円形)	(0.25)	(0.12)	0.16	18.58	－
４７２	ＫＣ70	(楕円形)	(0.18)	(0.07)	0.10	18.66	－
４７３	ＫＣ70	(楕円形)	0.32	(0.08)	0.10	18.68	－
４７４	ＫＣ70	(楕円形)	(0.21)	0.21	0.10	18.67	－
４７５	ＫＣ70	円形	0.15	0.15	0.17	18.66	－
４７９	ＫＤ70	(楕円形)	0.20	(0.17)	0.11	18.74	－
４８０	ＫＥ72	楕円形	0.19	0.17	0.09	18.85	－
４８１	ＫＥ72	(楕円形)	0.15	(0.10)	0.07	18.87	－
４８２	ＫＥ72	(方形)	(0.26)	(0.10)	0.08	18.84	－
４８３	ＫＥ72	(楕円形)	0.32	(0.06)	0.24	18.66	－
４８５	ＫＢ69	楕円形	0.44	0.32	0.34	18.53	－
４８６	ＫＤ70	楕円形	0.33	0.31	0.28	18.54	－
４８９	ＫＥ72	(方形)	0.46	0.39	0.18	18.79	－
４９０	ＫＡ67	楕円形	0.19	0.15	0.37	18.36	－
４９１	ＫＡ68	楕円形	0.15	0.12	0.20	18.57	－

※（　　）内の平面形と数値は推定である。

ＳＫＰ240（第48図）

《位置・確認状況》ＫＦ71グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《出土遺物》１層上部で材が１点出土した。材の大きさは長さ360mm、幅100mm、厚さ10mmである。

ＳＫＰ266（第48図）

《位置・確認状況》ＫＧ73グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《出土遺物》底面で材が１点出土した。材の大きさは長さ260mm、幅270mm、厚さ20mmである。

ＳＫＰ368（第48図）

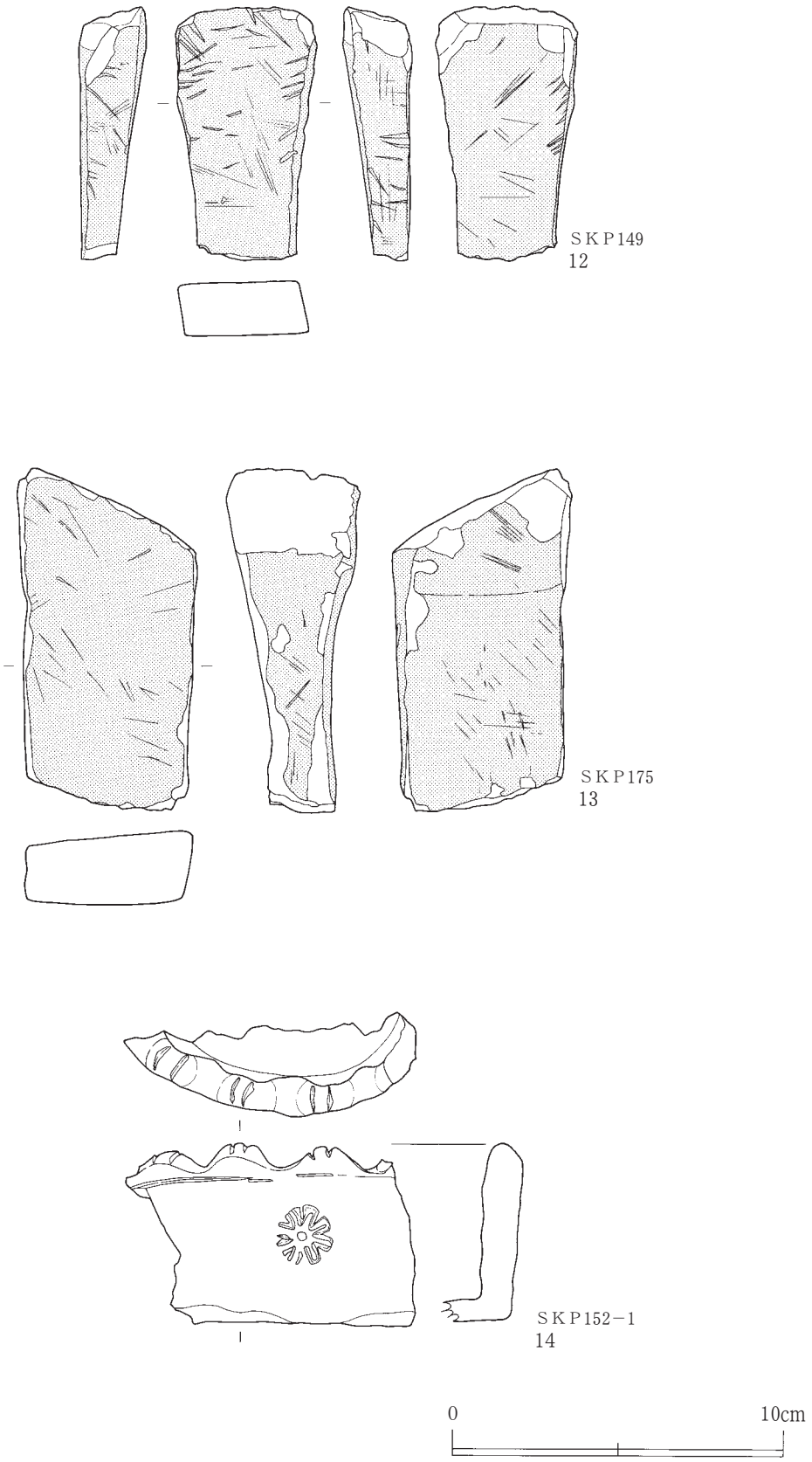
《位置・確認状況》ＫＧ72・73グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

《出土遺物》底面で材が１点出土した。材の大きさは長さ530mm、幅200mm、厚さ30mmである。

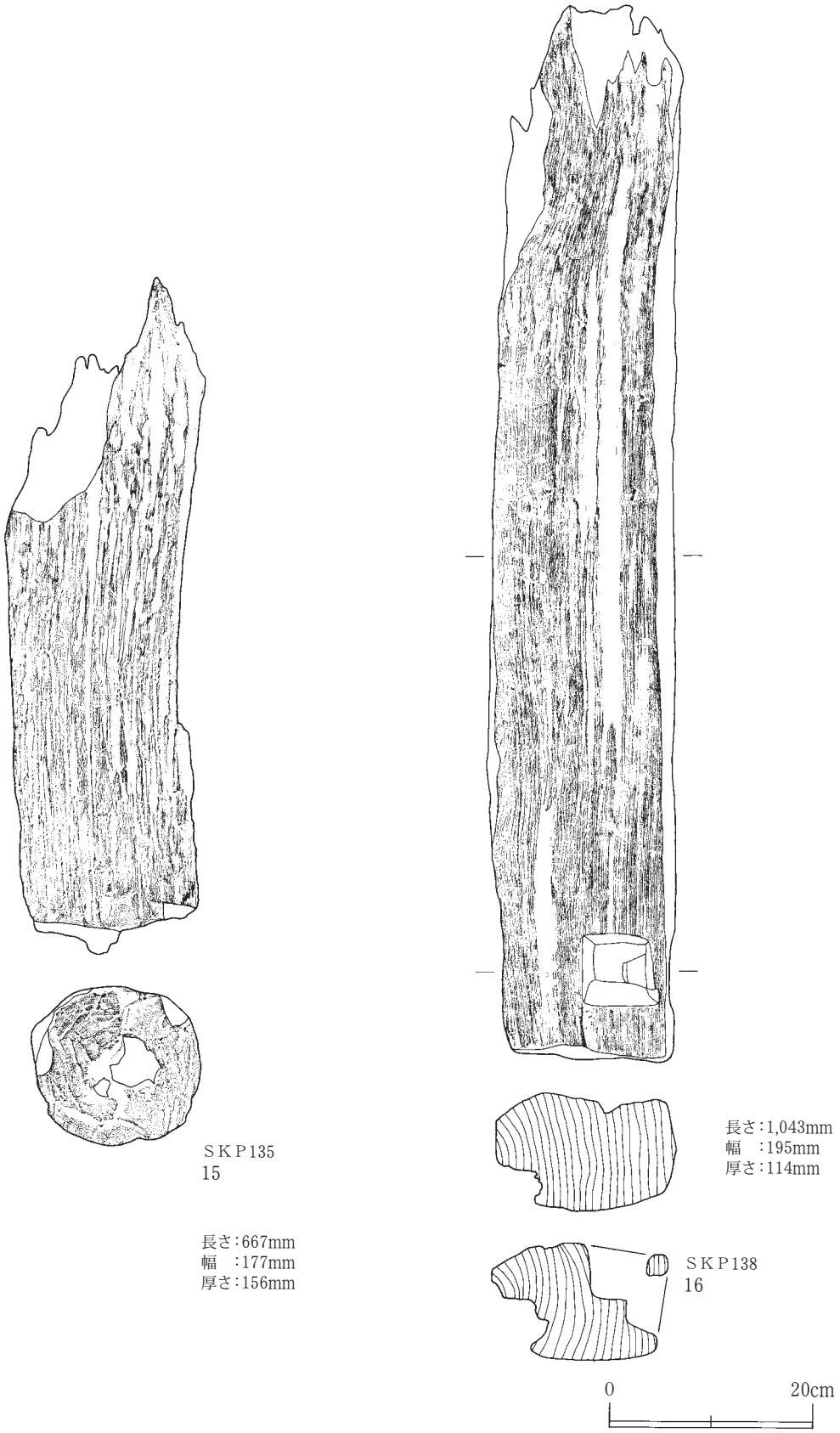
ＳＫＰ375（第48図）

《位置・確認状況》ＫＦ73グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で確認した。

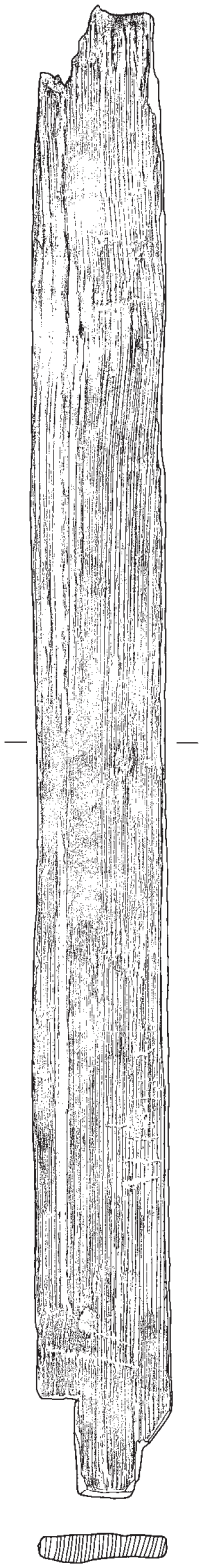
《出土遺物》底面で材が１点出土した。材の大きさは長さ710mm、幅180mm、厚さ100mmである。



第49図　遺構内出土遺物（１）

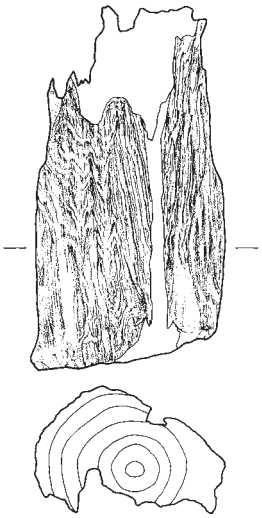


第50図　遺構内出土遺物（２）



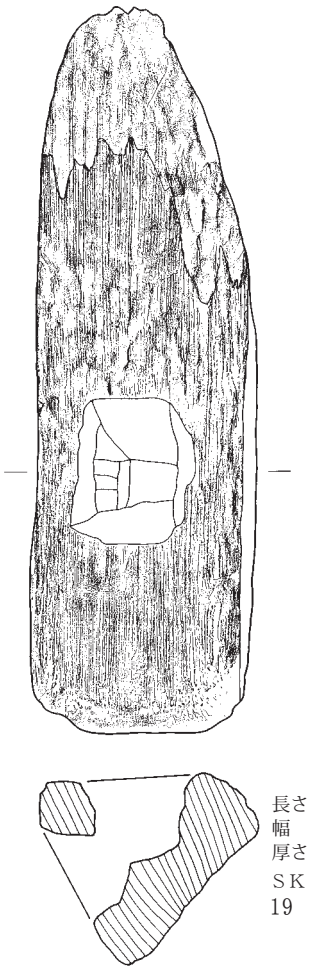
長さ:1240mm
幅　:106mm
厚さ:23mm

ＳＥ155
17



長さ:301mm
幅　:160mm
厚さ:104mm

ＳＫＰ178
18

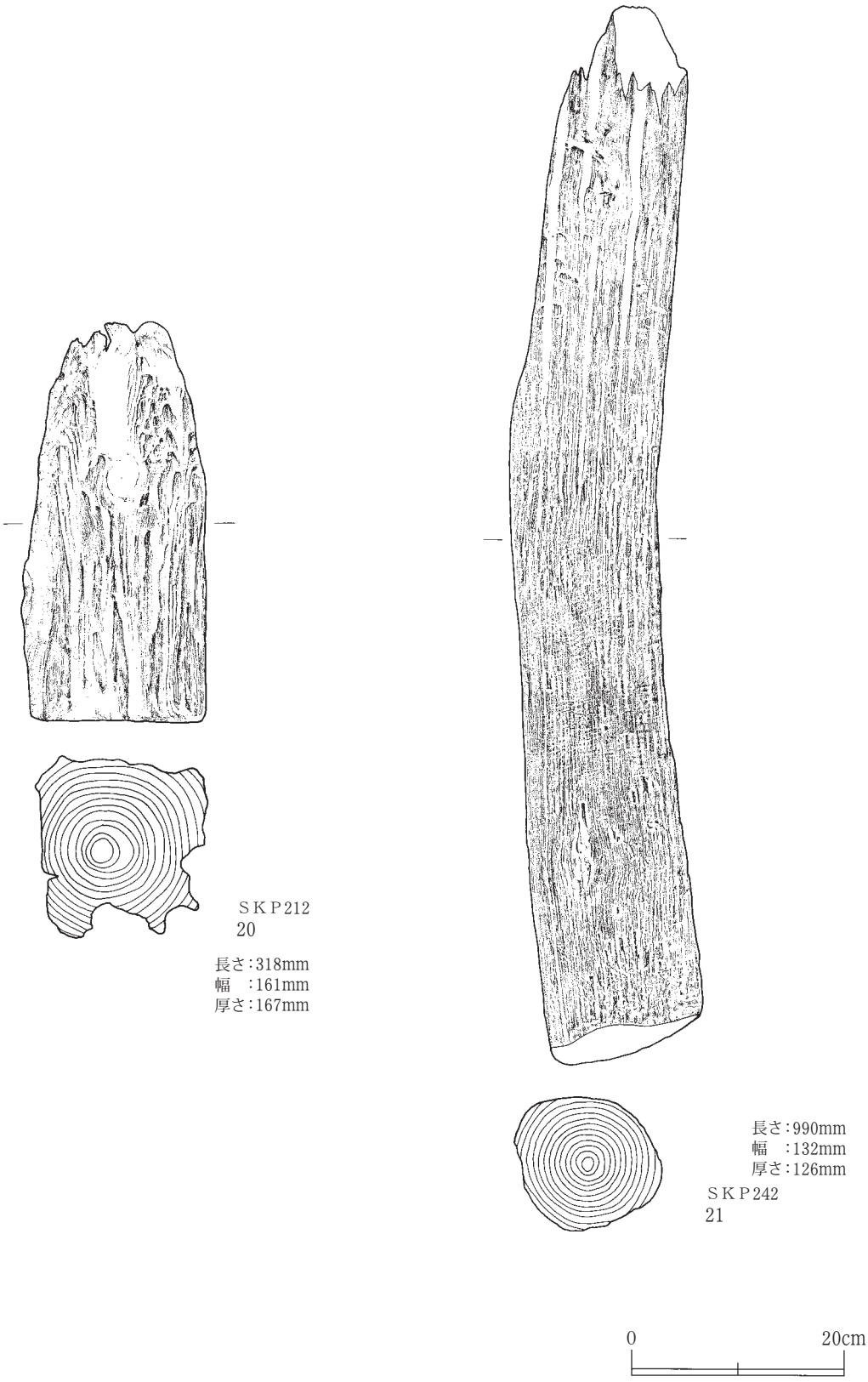


長さ:597mm
幅　:184mm
厚さ:153mm

ＳＫＰ186
19

0　20cm

第51図　遺構内出土遺物（３）



第52図　遺構内出土遺物（４）

６　Ｃ区の遺構外出土遺物

Ｃ区の遺構外からは土師器片52点、須恵器片９点、中世陶器片２点、近世陶磁器片36点が出土した。ここではそれらの内、細片を除くいくつかの遺物を掲載する。

（１）平安時代の遺物（第53 ～ 54図、図版13－22 ～ 25・14－27 ～ 28）

第53図22はＫＢ68グリッドの第Ⅲ層から出土した土師器坏である。大きさは器高4.2cm、底径4.3cm、口径は復原値で12.3cmである。成形はロクロで行われており、底部の切り離しは回転糸切りによる。胎土は砂粒を含み緻密で、焼成は良好である。第53図23はＫＢ69グリッドの第Ⅲ層から出土した、土師器の底部から胴部にかけての破片である。大きさは残存高3.2cm、底径は復原値で5.4cmである。成形はロクロで行われており、底部の切り離しは回転糸切りによる。胎土は砂粒を含み緻密で、焼成は良好である。第53図24･25、第54図26 ～ 28はＫＢ68グリッドの第Ⅲ層から出土した須恵器片であり、甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口径は復原値で26.2cmである。第54図27は口縁部の破片であり平行叩きにより外面を成形した後に、ロクロナデによって内外面に調整を施している。第53図25は頸部の破片であり、外面は平行叩きによって調整されている。内面は上半が横方向のハケ調整、下半には縦方向の後に横方向のハケ調整が施されている。さらに、その後に外面を叩きで調整した際の当て具痕が認められる。第54図26は頸部から胴部にかけての破片であり、外面が格子状の叩きによって調整されている。内面は頸部には横方向の箆ナデ調整、胴部には縦方向のハケ調整を施した後に、外面を叩きで調整した際の当て具痕が認められる。第54図27は胴部片であり、外面は平行叩きによって調整されている。内面は横方向の箆ナデ調整後に縦方向のハケ調整が施されている。第54図28は胴部片であり、外面は平行叩きによって調整されている。内面はハケ調整後に外面を叩きで調整した際の当て具痕が認められる。以上５点の須恵器は同一個体であり胎土は砂粒を含み緻密で、焼成は良好である。色調は内外面ともに灰色である。

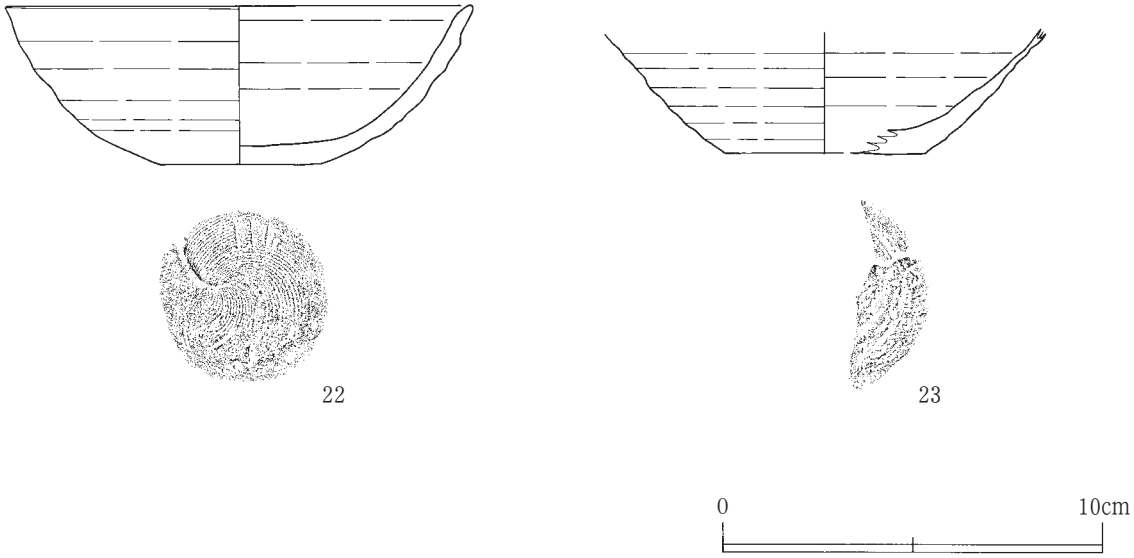
（２）中世の遺物（第55図、図版14－29 ～ 30）

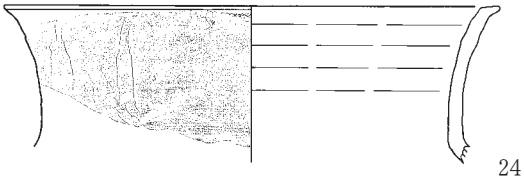
第55図29はＪＲ66グリッドの第Ⅲ層から出土した珠洲系陶器甕の胴部の破片である。成形はロクロで行われ、成形後に平行叩きによって外面を調整している。胎土は砂粒を含み緻密で、焼成は良好である。色調は外面が灰色、内面が暗灰色である。第55図30はＫＱ84グリッドの第Ⅲ層から出土した珠洲系陶器擂鉢の胴部片である。成形はロクロで行われ、成形後の調整は外面には認められないが、内面には10条を一単位とした卸目が認められる。胎土は砂粒、雲母を含み緻密で、焼成は良好である。色調は外面・内面ともに青灰色である。

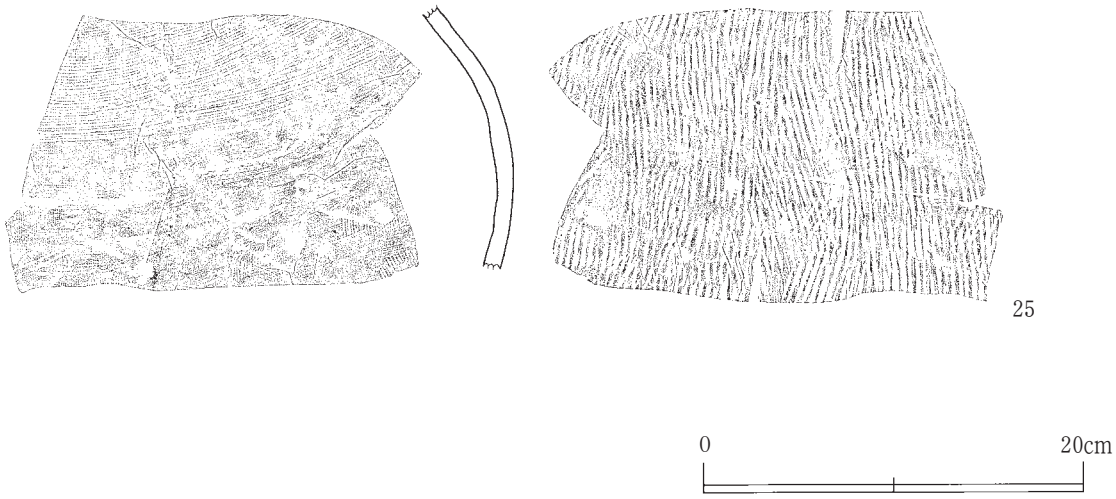
（３）江戸時代の遺物（第55 ～ 56図、図版14－31 ～ 39）

第55図32はＫＣ69及びＫＦ71グリッドの第Ⅲ層から出土した肥前陶器碗である。成形はロクロで行われており、高台は削り出している。大きさは口径10.7cm、底径4.4cm、器高6.7cmである。全面に鉄釉が施されているが、胴部下半以下は釉が剥がれ落ちている。

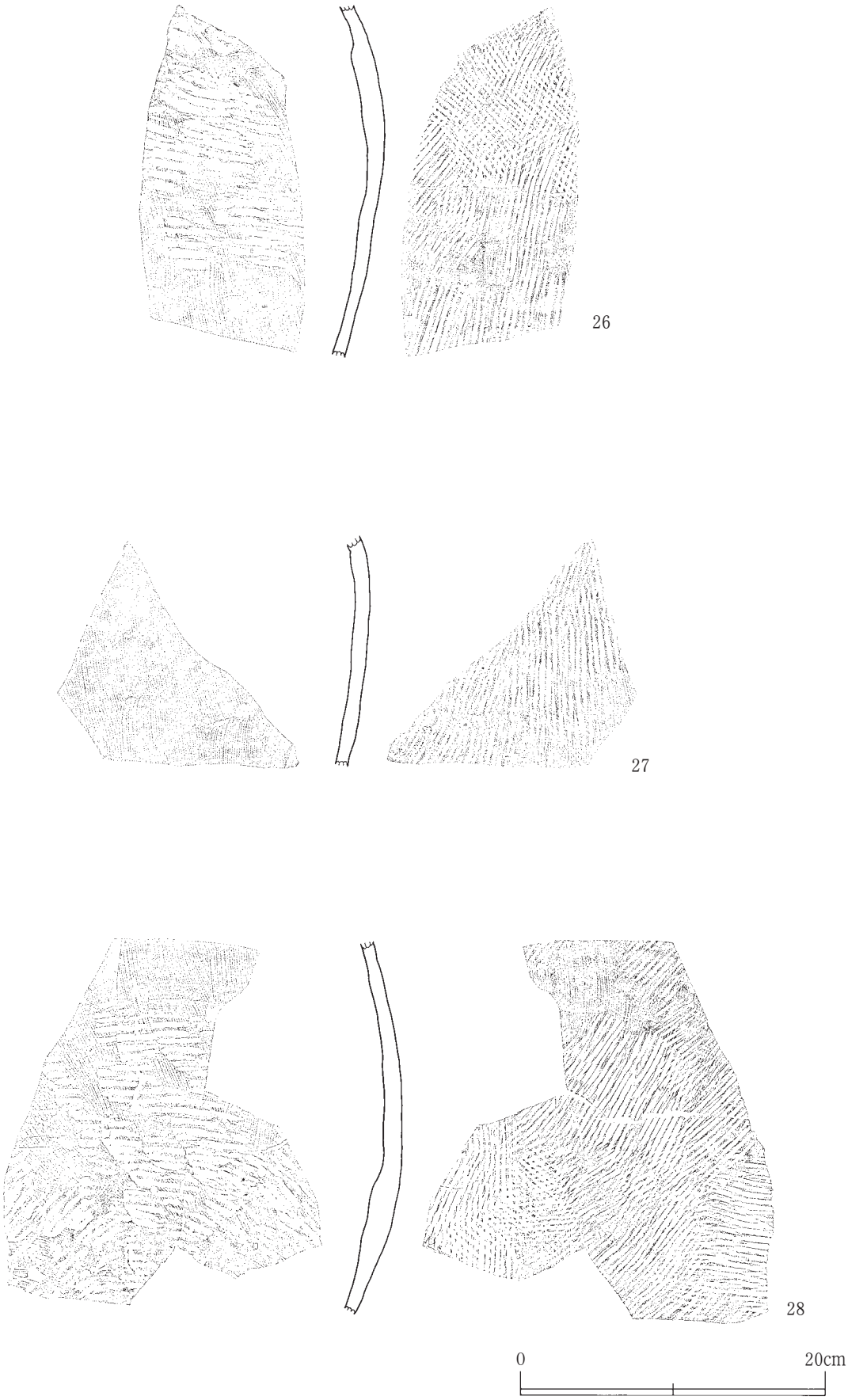
第56図34はＫＧ72グリッドの撹乱層から出土した肥前陶器皿の底部から胴部にかけての破片である。成形はロクロで行われており、高台は浅く削り出している。大きさは底径4.4cm、残存高2.1cmである。内面には灰釉が施されているが、底部外面は無釉であり、内面には重ね焼きの際の砂目痕が認







第53図　遺構外出土遺物（１）



第54図　遺構外出土遺物（２）

められる。

第56図35はＫＢ69グリッドの第Ⅲ層から出土した肥前陶器皿の底部から胴部にかけての破片である。成形はロクロで行われており、高台は浅く削り出している。大きさは底径4.5cm、残存高1.8cmである。内面および外面の残存部上端には鉄釉が施されているが、底部外面は無釉である。内面には重ね焼きの際の砂目痕が認められる。

第55図31はＪＳ67グリッドの第Ⅲ層から出土した信楽陶器壺の頸部から胴部上半にかけての破片である。成形はロクロで行われており、外面には五角形の型押しが認められる。また、外面には鉄釉が施されており、頸部には蓋を被せ封をした痕跡が認められる。

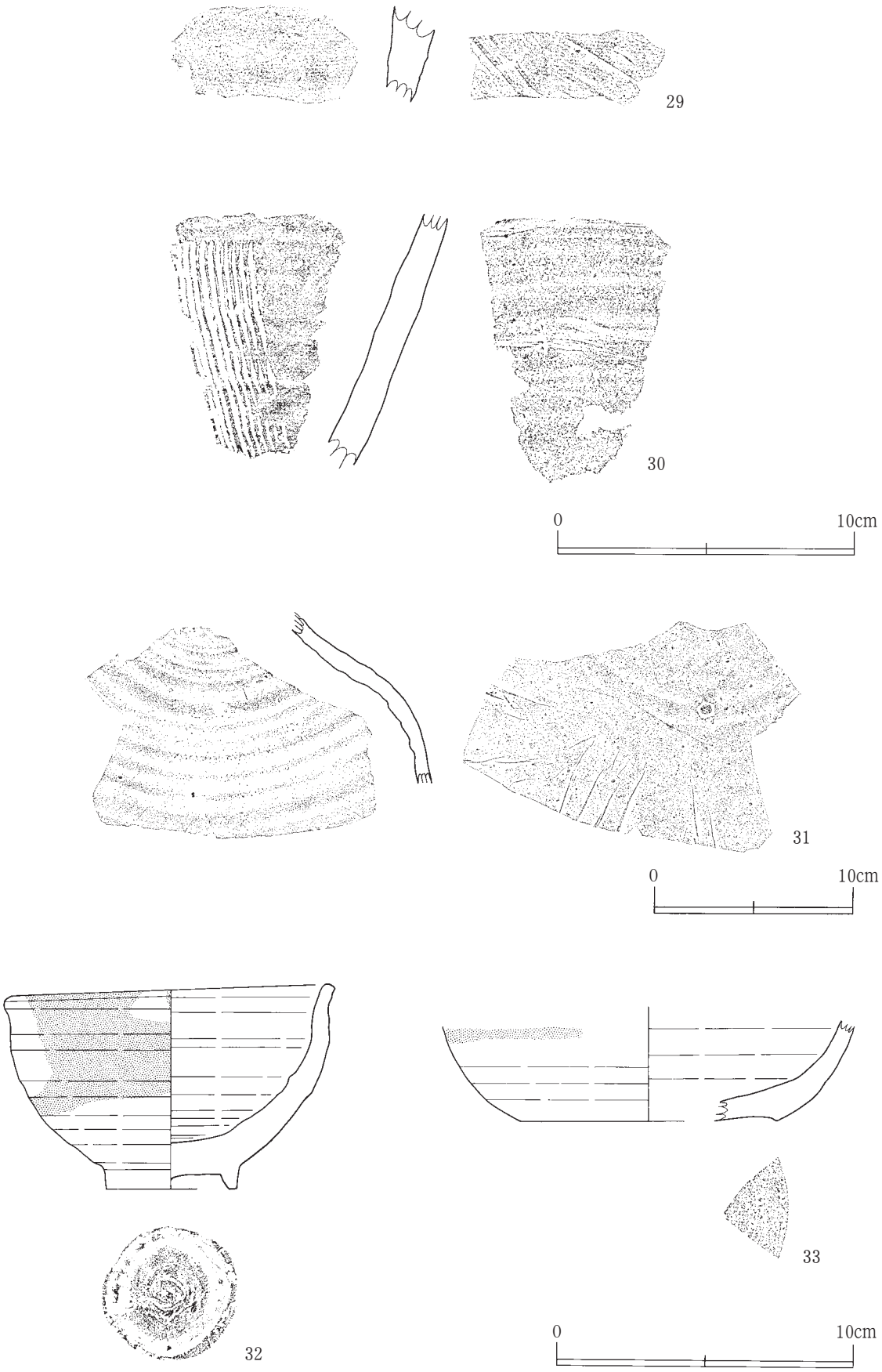
第56図37はＬＢ87グリッドの第Ⅰ層から出土した肥前陶器皿の底部から胴部にかけての破片である。成形はロクロで行われており、高台は削り出している。大きさは底径4.5cm、残存高1.9cmである。内面には灰釉が施されているが、残存部外面は無釉であり、内面には重ね焼きの際の砂目痕が認められる。

第56図36はＫＱ84グリッドの第Ⅲ層から出土した肥前陶器皿の底部の破片である。成形はロクロで行われており、高台は削り出している。大きさは底径4.5cm、残存高1.5cmである。全面に灰釉が施されており、内面には重ね焼きの際の砂目痕が認められる。

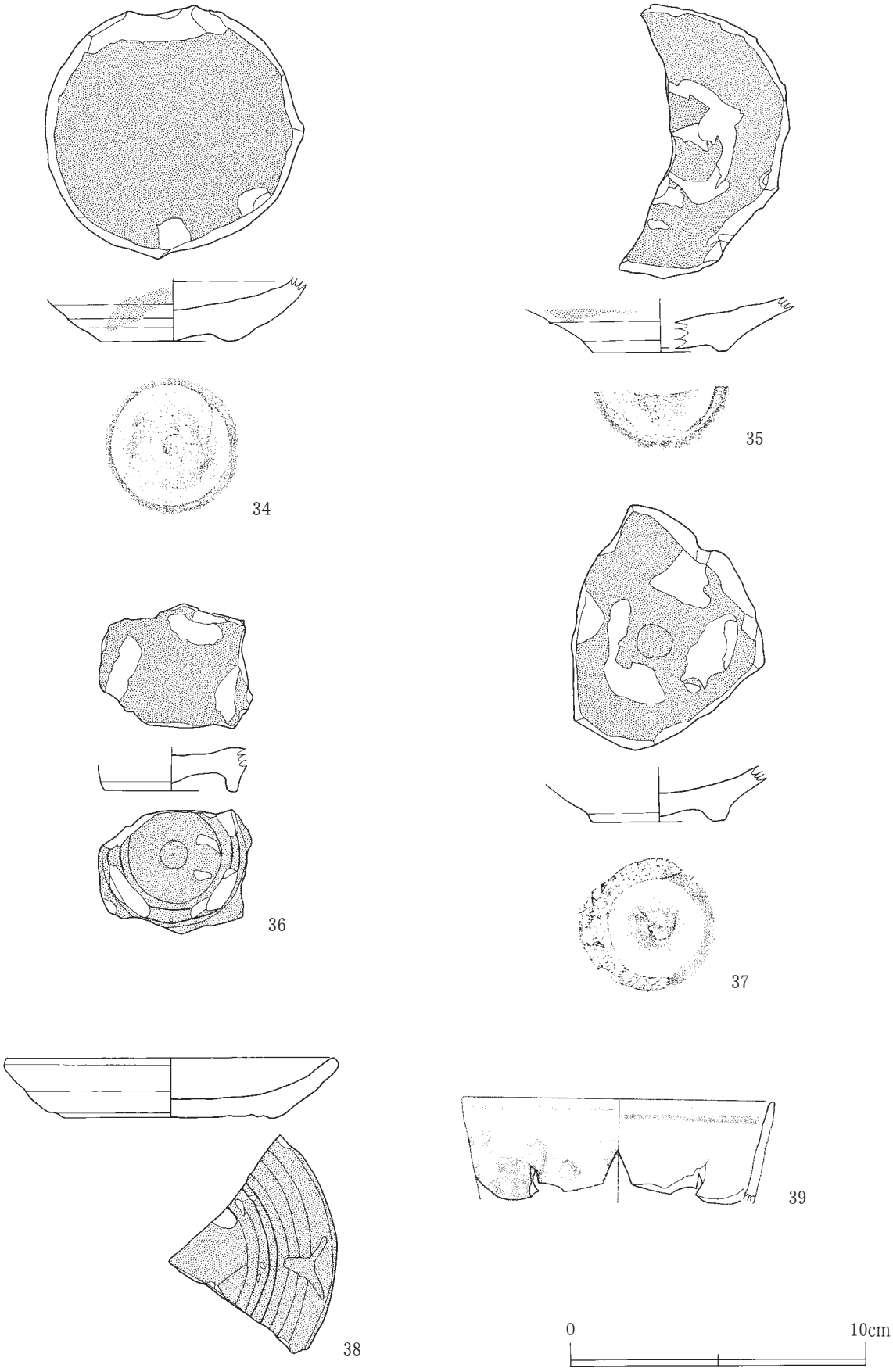
第55図33はＫＣ69グリッドの第Ⅲ層から出土した肥前陶器皿の胴部下半から底部にかけての破片である。成形はロクロで行われており、高台は浅く削り出している。大きさは底径8.6cm、残存高3.4cmであり、内面および外面の一部に鉄釉が施されている。

第56図38はＫＭ77グリッドの撹乱層から出土した志野陶器皿の口縁部から底部にかけての破片である。成形はロクロで行われており、高台は浅く削り出している。大きさは口径11.1cm、底径7.2cm、器高2.15cmであり、全面に長石釉が施されており、底面には重ね焼きの際の胎土目痕が認められる。

第56図39はＫＧ73グリッドの第Ⅲ層から出土した肥前磁器碗の口縁部から胴部にかけての破片である。大きさは口径10.6cm、残存高3.5cmである。外面には植物の染め付けが施されている。



第55図　遺構外出土遺物（３）



第56図　遺構外出土遺物（４）

７　Ｄ区の検出遺構と出土遺物

（１）竪穴建物跡

ＳＫＩ02（第58図、図版11－2）

《位置・確認状況》ＮＩ・ＮＪ164、ＮＩ・ＮＪ165グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で暗褐色土の広がりとして確認した。

《重複》ＳＫ06と重複する。新旧は本遺構の方が新しい。

《平面形・規模》平面形は隅丸方形である。規模は長軸（北東－南西）4.00m、短軸（北西－南東）3.17m、確認面からの深さ0.20mである。南西側に長軸（北西－南東）2.22m、短軸（北東－南西）0.68mの張り出しを持っている。

《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。

《堆積土》２層に分けられた。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

（２）土坑

ＳＫ01（第59図、図版11－3）

《位置・確認状況》ＮＪ・ＮＫ163グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で暗褐色土の広がりとして確認した。

《重複》なし。

《平面形・規模》平面形は円形である。規模は長軸（北西－南東）2.35m、短軸（北東－南西）2.03m、確認面からの深さ0.23mである。

《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。

《堆積土》１層である。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＫ06（第58図、図版11－4）

《位置・確認状況》ＮＩ・ＮＪ164、ＮＩ・ＮＪ165グリッドに位置する。ＳＫＩ02の底面で暗褐色土の広がりとして確認した。

《重複》ＳＫＩ02と重複する。新旧は本遺構の方が古い。

《平面形・規模》平面形は楕円形である。規模は長軸（北西－南東）2.35m、短軸（北東－南西）0.87m、確認面からの深さ0.24mである。

《壁・底面》壁の傾きはやや緩やかで、底面は平坦である。

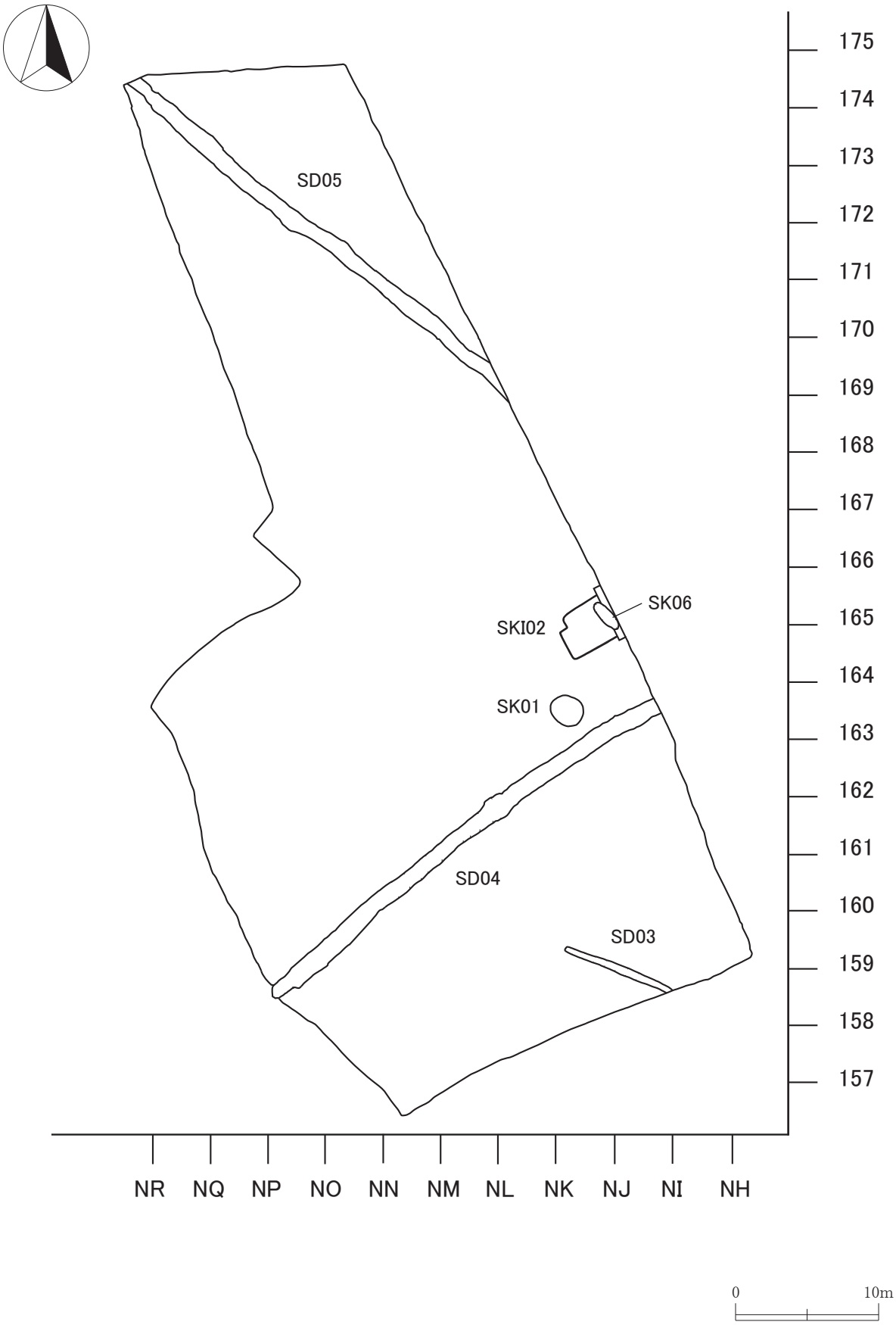
《堆積土》１層である。

《出土遺物》遺物は出土しなかった。

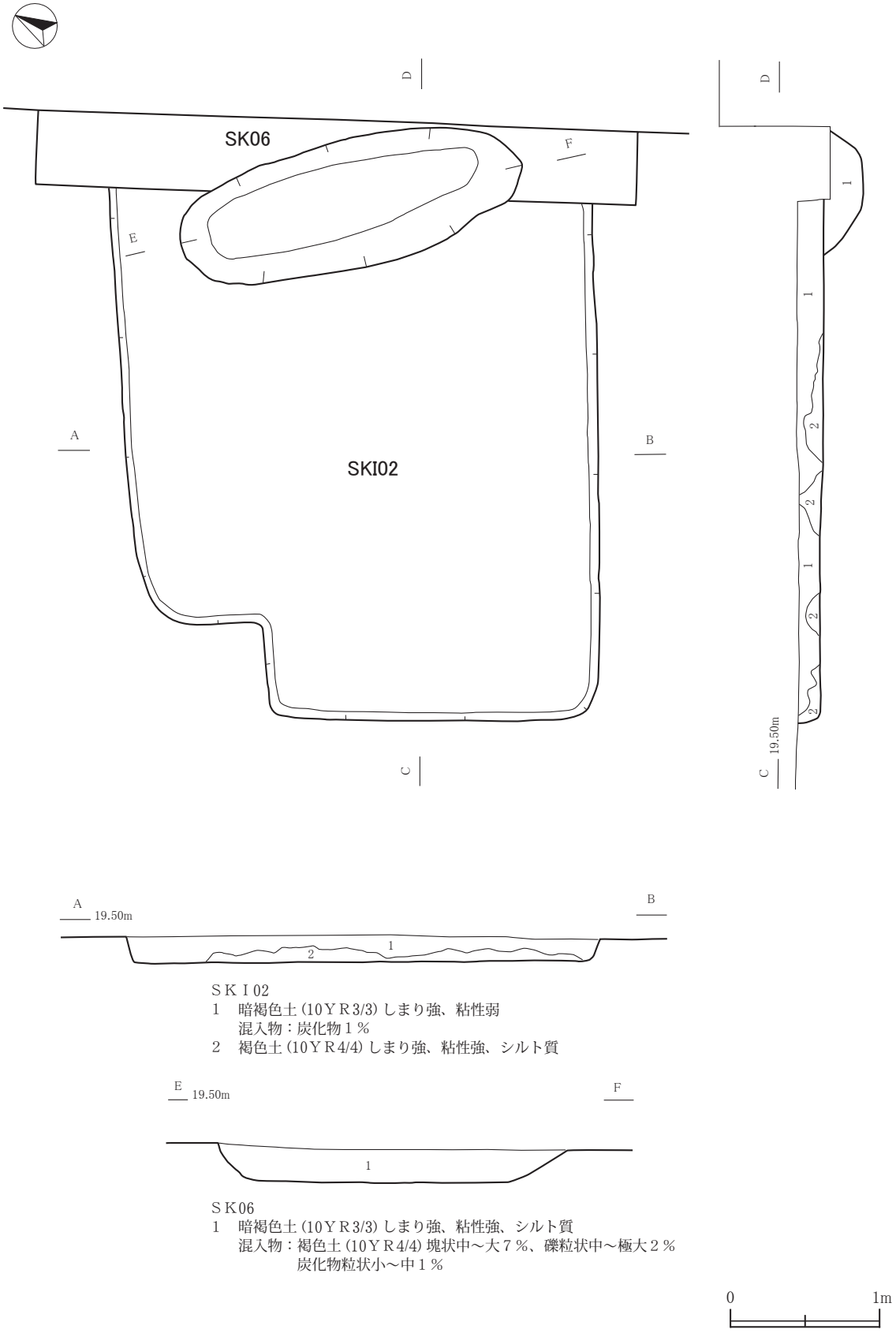
（３）溝跡

ＳＤ03（第59図、図版11－5）

《位置・確認状況》ＮＩ・ＮＪ158、ＮＩ・ＮＪ159グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で褐色土の筋と



第57図　Ｄ区遺構配置図

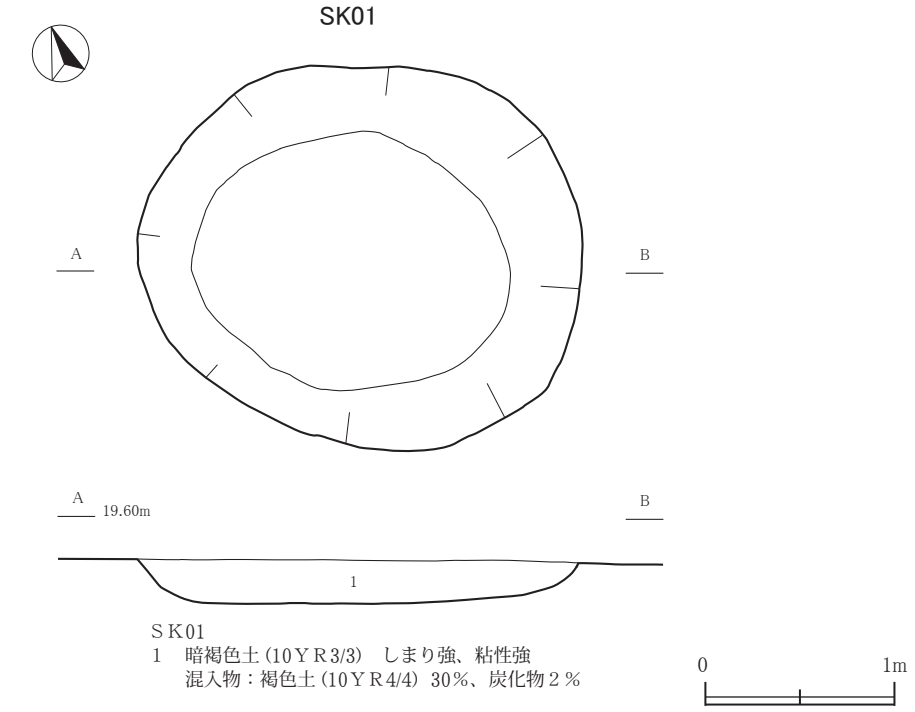


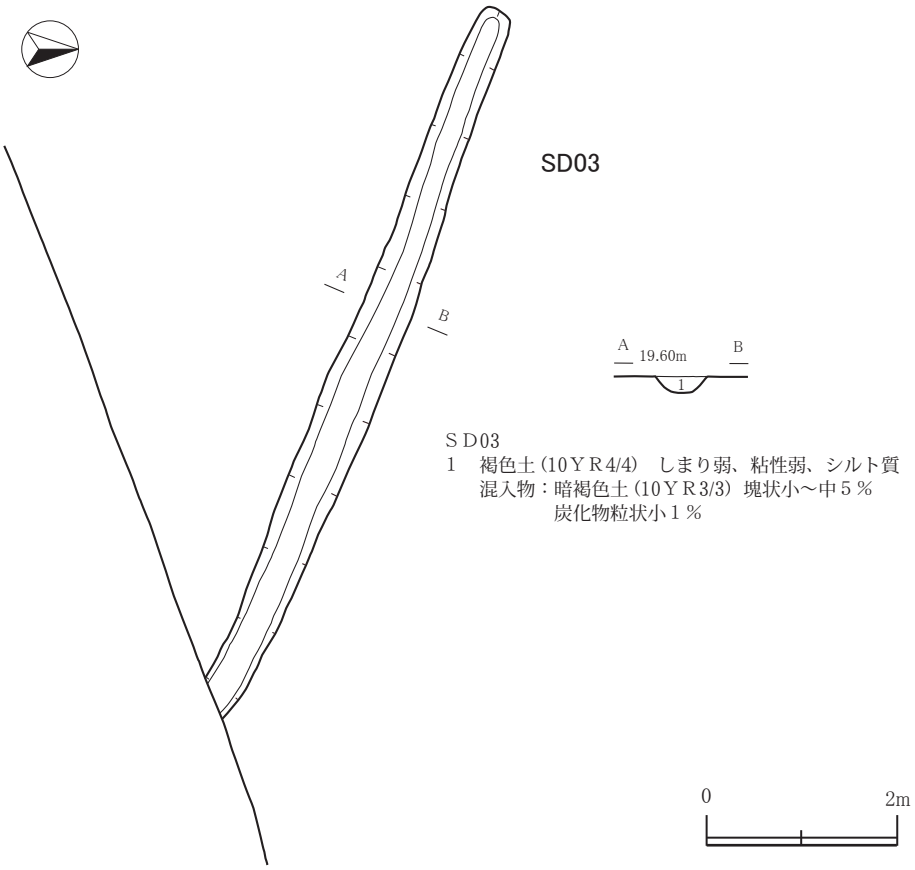
第58図　ＳＫＩ02、ＳＫ06

して確認した。
《重複》なし。
《規模》確認した範囲で長さ7.99m、幅0.36m～0.59m、確認面からの深さ0.16m～0.18mである。北西－南東方向に延びており、南東端は調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きは緩やかで、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

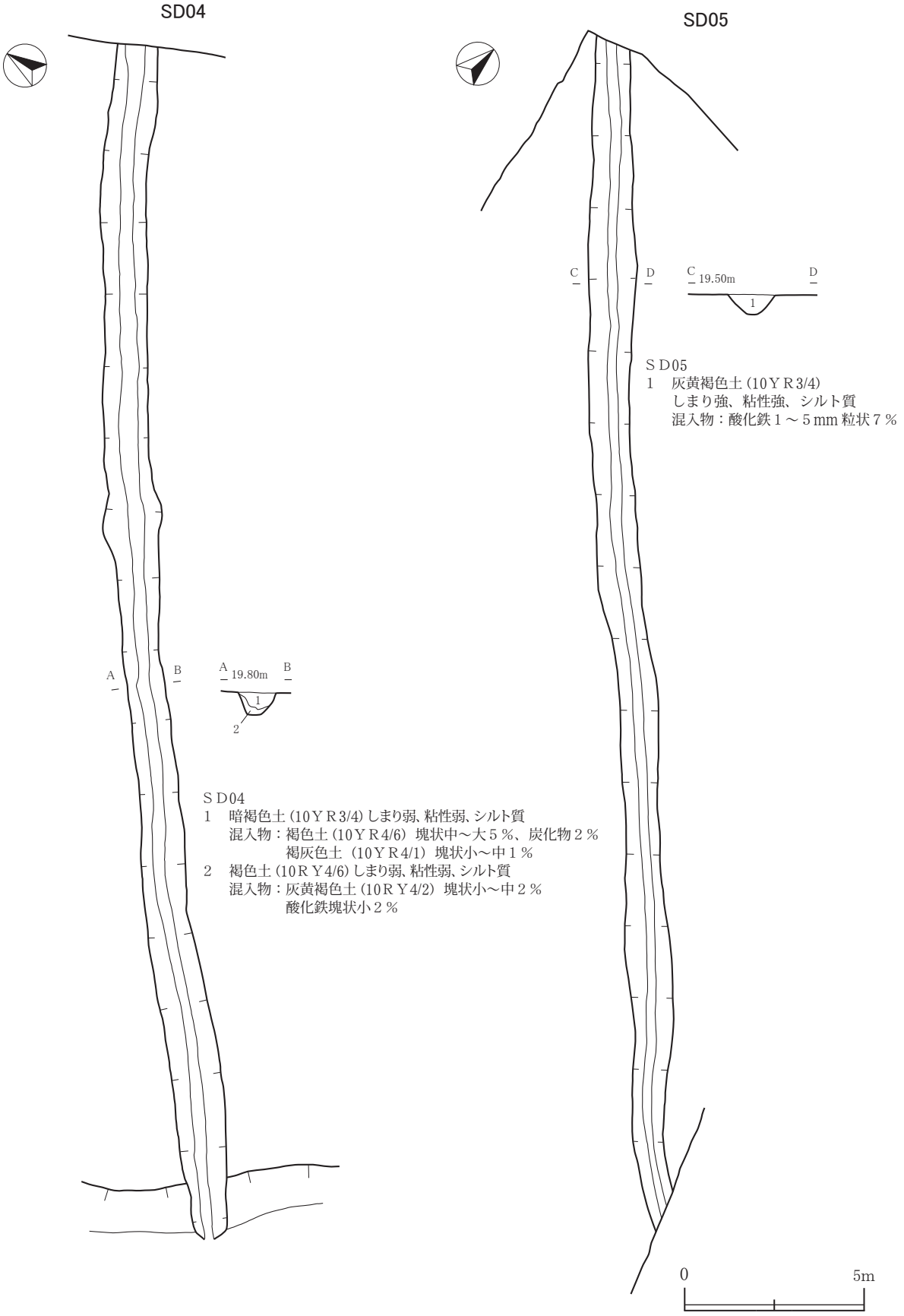
ＳＤ04（第60図、図版11－6）
《位置・確認状況》ＮＩ163、ＮＪ162･163、ＮＫ161・162、ＮＬ160・161、ＮＭ160・161、ＮＮ159・160、ＮＯ158・159グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で暗褐色土の筋として確認した。
《重複》なし。
《規模》確認した範囲で長さ33.4m、幅1.1m～1.6m、確認面からの深さ0.65mである。北東－南西方向に延びており、両端ともに調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きは急で、底面は平坦である。
《堆積土》２層に分けられた。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

ＳＤ05（第60図、図版11－7）
《位置・確認状況》ＮＬ169・170、ＮＭ169・170、ＮＮ170・171、ＮＯ171・172、ＮＰ172・173、ＮＱ173・174、ＮＲ174グリッドに位置する。第Ⅲ層上面で灰黄褐色土の筋として確認した。
《重複》なし。
《規模》確認した範囲で長さ33.4m、幅0.9m～1.4mである。確認面からの深さ0.55mである。北西－南東方向に延びており、両端ともに調査区外へ延伸している。
《壁・底面》壁の傾きはやや急で、底面は平坦である。
《堆積土》１層である。
《出土遺物》遺物は出土しなかった。

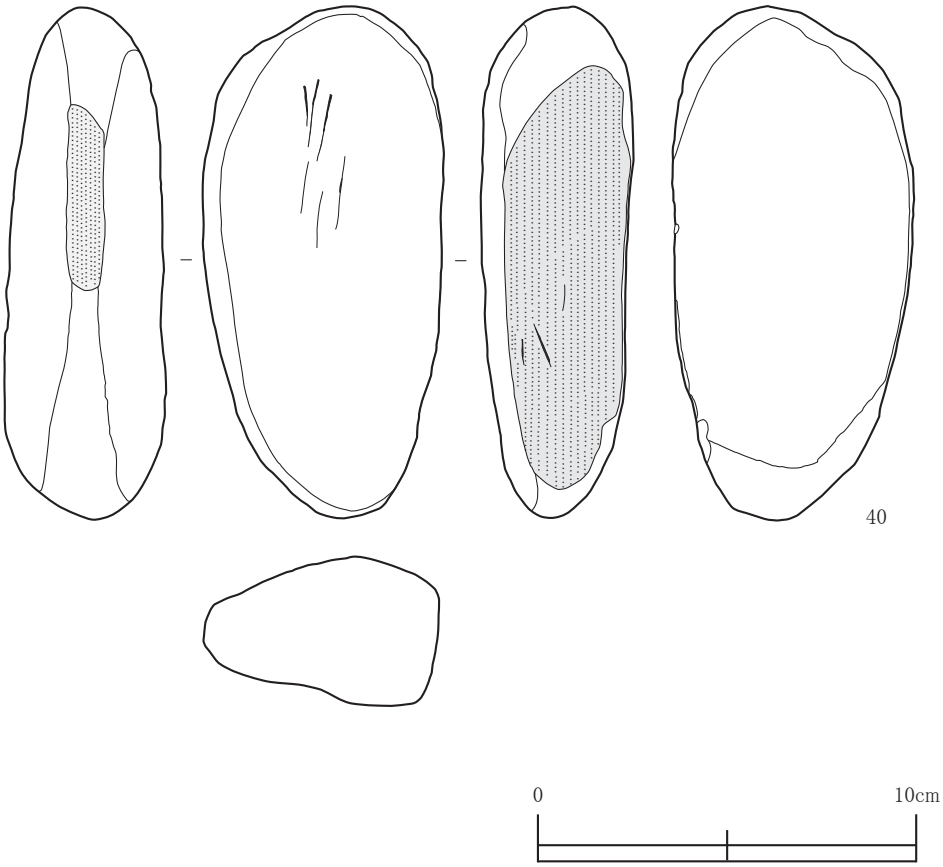




第59図　ＳＫ01、ＳＤ03


SD04
A
B
A 19.80m B
1
2
ＳＤ04
1　暗褐色土（10ＹＲ3/4）しまり弱、粘性弱、シルト質
混入物：褐色土（10ＹＲ4/6）塊状中～大５％、炭化物２％
褐灰色土（10ＹＲ4/1）塊状小～中１％
2　褐色土（10ＲＹ4/6）しまり弱、粘性弱、シルト質
混入物：灰黄褐色土（10ＲＹ4/2）塊状小～中２％
酸化鉄塊状小２％
SD05
C
D
C 19.50m D
1
ＳＤ05
1　灰黄褐色土（10ＹＲ3/4）
しまり強、粘性強、シルト質
混入物：酸化鉄１～５mm粒状７％
0
5m

第60図　ＳＤ04・05



第61図　遺構外出土遺物

８　Ｄ区の遺構外出土遺物

Ｄ区の遺構外からは石器１点が出土した。ここではその１点を掲載する。

（１）石器（第61図、図版14－40）

第61図40はＮＪ162グリッドの第Ⅲ層上面から出土した磨石である。楕円形の礫を素材として、その両側面を磨面としたもので、その大きさは長さ135mm、幅64mm、厚さ39mmである。

第４章　理化学的分析

第１節　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤茂・尾嵜大真・丹生越子・廣田正史・山形秀樹・小林紘一
Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・菊地有希子

１　はじめに

秋田県大仙市北楢岡字中野に位置する北楢岡中野遺跡のかまど状遺構および竪穴建物跡より検出された炭化材について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。なお、同じ試料を用いて樹種同定も行っている（樹種同定の報告参照）。

２　試料と方法

測定試料の情報、調製データは第16表のとおりである。

試料は、かまど状遺構であるＳＯ537底面の炭化物層から採取された試料No. １（PLD-17736）、同じくかまど状遺構であるＳＯ614床面直上の炭化物層から採取された試料No. ２（PLD-17737）、竪穴建物跡であるＳＫＩ638底面の炭化物層から採取された試料No. ３（PLD-17738）の3点である。試料No. １は樹皮に近い部分、試料No. ２とNo. ３は最外年輪以外の部位不明の試料である。試料No. １とNo. ２の炭化材は燃料材であったと考えられている。また試料No. ３の炭化材は、敷物の可能性が考えられていたが、同定の結果はスギであり、用途は不明である。今回の試料が採取されたいずれの遺構も土器などの出土遺物はなく、遺構の年代は不明である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、^{14}C年代、暦年代を算出した。

第16表　測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-17736	試料No.1 遺構：SO537（かまど状遺構） 層位：底面の炭化物層	試料の種類：炭化材（ケヤキ） 試料の性状：最外以外樹皮に近い部分 採取位置・外側-5年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-17737	試料No.2 遺構：SO614（かまど状遺構） 層位：底面直上の炭化物層	試料の種類：炭化材（ヤナギ属） 試料の性状：最外以外部位不明 採取位置：外側-2年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)
PLD-17738	試料No.3 遺構：SKI638（竪穴建物跡） 層位：底面の炭化物層	試料の種類：炭化材（スギ） 試料の性状：最外以外部位不明 採取位置：外側-2年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)

３　結果

第17表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}C$）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した^{14}C年代を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。^{14}C年代（yrBP）の算出には、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の^{14}C年代がその^{14}C年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、及び半減期の違い（^{14}Cの半減期5730±40年）を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C年代の暦年較正にはOxCal4.1（較正曲線データ:INTCAL09）を使用した。なお、1σ暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は^{14}C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

第17表　放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}C$（‰）	暦年較正用年代（yrBP±1σ）	^{14}C 年代（yrBP±1σ）	^{14}C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-17736 試料No.1	−28.74±0.14	437±20	435±20	1436AD(68.2%)1455AD	1429AD(95.4%)1471AD
PLD-17737 試料No.2	−25.39±0.15	355±20	355±20	1474AD(40.0%)1521AD 1577AD(2.8%)1582AD 1591AD(25.4%)1621AD	1458AD(47.3%)1527AD 1556AD(48.1%)1633AD
PLD-17738 試料No.3	−22.06±0.14	445±20	445±20	1435AD(68.2%)1451AD	1425AD(95.4%)1466AD

４　考察

各試料の暦年較正結果のうち、2σ暦年代範囲（確率95.4%）に着目して結果を整理する。

かまど状遺構SO537の試料No.1（PLD-17736）は、1429-1471 cal AD(95.4%)の暦年代範囲を示した。これは15世紀代で、中世（室町時代）に相当する。かまど状遺構SO614の試料No.2（PLD-17737）は、1458-1527 cal AD(47.3%)および1556-1633 cal AD(48.1%)の暦年代範囲を示した。これは15世紀中頃～17世紀前半で、中世（室町時代）～江戸時代初期に相当する。竪穴建物跡SKI638の試料No.3（PLD-17738）は、1425-1466 cal AD(95.4%)の暦年代範囲を示した。これは15世紀代で、中世（室町時代）に相当する。

ただし木材の場合、最外年輪部分を測定すると枯死・伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると最外年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料のうち試料No. ２とNo. ３については、最外年輪以外の部位不明の炭化材であり、古木効果の影響、すなわち木材が実際に枯死・伐採された年代よりも古い年代が得られている可能性を考慮する必要がある。したがって、それぞれ15世紀中頃～ 17世紀前半あるいはそれよりもやや新しい時期、15世紀代あるいはそれよりもやや新しい時期に枯死・伐採された木材であったと考えられる。試料No. １については、樹皮に近い部分の炭化材であり、得られた年代は木材が実際に枯死・伐採された年代に極めて近い年代と考えられる。

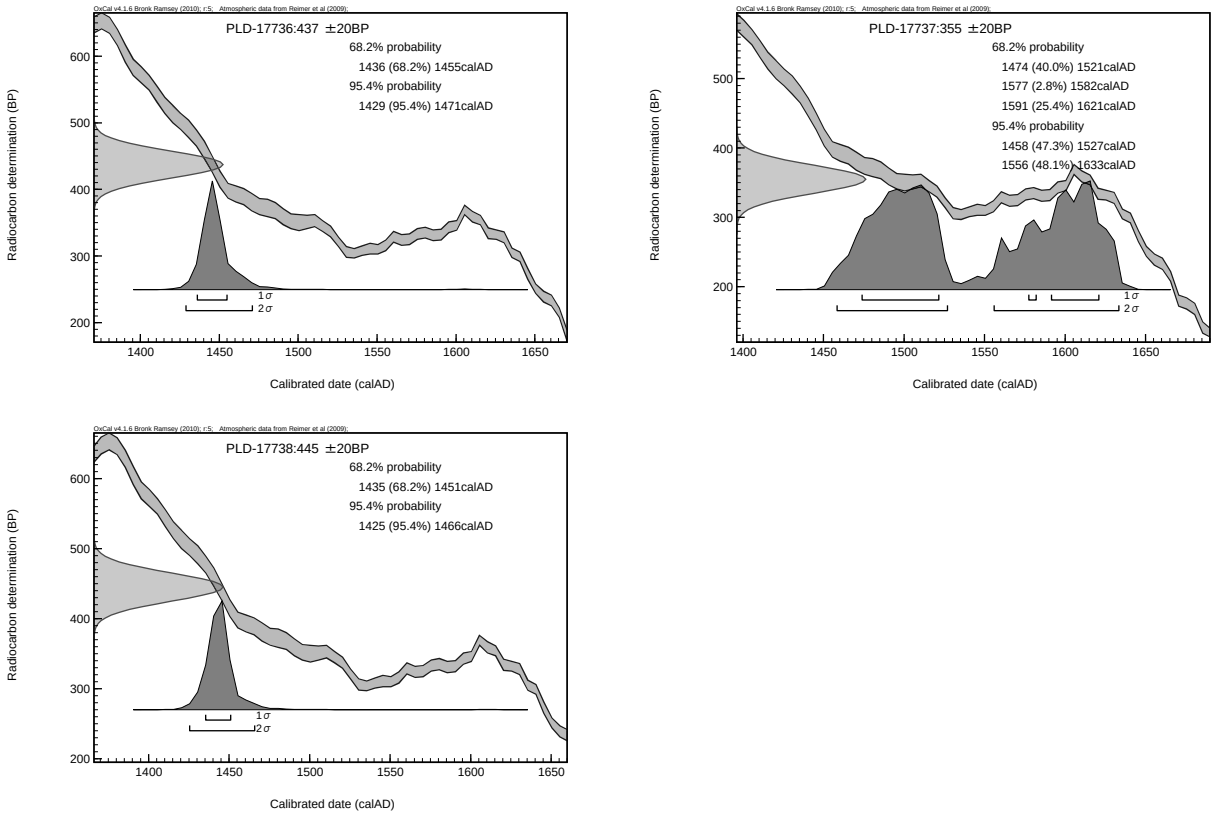
参考文献

Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425-430.

Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355-363.

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎．日本先史時代の^{14}C年代編集委員会編「日本先史時代の^{14}C年代」：3-20，日本第四紀学会．

Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Burr, G.S., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., McCormac, F.G., Manning, S.W., Reimer, R.W., Richards, D.A., Southon, J.R., Talamo, S., Turney, C.S.M., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer C.E. (2009) IntCal09 and Marine09 Radiocarbon Age Calibration Curves, 0–50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 51, 1111-1150.



第62図　暦年較正結果

第２節　北楢岡中野遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

１　はじめに

北楢岡中野遺跡は大仙市北楢岡に所在する、縄文時代から近世にかけての複合遺跡である。本遺跡ではかまど状遺構や竪穴建物跡などが検出され、遺構内より炭化材が出土した。ここでは時期不明のかまど状遺構と竪穴建物跡で出土した炭化材の樹種同定を行った。また、一部の試料では、同一試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている（放射性炭素年代測定の項参照）。

２　試料と方法

試料は、かまど状遺構であるSO537、SO542、SO594、SO614で各１点、竪穴建物跡であるSKI638で１点の、計５点の出土炭化材である。遺構の時期は、放射性炭素年代測定の結果、ＳＯ537とＳＫＩ638は中世、SO614は中世～江戸時代初期の年代値が得られた（放射性炭素年代測定の項参照）。またSO542とSO594の年代は、時期の明らかな共伴遺物などがなく、不明である。確認できる試料については、残存半径と残存年輪数の計測を行った。残存半径は、試料で残存している半径を直接計測し、残存年輪数については残存半径内の年輪数を計測した。

炭化材の樹種同定は、横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）についてカミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台に両面テープで貼り付けた。その後乾燥させ、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製　VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行った。なお、同定試料の残りは秋田県埋蔵文化財センターに保管されている。

３　結果

第18表　北楢岡中野遺跡出土炭化材の樹種同定結果

樹種/遺構	SO537	SO542	SO594	SO614	SKI638	合計
スギ					1	1
ヤナギ属				1		1
ケヤキ	1					1
タケ亜科		1				1
イネ科			1			1
合計	1	1	1	1	1	5

同定の結果、針葉樹のスギ１分類群と、広葉樹のヤナギ属とケヤキの２分類群、単子葉のタケ亜科とイネ科の２分類群の、計５分類群が産出した。いずれの試料も各１点の産出であった。年輪数の計測結果では、計測の行えた３点のうち試料No. １のケヤキは残存半径1.2cm内に28年輪がみられ、試料No. ２のヤナギ属では0.2cm内に２年輪がみられた。また試料No. 3のスギは0.8cm内に７年輪みられた。同定結果を第18表に、一覧を付表1に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、各樹種の走査型電子顕微鏡写真を示す。

(1) スギ　*Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don　スギ科　第63図　1a-1c（No.3）

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、２～12列となる。分野壁孔は大型のスギ型で、普通１分野に２個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

(2) ヤナギ属　*Salix*　ヤナギ科　第63図　2a-2c（No.2）

小型の道管が単独ないし２～３個複合し、やや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、道管放射組織間壁孔は明瞭な円形となる。放射組織は上下端１～３列が直立する異性で、単列となる。

ヤナギ属にはタチヤナギやバッコヤナギなどがあり、水湿に富んだ日当たりのよい土地を好む落葉小高木の広葉樹である。材は軽軟で靭性が強く、切削加工などは容易である。

(3) ケヤキ　*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino　ニレ科　第63図　3a-3c（No.1）

年輪の始めに大型の道管が1列並び、晩材部では径を急に減じた道管が多数複合し、接線～斜線方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1～2列が方形となる異性で、幅２～８列となる。

ケヤキは温帯から暖帯にかけての肥沃な谷間などに好んで生育する落葉高木の広葉樹である。材はやや重くて硬いが、切削などの加工はそれほど困難でない。

(4) タケ亜科　Subfam. *Bambusoideae*　イネ科　第63図　4a（No.5）

向軸側に原生木部、その左右の２個の後生木部と背軸側の篩部で構成される維管束が散在する単子葉植物の稈である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は厚壁であり、向・背軸部に関わりなく厚くなる。

タケ亜科はいわゆるタケ・ササの仲間で、日本には12属ある。

(5) イネ科　Gramineae　第63図　5a（No.4）

向軸側に原生木部、その左右の２個の後生木部と背軸側の篩部で構成される維管束が散在する単子葉植物の稈である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は比較的薄い。髄は中空で、基本組織の内部にも維管束がみられる。

イネ科はタケ亜科やキビ亜科など、７亜科がみられる単子葉植物であるが、対象標本が少なく同定に至っていない。

４　考察

同定の結果、かまど状遺構であるSO537でケヤキ、SO542でタケ亜科、SO594でイネ科、SO614でヤナギ属が各１点産出し、竪穴建物跡であるSKI638ではスギが１点産出した。かまど状遺構で産出した試料は、燃料材の残渣である可能性があり、竪穴建物跡で産出した試料は、焼けた建築部材や木製品、燃料材の残渣などの可能性が考えられる。しかしいずれの試料も微破片となり、形状からは試料の用途は確認できなかった。

竪穴建物跡で産出したスギは、木理通直で素直な材であり、加工性が良い。そのため建築部材として多く利用されている樹種である。現在の天然分布でも秋田県はスギが多く生育する地域であり（平井，1996）、当時の遺跡周辺にも生育していた可能性がある。

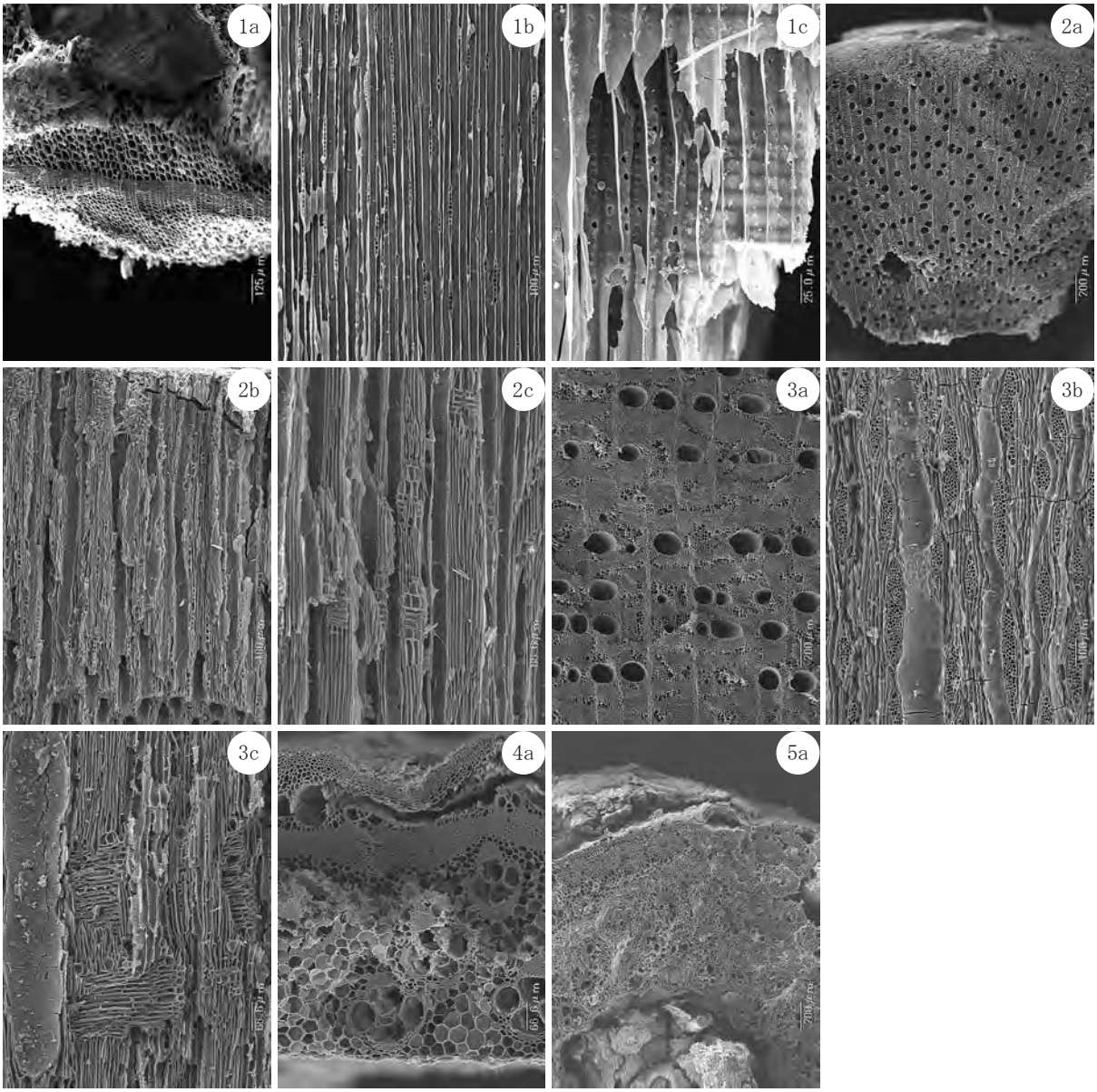
かまど状遺構で出土したヤナギ属は軽軟な樹種で燃焼性が高く、現在でも薪炭材として利用されている。またケヤキも薪炭材として利用されている。タケ亜科とイネ科は、燃料材であったと考えると、焚き付けの際の着火材として利用されていた可能性が高い。

引用文献

平井信二（1996）木の大百科－解説編－．642p，朝倉書房．

第19表　北楢岡中野遺跡出土炭化材の樹種同定

試料No.	出土遺構	層位	樹種	残存半径(cm)	残存年輪数	年代測定番号
1	SO537	7層	ケヤキ	1.2	28	PLD－17736
2	SO614	3層	ヤナギ属	0.2	2	PLD－17737
3	SKI638		スギ	0.8	7	PLD－17738
4	SO594	2層	イネ科	-	-	-
5	SO542	2層	タケ亜科	-	-	-



第63図　北楢岡中野遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1ａ－1c. アサダー(No.2－1)　2a－2c. ブナ属(No.1)　3a－3c. クワ属（No.2－2）

a：横断面・b:接線断面・c:放射断面

第５章　総括

北楢岡中野遺跡の発掘調査は一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に伴い、平成22年度と平成23年度の２か年にわたって実施した。調査対象地区は国道13号の東部と西部であり、調査はＡ区・Ｂ区・Ｃ区・Ｄ区の４区に分けて（第４図）行った。調査の結果、掘立柱建物跡１棟、竪穴建物跡３棟、かまど状遺構33基、焼土遺構２基、井戸跡20基、土坑24基、溝跡18条、柱穴様ピット365基の計466遺構が検出され、縄文時代、弥生時代、平安時代、中世、近世などの遺物が出土した。なお、縄文時代と弥生時代については遺構が検出されなかったため、当該期における具体的な様子は不明である。

１　遺構について

掘立柱建物跡はＢ区中央部で検出されたＳＢ625の１棟のみである。時期はかまど状遺構のＳＯ565と重複し、その新旧がＳＯ565より新しいことから中世以降と推定される。

竪穴建物跡はＢ区中央部で検出されたＳＫＩ633・638の２棟と、Ｄ区で検出されたＳＫＩ02の１棟である。Ｂ区の竪穴建物跡はいずれも平面形が隅丸方形で、その一辺に舌状を呈する出入口が設けられており、床面には６個の柱穴が認められた。Ｄ区の竪穴建物跡も平面形は隅丸方形で、その西壁に張り出し部が設けられていた。しかし、ＳＫＩ633・638のような出入口は確認できず、柱穴も検出されなかった。これらの時期については、ＳＫＩ638から採取した炭化物の放射性炭素年代測定により、15世紀代という結果が得られており、この年代に構築された可能性を示している。また、本遺構の用途は特定できる資料が乏しいが、ＳＫＩ633の床面から炭化した米粒が少量出土したことから、倉庫として使われていたものと推察される。

かまど状遺構はＢ区南部で２基、Ｂ区中央部で31基検出された。近年の土取りや耕作によって上部が削平されており、残存状況はあまり良くなかった。これらの構造は平坦な生活面を掘って、焚口部、燃焼部、煙道部で構成されており、燃焼部が地下に造られ、そこから煙道が地上に抜ける構造になっている。平面形は不整形であり、燃焼部を中心とした煙道部と焚口部が、ほぼ直線のものが多い。また、被熱によって硬化した面が底面及び壁面に認められないことから、高熱もしくは長期間の使用ではなかったことが想定される。遺構の周囲には柱穴が認められないことから上屋はなかったものと考えられる。遺構の中からは遺物が出土しないため、どのような用途であったのかは定かではないが、狭い微高地に密集して造られているのが特徴的である。これらの時期については、放射性炭素年代測定の結果が、15世紀代と15世紀中頃～17世紀初期の年代を示しており、初源を15世紀、下限を17世紀初頭と考えたい。このかまど状遺構は、大仙市神岡地区に多く見られる遺構であり、同地区では小沢遺跡（岳下遺跡）・茨野遺跡・薬師遺跡・沖田Ⅰ遺跡・沖田Ⅱ遺跡から見つかっている。この他、秋田県内でかまど状遺構が検出された遺跡は、鹿角市乳牛平遺跡・妻の神Ⅲ遺跡・当麻館跡・石鳥谷館跡、大館市塚の下遺跡・餌釣遺跡、能代市竹生遺跡・竜毛沢館跡、五城目町開防遺跡、男鹿市脇本遺跡、秋田市下夕野遺跡・古野遺跡、仙北市月見堂跡、大仙市四十二館跡などがあげられる。

井戸跡はＢ区南部で１基、Ｂ区中央部で14基、Ｃ区で５基検出された。すべて素堀の井戸である。時期はＢ区南部の井戸跡（ＳＥ599）とＣ区の井戸跡５基のうち４基（ＳＥ153・154・155・261）は、出土した遺物から近世（江戸時代）と考えられる。それ以外の井戸跡については遺物が出土しなかっ

たため明確にできなかったが、Ｂ区中央部の井戸跡は堆積土にかまど状遺構と同様な焼土が混入するものや、周辺から出土した遺物等から中世で、Ｃ区の井戸跡は近世と推測される。

土坑はＢ区南部で２基、Ｂ区中央部で17基、Ｃ区で３基、Ｄ区で２基検出された。時期は一部の土坑や周囲の出土遺物から、中世および近世のものと考えられる。

溝跡はＡ区で４条、Ｂ区で３条、Ｃ区で８条、Ｄ区で３条検出した。このうちＡ区のＳＤ01・02・03は出土遺物から近世のものと考えられる。他の溝跡は出土遺物がなく、その時期は明確にできなかった。

柱穴様ピットはＢ区で92基・Ｃ区で273基検出された。大半は掘立柱建物跡の柱穴と思われるが、これらを建物跡に復原するまでには至らなかった。時期は、遺物が出土したＣ区のＳＫＰ115・120・122・156・160・163・166・176・290は平安時代、ＳＫＰ133・152・175・219・412は近世のものと考えられる。それ以外の柱穴様ピットについては出土遺物がなく、その時期は明確にできなかったが、平安時代以降と推測される。

２　遺物について

遺物は遺構内外から、縄文時代の土器と石器、弥生時代の土器、平安時代の土師器・須恵器、中世の陶磁器、江戸時代の陶磁器・銭貨（寛永通寶）などが出土した。出土遺物で最も多かったのは平安時代のもので、次いで近世（江戸時代）、縄文時代、中世、弥生時代の順である。平安時代の遺物は土師器坏・甕が多く、須恵器は少なかった。出土した須恵器の器種は甕である。縄文時代の土器は後期のもので、弥生時代の土器は中期から後期頃、平安時代の土師器・須恵器は９世紀後半、中世の陶磁器は珠洲系陶器の擂鉢や甕、瀬戸・美濃産の灰釉陶器の皿等であり、その時期は前者が13世紀～14世紀、後者が16世紀である。近世（江戸時代）の陶磁器は、肥前の陶器皿（唐津）、肥前の染付碗・皿、国産の青磁皿、越前の擂鉢などで、時期は17世紀初頭～ 17世紀前半である。このほか中世以降と思われる砥石が出土している。

以上、今回の調査で本遺跡は、縄文時代後期、平安時代、中世（鎌倉時代・室町時代）、近世（江戸時代）の複合遺跡であることが判明した。特に中世集落の様子を知る上で、貴重な資料を得ることができた。

引用・参考文献

秋田県神岡町教育委員会　『小沢遺跡発掘調査報告書』　神岡町文化財調査報告書 1990（平成２）年

秋田県神岡町教育委員会　『茨野遺跡－下夕野地区県営担い手育成基盤整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　神岡町文化財調査報告書 2004（平成16）年

秋田県教育委員会　『薬師遺跡－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　秋田県文化財調査報告書第388集 2005（平成17）年

秋田県教育委員会　『沖田遺跡・沖田Ⅱ遺跡－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－』　秋田県文化財調査報告書第443集 2009（平成21）年

秋田県大仙市教育委員会　『沖田Ⅰ遺跡・沖田Ⅱ遺跡　農地集積加速化基盤整備事業神岡西部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』　大仙市文化財調査報告書第13集 2011（平成23）年

遺跡遠景上空から（真上）：1987年国土地理院撮影

図版2

1　遺跡遠景神宮寺岳から（南東→）

2　遺跡遠景上空から（北東→）

1　Ａ区　調査前の様子（北西→）

2　Ａ区　調査前の様子（南西→）

3　Ａ区　調査後の様子（北西→）

4　Ａ区　調査後の様子（南西→）

5　Ａ区　ＳＤ01（北東→）

6　Ａ区　ＳＤ02（北→）

7　Ａ区　ＳＤ04（南西→）

図版4

1　Ｂ区　調査前の様子（南東→）

2　Ｂ区　調査前の様子（北西→）

3　Ｂ区　中央部調査前の様子（北西→）

4　Ｂ区　北部調査後の様子（南東→）

5　Ｂ区　中央部調査後の様子（北西→）

6　Ｂ区　ＳＢ625（北西→）

7　Ｂ区　ＳＫＩ633（北東→）

8　Ｂ区　ＳＫＩ638（南東→）

1　B区　SO537(北東→)

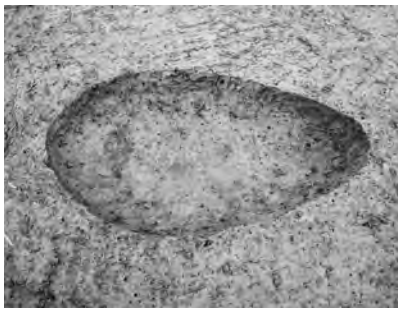
2　B区　SO538(北東→)

3　B区　SO541(北西→)

4　B区　SO542(北西→)

5　B区　SO547(南西→)

6　B区　SO548(北西→)


7　B区　SO549(南東→)

8　B区　SO562(北→)

9　B区　SO565(北東→)

10　B区　SO587(南→)

11　B区　SO594(東→)

12　B区　SO595(南→)

13　B区　SO601(南東→)

14　B区　SO603(南西→)

15　B区　SO604(北東→)

図版6

1　B区　ＳＯ606(南→)

2　B区　ＳＯ607(南→)

3　B区　ＳＯ608(南東→)

4　B区　ＳＯ610(東→)

5　B区　ＳＯ611(北西→)

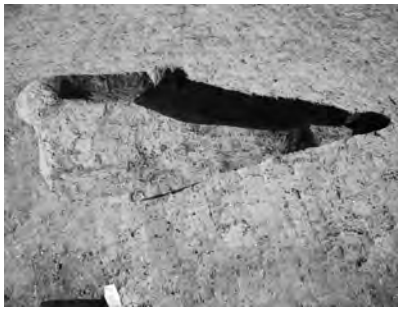
6　B区　ＳＯ612(東→)

7　B区　ＳＯ613(南→)

8　B区　ＳＯ614(西→)

9　B区　ＳＯ618(南東→)

10　B区　ＳＯ620(南東→)


11　B区　ＳＯ621(南東→)

12　B区　ＳＯ622(南東→)

13　B区　ＳＯ626(南東→)

14　B区　ＳＯ637(南西→)

15　B区　ＳＯ644(東→)

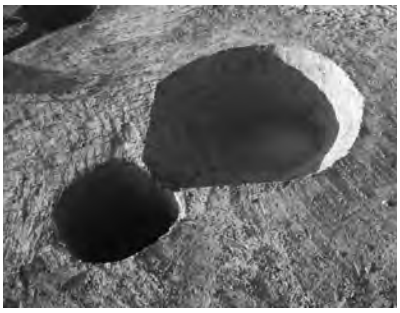
1　B区　SN609(南西→)

2　B区　SE546(北西→)

3　B区　SE577(南→)

4　B区　SE586(南西→)

5　B区　SE599(南東→)


6　B区　SE600、SK588(南東→)

7　B区　SE617(南→)

8　B区　SE624(南西→)

9　B区　SE631(南→)

10　B区　SE634(南西→)

11　B区　SE636(南→)

12　B区　SE639(北南→)

13　B区　SE645、SK627(南西→)

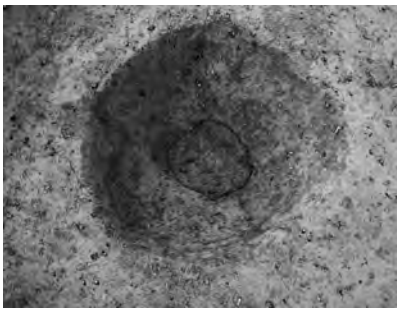
14　B区　SE660(南東→)

15　B区　SE701(西→)

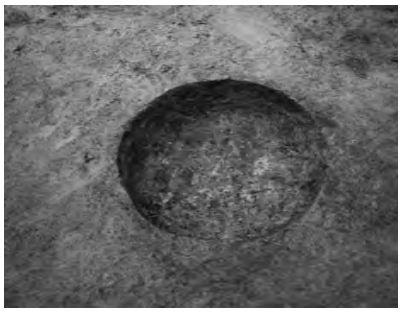
図版8

1　Ｂ区　ＳＫ551(北西→)

2　Ｂ区　ＳＫ553(南→)

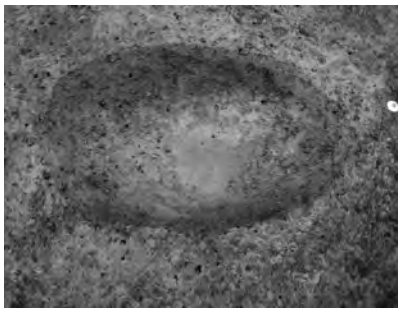

3　Ｂ区　ＳＫ561(南東→)

4　Ｂ区　ＳＫ589(南→)


5　Ｂ区　ＳＫ597(南西→)

6　Ｂ区　ＳＫ598(南→)

7　Ｂ区　ＳＫ605(南東→)


8　Ｂ区　ＳＫ615(南西→)

9　Ｂ区　ＳＫ616(南西→)

10　Ｂ区　ＳＫ619(南→)

11　Ｂ区　ＳＫ628(北西→)

12　Ｂ区　ＳＫ629(北西→)

13　Ｂ区　ＳＫ630(北西→)

14　Ｂ区　ＳＫ632(北東→)

15　Ｂ区　ＳＫ642(東→)

1　Ｃ区　調査前の様子（南東→）

2　Ｃ区　調査前の様子（北西→）

3　Ｃ区　調査後の様子（南東→）

4　Ｃ区　調査後の様子（北西→）

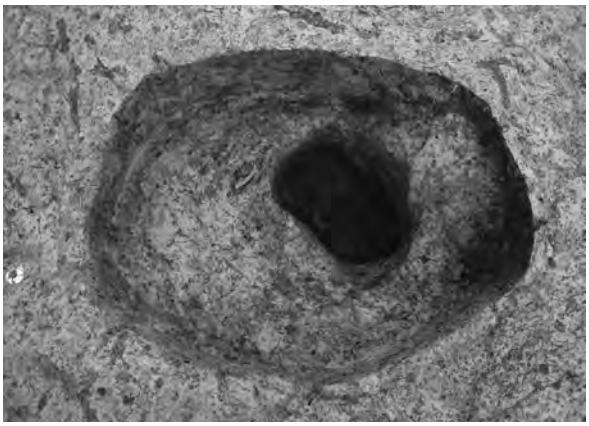
5　Ｃ区　ＳＥ104（南→）

6　Ｃ区　ＳＥ153（南→）

7　Ｃ区　ＳＥ154（東→）

8　Ｃ区　ＳＥ261（南→）

1　C区　ＳＫ147(南→)



2　C区　ＳＫ488(南→)

3　C区　ＳＤ101(南西→)

4　C区　ＳＤ105(西→)

5　C区　ＳＤ106(南→)

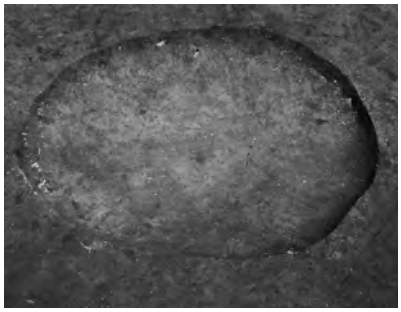
6　C区　ＳＤ267(北西→)

7　C区　ＳＤ351(東→)

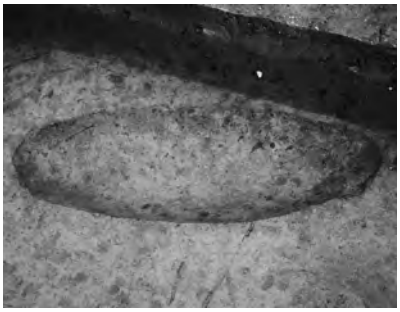
8　C区　ＳＤ352・363(南西→)

1　Ｄ区全景　調査後の様子（南→）

2　Ｄ区　ＳＫＩ02（南西→）



3　Ｄ区　ＳＫ01（南東→）



4　Ｄ区　ＳＫ06（南西→）

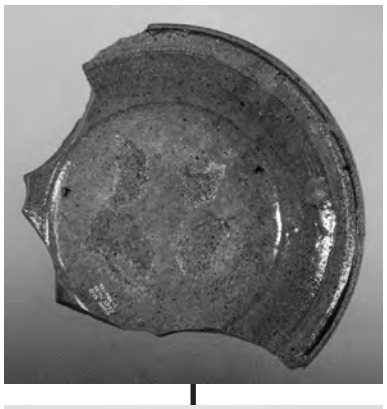
5　Ｄ区　ＳＤ03（北西→）

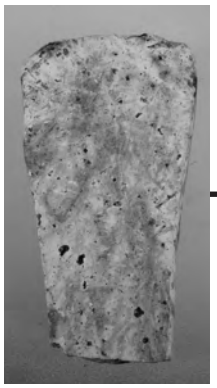
6　Ｄ区　ＳＤ04（北東→）

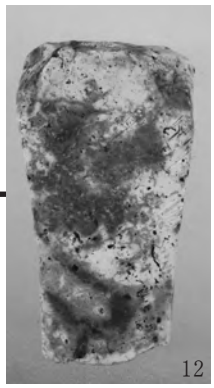
7　Ｄ区　ＳＤ05（北西→）

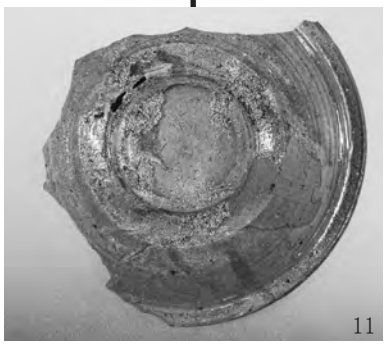
図版12

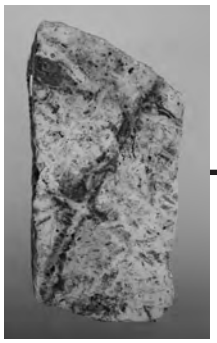
出土遺物

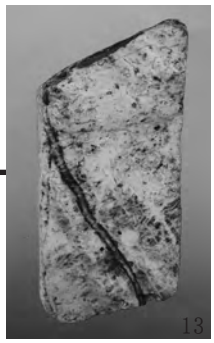




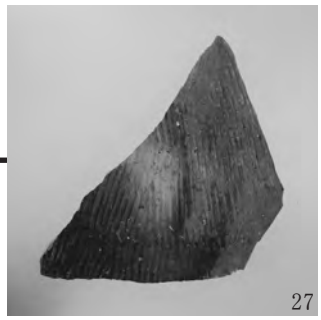


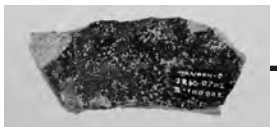


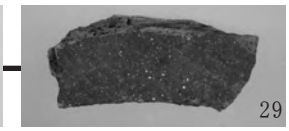


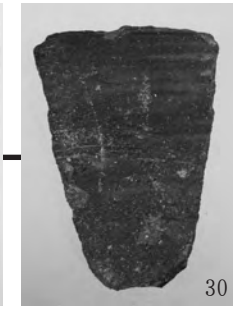


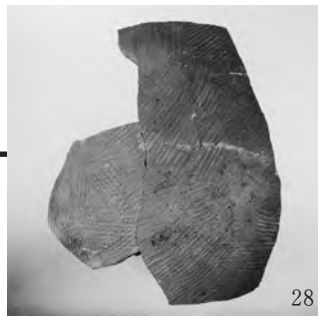
出土遺物

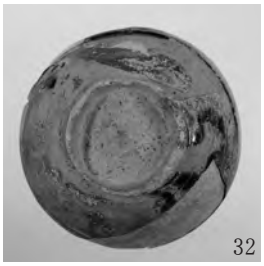

27

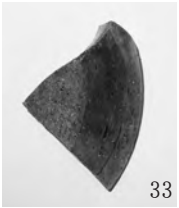


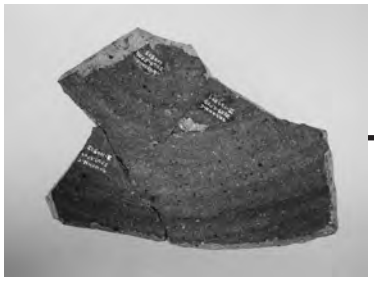

29

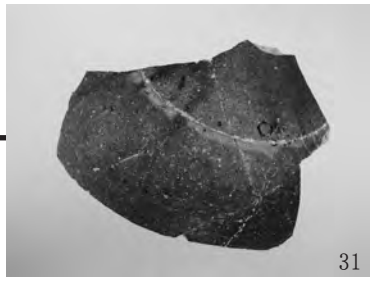

30

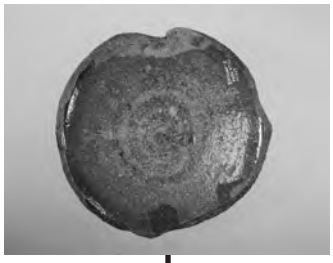

28

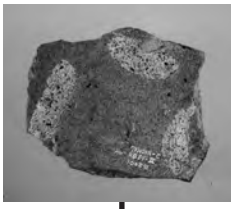

32

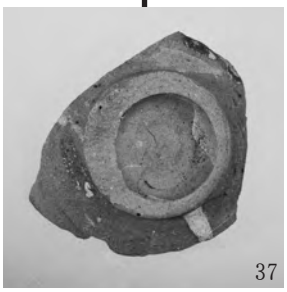

33

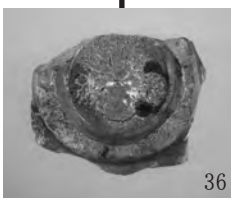


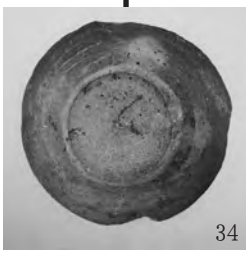

31



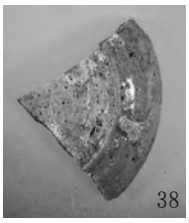


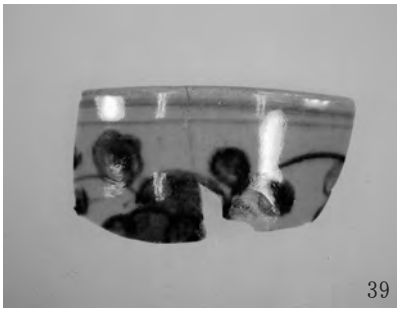

37

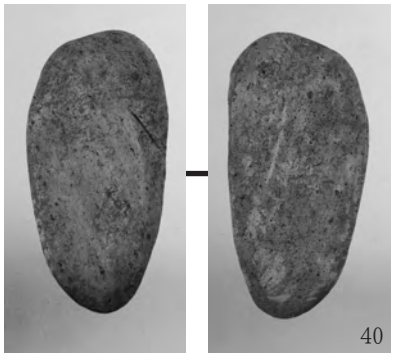

36


34

35


38


39


40

出土遺物

15

18

16

木製品

19

20

21

木製品

報　告　書　抄　録

ふ　り　が　な	きたならおかなかのいせき
書　　名	北楢岡中野遺跡
副　書　名	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	Ⅳ
シ リ ー ズ 名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第482集
編 著 者 名	栗澤光男　高橋和成　佐々木尚人
編 集 機 関	秋田県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒014－0802　秋田県大仙市払田字牛嶋20　　TEL　0187-69-3331
発 行 年 月 日	西暦2012年10月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
北楢岡中野遺跡 （きたならおかなかのいせき）	秋田県大仙市 （あきたけんだいせんし） 北楢岡字中野 （きたならおかあざなかの） 184外 （ほか）	05212	－	39° 30′ 49″	140° 22′ 45″	20100726 ～ 20101119	10,900㎡	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る事前発掘調査

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特 記 事 項
北楢岡中野遺跡	散布地	縄文時代			縄文土器、石器	中世のかまど状遺構を33基検出した。
	散布地	弥生時代			弥生土器	
	集落跡	平安時代	柱穴様ピット	9基	土師器、須恵器	
	集落跡	中世	掘立柱建物跡	1棟	陶器	
			竪穴建物跡	3棟		
			かまど状遺構	33基		
			焼土遺構	2基		
			井戸跡	15基		
			土坑	22基		
	集落跡	近世	井戸跡	5基	陶磁器	
			土坑	2基		
			溝跡	3条		
			柱穴様ピット	5基		
		時期不明	溝跡	15条		
			柱穴様ピット	351基		

要　　約	検出遺構と出土遺物から北楢岡中野遺跡は、主に13世紀～16世紀に営まれた中世の集落跡と考えられる。また、中世のかまど状遺構が33基検出されたことから、これらを用いた作業場の可能性も考えられる。このほか縄文時代、弥生時代、平安時代、近世（江戸時代）にも利用された場所であることがわかった。

秋田県文化財調査報告書第482集
北楢岡中野遺跡
－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－

印刷・発行　平成24年10月

編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014－0802　大仙市払田字牛嶋20番地
電話(0187) 69－3331 FAX(0187) 69－3330

発　　行　秋田県教育委員会
〒010－8580　秋田市山王三丁目１番１号
電話(018) 860－5193

印　　刷　株式会社　三森印刷